

文化庁委託事業

ウィズコロナにおける オンライン日本語教育実証事業 事業報告書

令和5年2月



三菱UFJリサーチ&コンサルティング

— 目次 —

はじめに	1
1. 事業背景・目的	1
2. 事業の期間	1
3. 業務実施計画	1
(1) 自主事業概要.....	1
(2) 実証事業概要.....	2
4. 事業実施体制	3
(1) 実施体制	3
(2) 事業の実施概要.....	4
(3) 事業全体のスケジュール.....	5
第Ⅰ章 自主事業で実施した日本語教師研修について.....	6
1. 自主事業の日本語教師研修について.....	6
(1) 目的	6
(2) 実施事項	6
2. 日本語教師研修の実施概要.....	6
(1) 日本語教師研修（理論研修）の実施内容.....	6
(2) 日本語教師研修（実践研修）の実施内容.....	10
3. 日本語教師研修の実施結果.....	12
(1) 日本語教師研修（理論研修）の参加者アンケート.....	12
(2) 日本語教師研修（実践研修）の参加者アンケート.....	16
第Ⅱ章 自主事業で開発したオンライン教育プログラムについて.....	19
1. 自主事業のオンライン教育プログラムについて.....	19
(1) 目的	19
(2) 実施事項	19
(3) 実施期間	19
(4) オンライン教育プログラムのモデルコース実証参加校.....	19
2. オンライン教育プログラムのモデル開発.....	20
(1) オンライン教育プログラムのモデルコース開発内容.....	20
3. オンライン教育プログラムのモデルコース開発事業の実施結果.....	33
(1) オンライン教育プログラムのモデルコース実証参加校へのアンケートの結果..	33
第Ⅲ章 日本語教育機関が実施したオンライン教育の実証結果.....	37
1. 実施概要	37
(1) 公募について.....	37
(2) 実証事業の実施について.....	38
(3) 日本語教育機関について.....	39

(4) 実証内容のマトリクス.....	40
(5) 弊社の伴走支援について.....	40
2. 各日本語教育機関の取組について.....	41
(1) 当事業に参加した日本語教育機関一覧（都道府県順）.....	41
(2) 実証期間	42
(3) 受講者実績	42
(4) 取組内容について.....	43
3. 当事業におけるグッドプラクティスについて.....	44
(1) グッドプラクティスについて.....	44
(2) グッドプラクティス集の構成.....	44
(3) グッドプラクティス一覧.....	46
第Ⅵ章 日本語教育機関の実証事業の評価（計測）について	48
1. 実証事業の実施概要.....	48
(1) 日本語教育機関によるオンライン授業の実証分析の考え方.....	48
(2) 実施事業の効果を分析するためのフレーム（ロジックツリーの検討と成果指標）	49
2. 実施結果	53
(1) アンケート実施概要.....	53
(2) 受講者本人の調査（事前調査と事後調査、ヒアリング結果概要）	54
(3) 日本語教育機関の講師の調査（事前調査と事後調査、ヒアリング結果概要） ..	56
(4) 日本語教育機関管理者の調査（事前調査と事後調査、ヒアリング結果概要） ..	58
(5) アンケート結果を踏まえたロジックモデルの修正案.....	60
3. 事前・事後アンケートデータ.....	61
(1) アンケート回答者の概要学習者.....	61
(2) 学習者の事前・事後データ.....	62
(3) 日本語教師の事前・事後データ.....	75
(4) 日本語教育機関責任者の事前・事後データ.....	81
(5) プログラムの難易度別の事前・事後データ.....	87
4. 事業報告会の実施概要.....	111
(1) 中間報告会の開催について.....	111
(2) 最終報告会の開催について.....	111
おわりに.....	112
1. オンライン日本語教育への期待と提言.....	112
(1) 言語活動別、レベル別、手法別でのオンライン日本語教育の可能性.....	112
(2) 日本語教育の参照枠への対応.....	114
(3) 留学生のためのオンライン日本語教育の可能性.....	114
(4) 生活者等のためのオンライン日本語教育の可能性.....	115

(5) 就労のためのオンライン日本語教育の可能性.....	115
(6) 日本語教師におけるオンライン日本語教育・ICT 活用のスキル向上	115
(7) 日本語教育機関におけるオンライン・ICT 活用環境の整備	116
2. 今後に向けて	117
(1) 学習者へのオンライン日本語教育の周知.....	117
(2) オンライン学習教材の開発.....	117
(3) 地域、企業とオンライン日本語教育実施機関とのマッチング.....	117
(4) ICT を活用した自律的かつ継続的な日本語学習	117

はじめに

1. 事業背景・目的

新型コロナウイルス感染拡大による入国制限などの影響により、我が国に入国できない外国人留学生に対して、効果的なオンライン教育を施し、自主事業および実証事業として分析することで、その方法やノウハウを汎用化することを目的とする。

昨今、オンライン教育は増えてきているものの、各教育機関の取組は区々であり、統一された日本語教育の標準や参照枠がないため、個々の指標に基づき、レベルや判定基準等が設定されている。質の高い日本語教育をオンライン環境において実現する。

上記の事業目的を達成するために、本事業では、以下の内容について取り組んだ。

2. 事業の期間

令和4年5月16日～令和5年2月28日

3. 業務実施計画

(1) 自主事業概要

① 事業全体の実証・報告会の開催及び実証結果等の分析

(事業全体とは実証事業も含む。)

日本語教育機関と協力・連携し、多様な学習の取組結果を分析し具体的な数値等に示し、既存の日本語教育の枠を超えて将来の日本語教育のモデルを構築する。

なお、実証事業では、その効果を的確に把握するための指標を設定し、事前の状態と事後の状態を把握し、その関係性を分析する。実証事業実施の際には弊社研究員および再委託先メンバーが伴走支援をしながら効果的に状況を把握する。

事業報告会においては、日本語教育に限らない多方面の有識者・関係者を招聘し、事業の成果を報告し、ノウハウの汎用化と好事例の横展開を図る。

② 日本語教師研修

実証事業に参加する日本語教育機関の日本語教師を中心に、日本語教育の参照枠の理解、オンライン日本語教育、オンデマンド、ICTの活用等に関する理論を理解したうえで、オンライン授業の進め方や授業に用いる資料の作り方等の具体的な実践方法を学び、より効果的なオンライン日本語教育の実施に繋げる。

③ モデル開発等事業

自主事業で開発するオンライン教育プログラムは以下の通りである。

- (1) 「留学生としての外国人」向けオンライン日本語教育プログラム開発
- (2) 「就労者としての外国人」向けオンライン日本語教育プログラム開発
- (3) 「生活者としての外国人」向けオンライン日本語教育プログラム開発
- (4) オンライン日本語教育のためのLMS（学習管理システム）の開発

④ その他の取組

実証事業の対象者（海外在住の日本語学習希望者）となる受講者の募集等の周知を行う。

事前の教育機関ヒアリングによると、留学候補者を確保できていない日本語教育機関は多く、本事業に際しては、留学候補者を紹介しマッチングすることが有用であることがわかっている。

（実施内容）

- 1）留学候補者の募集・確保を実施する。
- 2）出願資格要件を満たす留学候補者を日本語教育機関に紹介（マッチング）する。
- 3）日本語教育機関は、留学候補者と話を進め、日本留学の意思確認を取る。
- 4）該当する留学候補者を対象に、オンライン日本語教育の実証を行う。

（想定 of 留学候補者の数）

約 2,000 名程度を確保の目標人数とする。

上記は、株式会社インジェスター（本事業の再委託先）が有する SNS 上で管理する約 3 万 7 千人の人材ネットワークを活用することで目標人数を確保できる見込みである。

（想定 of 国籍）

インドネシア、フィリピン、タイ、ベトナム、ネパールなどの東南アジアの留学生

(2) 実証事業概要

① 想定する公募内容

全国の「法務省告示校」を公募対象とし、広く募集する。

日本語教育の実状、ニーズから既存の日本語教育の枠を超えて、実用的な日本語能力を習得できる質の高い日本語教育モデルを提示・実証できる日本語教育機関を審査、選定する。

② 公募時期・回数等

文化庁との委託契約後の令和 4 年 4 月中旬から 5 月にかけて 2 回の公募を実施する。1 次公募は 4 月中旬に公募をかけて 4 月中に事業を採択する（5 件程度）。2 次募集は 4 月下旬に公募を行い 5 月中に事業を採択する（25 件程度）。2 回目の公募で 30 機関が集まらなかった場合は、3 回目の公募（4 回まで想定）を実施する。いずれも、日本語教育機関からの企画提案受付と審査および採否を決定する。採用した企画の計画書を用意し、文化庁の承認、教育機関との委託契約を経て、実証事業を開始する。

③ 公募方法

HP 上で公募内容の掲載と応募受付を設置し、申請を受け付ける。応募に必要な

書類等はダウンロードできるようにする。SNSやホームページによるプル情報発信とメール配信、架電などのプッシュ情報発信、説明会の開催などのインタラクティブコミュニケーションにより集める。

説明会は、令和4年4月下旬から5月中旬にかけて複数回の実施を想定している。加えて、日本語教育機関の横のつながりを活用した紹介を促していく。

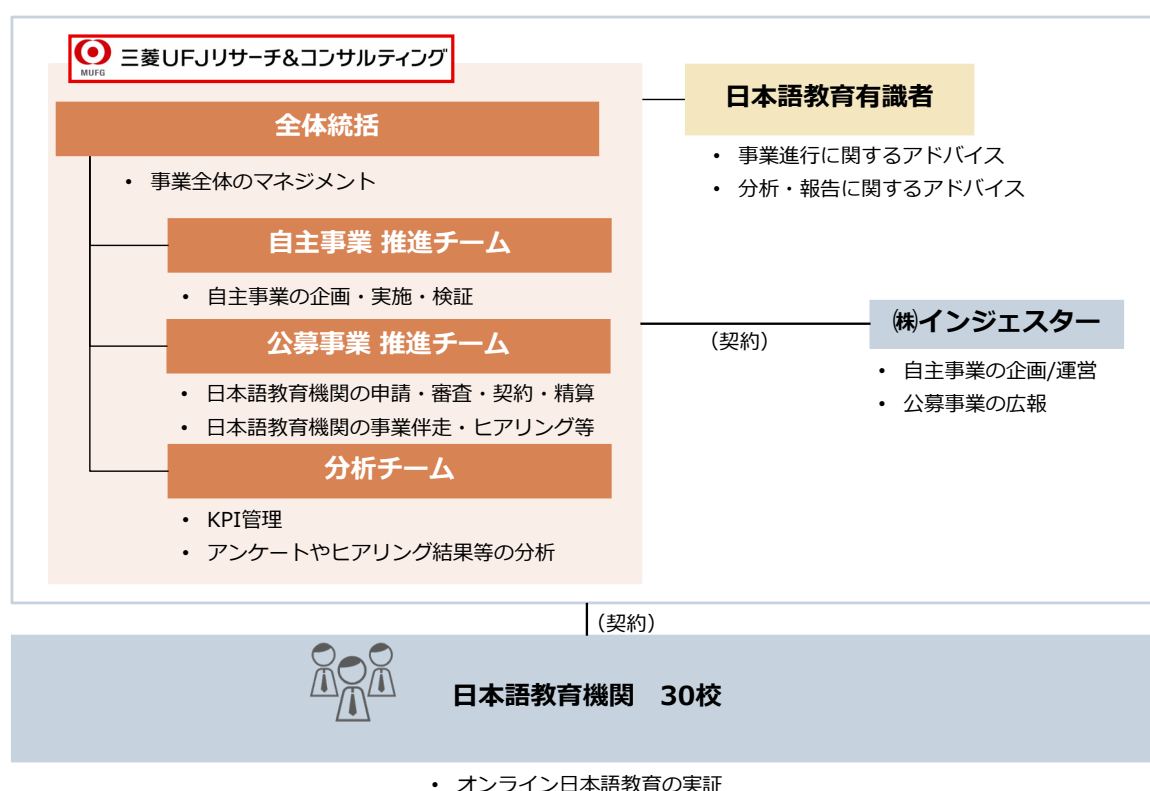
④ 著作権の取扱い

公募で契約した日本語教育機関に対し、著作権についての研修を行うことにより、著作権法違反が生じないように図るとともに、オンライン授業の利点を活かし、録画などを通じて著作権に関する管理監督を行う。

4. 事業実施体制

(1) 実施体制

実施体制は、以下の通りとした。



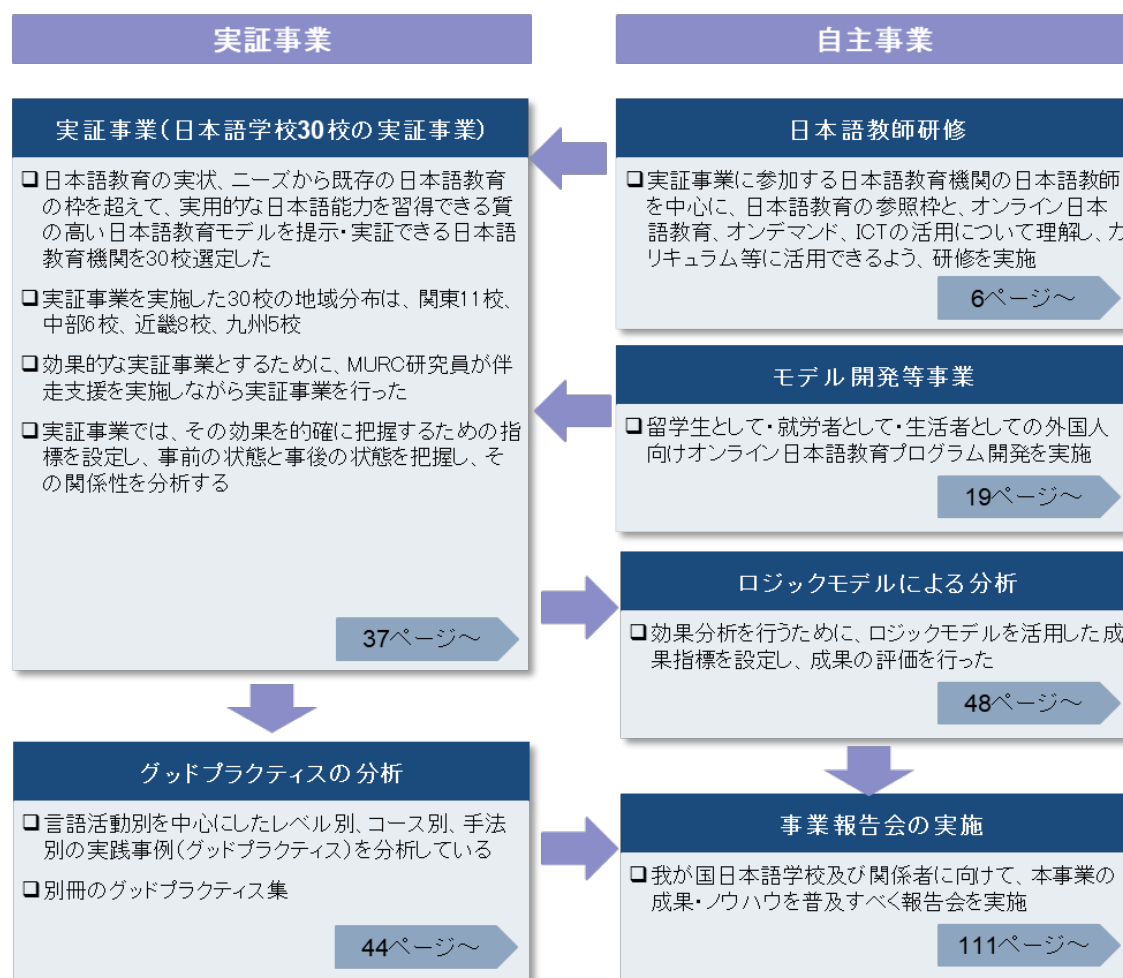
事業進行、分析・報告に関して日本語教育の有識者からなる会議「選考委員会」「事業報告会」「評価検証委員会」を開催した。有識者は以下の通り。

＜有識者会議（「選考委員会」「事業報告会」「評価検証委員会」） 委員＞

氏名	所属・役職
神吉 宇一	武蔵野大学 グローバル学部 日本語コミュニケーション学科 准教授
古川 智樹	関西大学 国際部 教授 国際教育センター 副センター長
矢崎 理恵	社会福祉法人さぽうと21 学習支援室チーフコーディネーター

(2) 事業の実施概要

「自主事業」および「実証事業」の構造は、以下の通り。



(3) 事業全体のスケジュール

事業全体のスケジュールは以下の通り。

	業務項目	実施日程											
		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月		
自主事業	①モデル開発・モデルコースの実施												
	②日本語教師研修の開催												
実証事業	①日本語教育機関の公募・審査・選定												
	②選定した日本語教育機関の取組のマネジメント/相談対応												
共通	①事業全体の報告会												
	②オンライン日本語教育の実証結果分析												
	③報告書												

第Ⅰ章 自主事業で実施した日本語教師研修について

1. 自主事業の日本語教師研修について

(1) 目的

実証事業に参加する日本語教育機関の日本語教師を中心に、日本語教育の参照枠の理解、オンライン日本語教育、オンデマンド、ICTの活用等に関する理論を理解したうえで、オンライン授業の進め方や授業に用いる資料の作り方等の具体的な実践方法を学び、より効果的なオンライン日本語教育の実施に繋げる。

(2) 実施事項

以下にて、理論研修および実践研修を実施した。

	開催日	実施方法
理論研修	7月12日（火）、16日（土）、30日（土）	ZOOM
実践研修	9月20日（火）、21日（水）、26日（月）	ZOOM

2. 日本語教師研修の実施概要

(1) 日本語教師研修（理論研修）の実施内容

① 目的

- ・ 日本語教育の参照枠と、オンライン日本語教育、オンデマンド、ICTの活用について理解し、日本語教育機関のカリキュラム等に活用することを目指す。
- ・ 2名の有識者の指導のもと、グループによる意見交換やICTの使い方の体験なども実施する。

② 講師

- ・ 講師は、以下の2名にて実施した。

名前	神吉宇一	古川智樹
職名	武蔵野大学 グローバル学部 日本語コミュニケーション学科 准教授	関西大学 国際部 教授
歴任	・ 文化庁地域日本語教育アドバイザー ・ 文化庁日本語教育の質の維持向上の仕組みに関する有識者会議委員 ・ 東京都地域日本語教育総合調整会議座長 ・ 元日本語教育学会副会長	・ 国際教育センターセンター長 ・ 国際教育センター副センター長 ・ 一般社団法人 Transcend-Learning 理事 ・ 日本私立大学団体連合会日本語教育推進運営委員会委員 ・ 公益財団法人吹田市国際交流協会評議員

③ 実施概要

日程	全3回構成 第1回 7月12日、第2回 7月16日、第3回 7月30日	
参加者	計135名	
講師・ 講義内容	神吉宇一（武蔵野大学准教授） ■ 日本語教育の参照枠を教育現場で活用するために 1. 日本語教育の参照枠の考え方 2. 日本語教育の参照枠の活用 3. 市民性教育、共生社会と日本語教育 4. 質疑応答	古川智樹（関西大学教授） ■ 日本語教育におけるオンライン授業・ICTの活用法 1. はじめに 2. eラーニングからEdTechへ 3. 利用できるものは利用しようーICT活用のススメー 4. 教育現場のこれから…

④ 研修内容

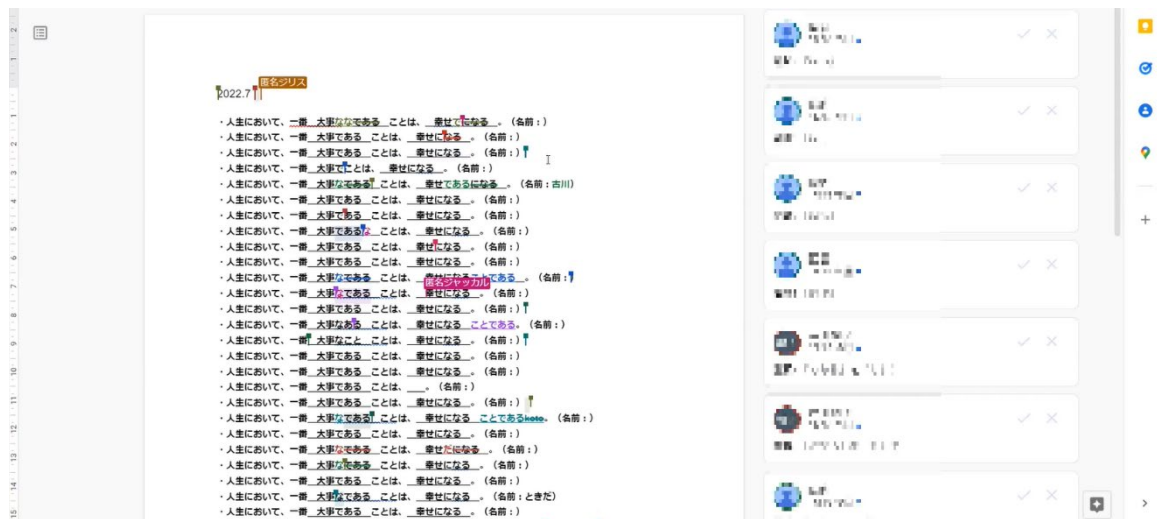
神吉宇一（武蔵野大学准教授）

研修項目	研修内容
1. 日本語教育の参照枠の考え方	・ 日本語教育の標準や日本語能力の判定基準についてなど、現状の日本語教育における課題等を確認。 ・ 日本語教育の対象者、目的、分野によって整理し議論する必要性を確認。 ・ 日本語教育の参照枠の理念を確認（CEFRが思想的な基盤）。
2. 日本語教育の参照枠の活用	・ 参照枠による社会的効果として、教育機関・日本語教師においては、分野や状況に応じた学習目標、教育内容、評価が可能であることを確認。 ・ 参照枠が「四つの能力」、「五つの言語活動」、「六つのレベル」で構成されていることを確認。 評価における留意事項を確認。
3. 市民性教育，共生社会と日本語教育	・ 市民性教育及び共生社会と日本語教育の関係について、「価値観」、「態度」、「スキル」、「体系的な知識と批判的な理解」による民主的な文化への能力を踏まえることの重要性を確認。
4. ディスカッション 質疑応答	・ 研修内容を踏まえてディスカッション、質疑応答を実施。

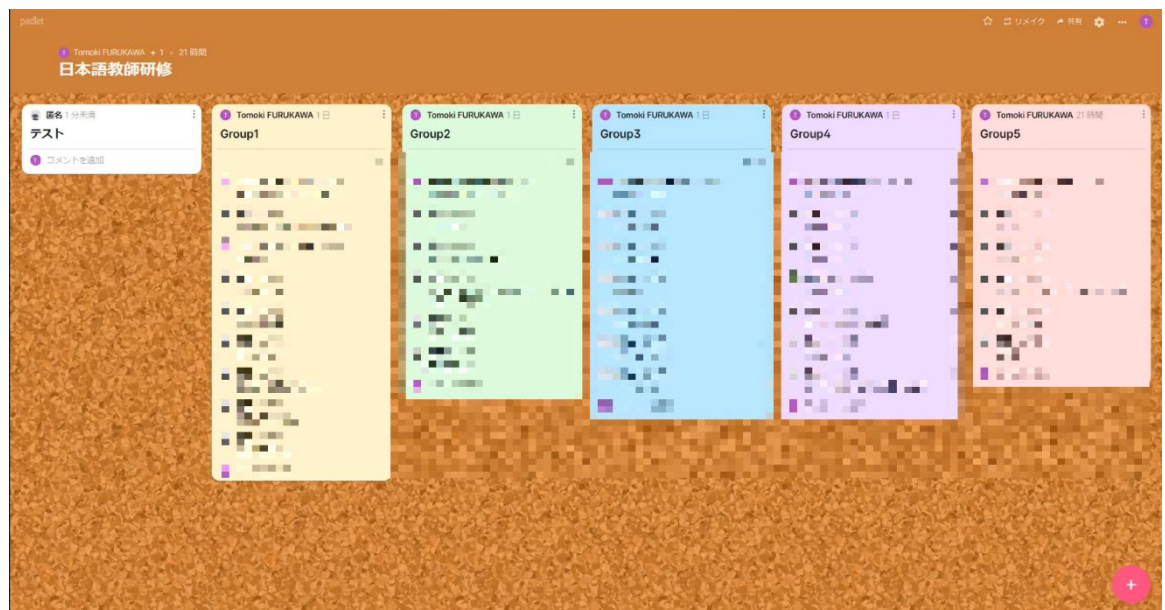
古川智樹（関西大学教授）

研修項目	研修内容
1. はじめに	・コロナ禍による突然のオンライン対応について、参加者の状況を Zoom 内のアンケート機能を活用して確認。 ・日本語教育で ICT を活用することに対してどんなイメージ・どんな気持ちか、について、参加者の状況を Zoom 内のアンケート機能を活用して確認。 IT、ICT、EdTech の言語の説明・確認。
2. e ラーニングから EdTech へ	・e ラーニングから EdTech への変遷について確認。 ・両者の長所・短所を確認。 ・ハイフレックス授業（オンラインの学習者と対面の学習者が混在）の事例紹介。 ・ハイフレックス授業における配慮事項等の紹介、確認。 ・ハイフレックス授業において活用できるツールやアプリの紹介、確認。 ・目的に合わせた使い分けの重要性を確認。
3. 利用できるものは利用しようーICT活用のスケー	・授業で利用できる ICT の体験 ・体験① オンライン共同編集ツール：Google Document （使用場面：文作成・作文＋添削） ・体験② オンライン掲示板ツール Padlet （使用場面：グループプロジェクトワーク） ・体験③ バーチャル空間ツール oVice （使用場面：オンライン授業、グループワーク） ※後述のツール内容参照
4. 教育現場のこれから…	・3D 仮想空間メタバース等での授業、テクノロジーの発展、学習の最適化（学習ログの教育利用）、デジタル証明書（マイクロクレデンシャル）の兆候等を紹介、確認。
5. まとめ	・世界の留学生の獲得競争が始まっているなかで、デジタルネイティブの世代に対する日本語教育・価値の周知の重要性を確認。その上でのオンラインの授業の重要性と臨み方を再確認。 ・研修内容を踏まえてディスカッション、質疑応答を実施。

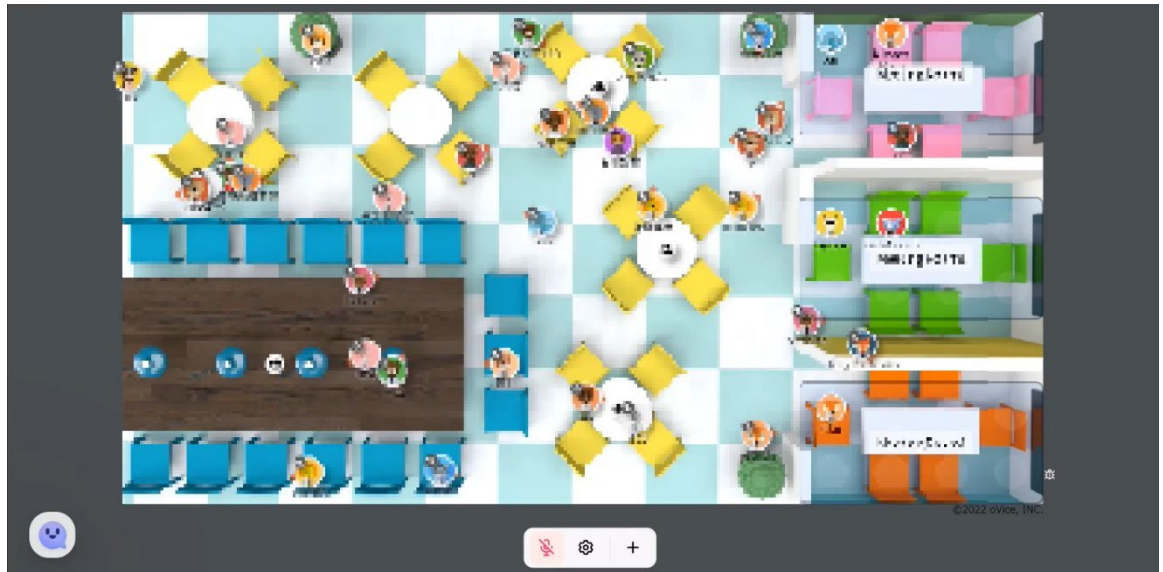
【オンライン共同編集ツール：Google Document】



【オンライン掲示板ツール：Padlet】



【バーチャル空間ツール：oVice】



(2) 日本語教師研修（実践研修）の実施内容

① 目的

- ・ オンライン授業や、ハイブリッド授業において、資料作成の仕方と活用方法を学び、いかに学習者たちに考えさせ、協働的に問題を解決していくかブレイクアウト機能などを交えて実践的に学ぶことを目指す。

② 講師

名前	新藤 恵
職名	東京ベイ日本語学院 教務主任

③ 実施概要

日程	9月20日、9月21日、9月26日
参加者	計26名
講義内容	■ 有識者による日本語教師向け実践研修 ① 参加者によるグループディスカッション ② オンライン授業用資料の作成と資料の活用方法 ③ ブレイクアウトルームを使用した実践的な授業体験

④ 研修内容

研修項目	研修内容
1. 参加者によるグループディスカッション	・ 以下のテーマについて参加者によるグループディスカッションを実施。ディスカッション後、意見交換を実施。 ① オンライン授業をこれまで行ったことがありますか？（工夫点、困った点）

	②オンライン授業と対面の授業（個人的にハイブリッド授業と呼んでいます）を行ったことがありますか？（工夫点、困った点） ③対面授業のメリットとデメリットは？ ④オンライン授業のメリットとデメリットは？
2. オンライン授業用資料の作成の作成と資料の活用方法	・文字の大きさ、音声の貼り付け、スライドショーのデメリットと工夫について確認。 ・音声の貼り付け、スライドショーのデメリットと工夫について、講師による実演により具体的な方法を確認。
3. ブレイクアウトを使用した実践的な授業体験（初級編）	・ブレイクアウトルームを活用し、参加者が学習者役となり初級レベルの模擬授業を実施。その後、体験した感想や課題等を共有。 ・ブレイクアウトルームを活用した授業について、配慮事項等を確認。
4. ブレイクアウトを使用した実践的な授業体験（中・上級レベル編）	・ブレイクアウトルームを活用し、参加者が学習者役となり中級レベルの模擬授業を実施。その後、体験した感想や課題等を共有。 ・ブレイクアウトルームを活用した授業について、配慮事項等を確認。
5. まとめ	・オンライン授業は、「学習者たちに考えさせ、協働的に問題を解決していく授業」であることを確認。 ・教師は、「答えを言わない」、「話しすぎない」、「指示をしっかりと」、「暗示的に伝える」ことの重要性を確認。 ・また、「学習者が話す量」を重視することを確認（できることが多くなる参照枠として）。

3. 日本語教師研修の実施結果

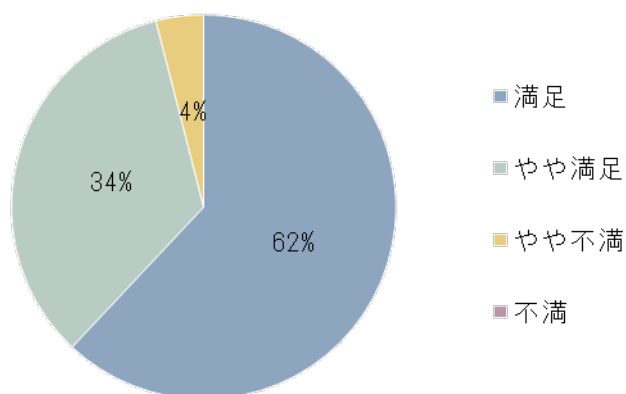
(1) 日本語教師研修（理論研修）の参加者アンケート

日本語教師研修（理論研修）においては、全体の満足度が「満足」「やや満足」を合わせて96%が満足となった。

日本語教育の参照枠の活用については、「活用していた」が8%に留まるものの、研修によって参照枠の知識と情報について「多く得られた」34%、「ある程度得られた」58%となり、参照枠への理解が進んだ。

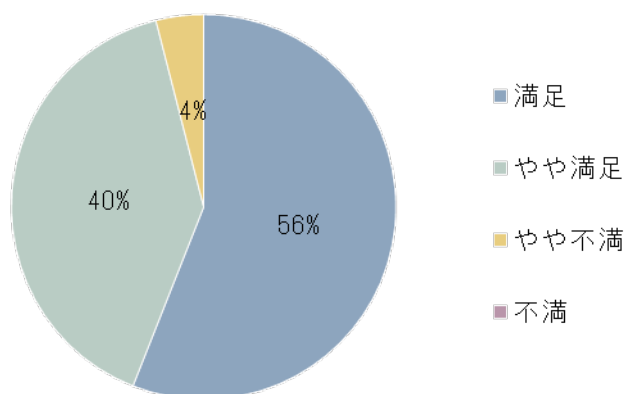
オンライン日本語教育の実施状況としては、「オンライン日本語教育実施」が63%となり、オンライン日本語教育の知識と情報について「多く得られた」38%、「ある程度得られた」60%となり、オンライン日本語教育への理解が進んだ。

【全体の満足度】



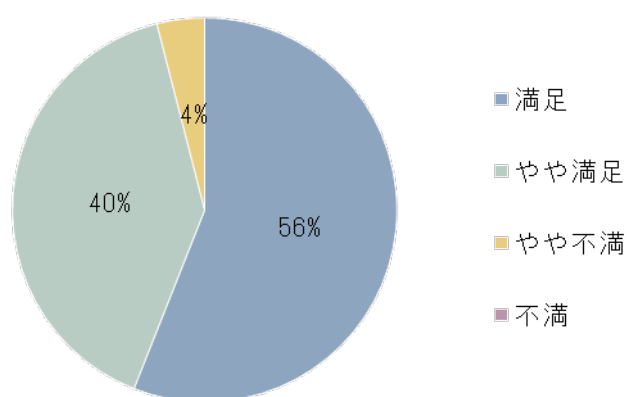
(n=50)

【講師に対する満足度（神吉先生）】



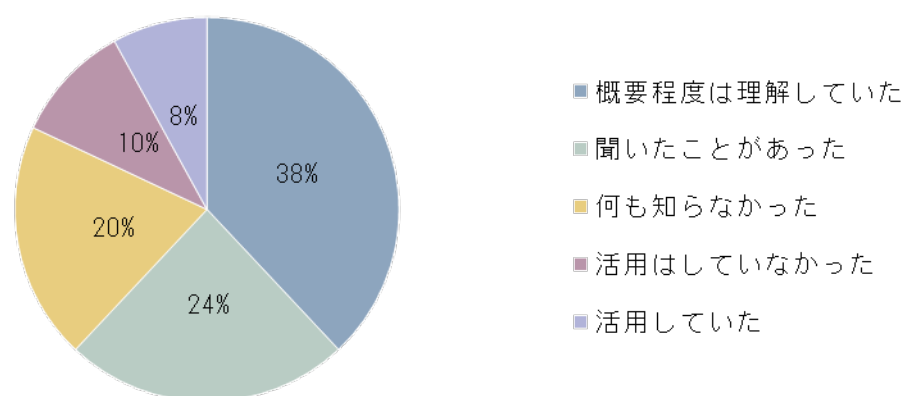
(n=50)

【講師に対する満足度（古川先生）】



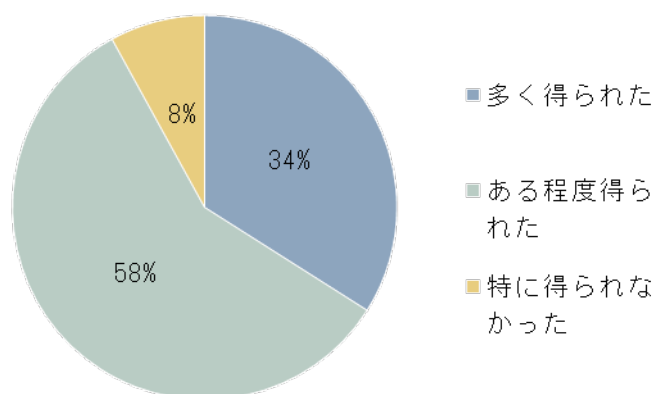
(n=50)

【研修を受ける前の日本語教育の参照枠の活用】



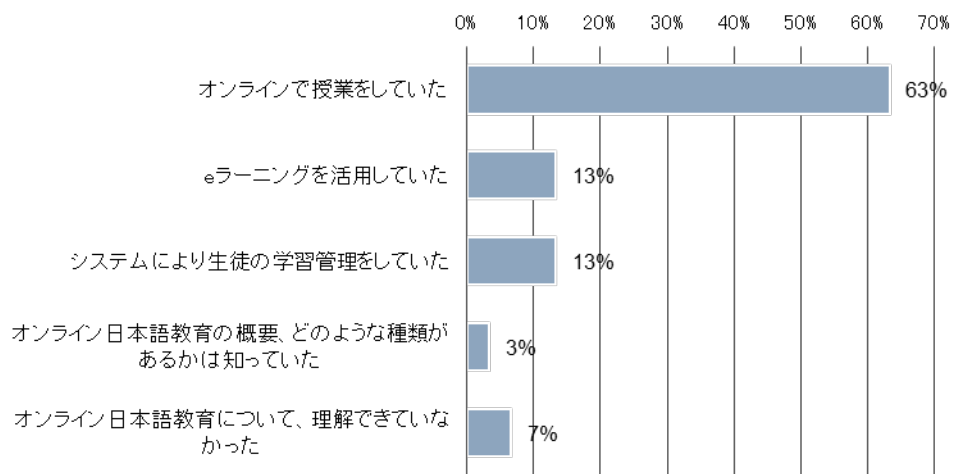
(n=50)

【研修を受けた後の参照枠の知識と情報について】



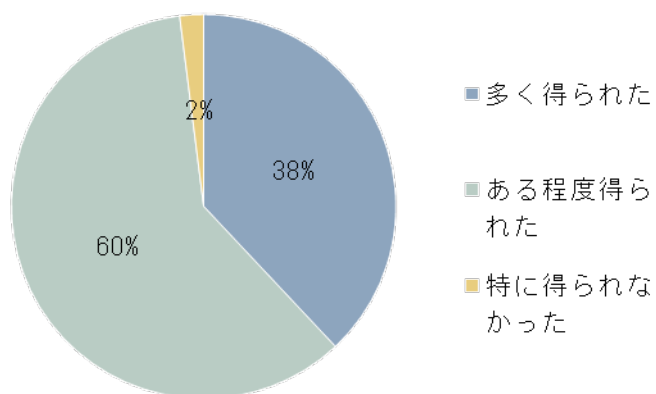
(n=50)

【研修を受ける前のオンライン日本語教育の実施状況】



(n=50)

【研修を受けた後のオンライン日本語教育の知識と情報について】



(n=50)

【自由記述欄の抜粋】

＜日本語教育の参照枠について＞

- ・参照枠が日本社会に浸透していくことを願っています。
- ・「日本語教育の参照枠」の効果的活用方法
- ・参照枠の具体的活用（留学、介護、ビジネスなど、多様な学習者にどのように活用するか知りたい）
- ・具体的に何をすべきなのかを教えてくださいたいと思います。

＜オンライン日本語教育について＞

- ・実用技術 APP の使用を知りたい。
- ・実際のオンライン日本語教育現場を色々体験してみたい。
- ・メタバースの活用事例を知りたい
- ・オンライン授業の具体的な実践方法についての講義を聞いてみたい。
- ・アンテナを張り、新しい環境を整えていければと自分への課題ができました。
- ・すばやく集計できる、便利なツールだと思いました。
- ・ツールを活用できていないとますます感じました。
- ・早速調べて活用したいと思います。

＜共通＞

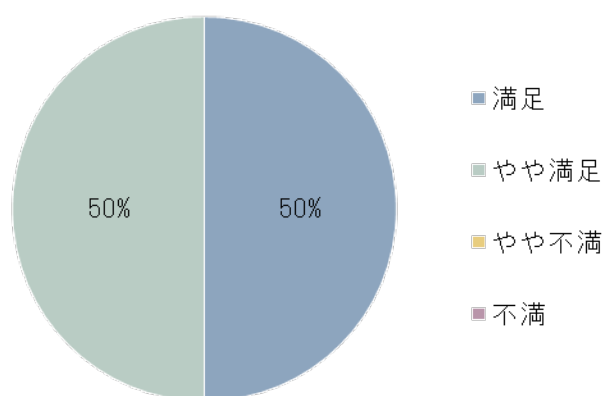
- ・定期的な研修開催を切望いたします。
- ・無理のなさそうなところから試していきたいと思います。
- ・お二人の先生の講義と、グループでほかの先生とお話できて、大変刺激になりました。
- ・専門職の資格試験を変えていくことはできないのかなと思いました。

(2) 日本語教師研修（実践研修）の参加者アンケート

日本語教師研修（実践研修）においては、全体の満足度が「満足」「やや満足」を合わせて100%が満足する結果となった。

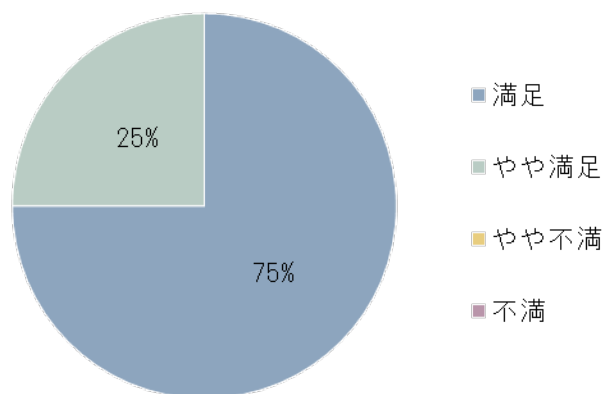
オンライン日本語教育の知識と情報について「多く得られた」25%、「ある程度得られた」75%となり、オンライン日本語教育への理解が進んだ。

【全体の満足度】



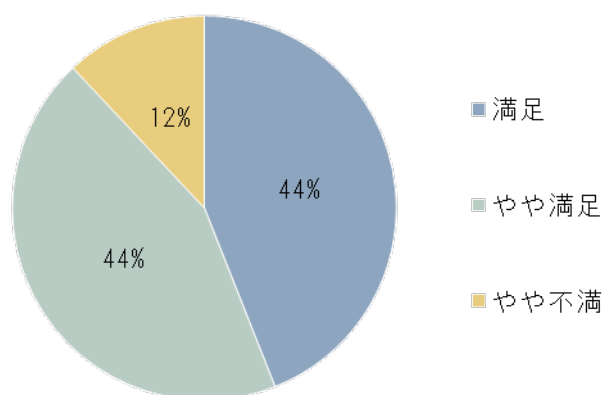
(n=16)

【研修内容に対する満足度】



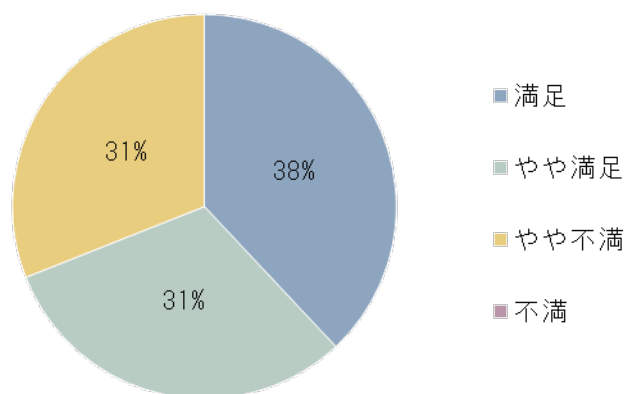
(n=16)

【ブレイクアウトルームを使用した実践的な授業体験（初級編）に対する満足度】



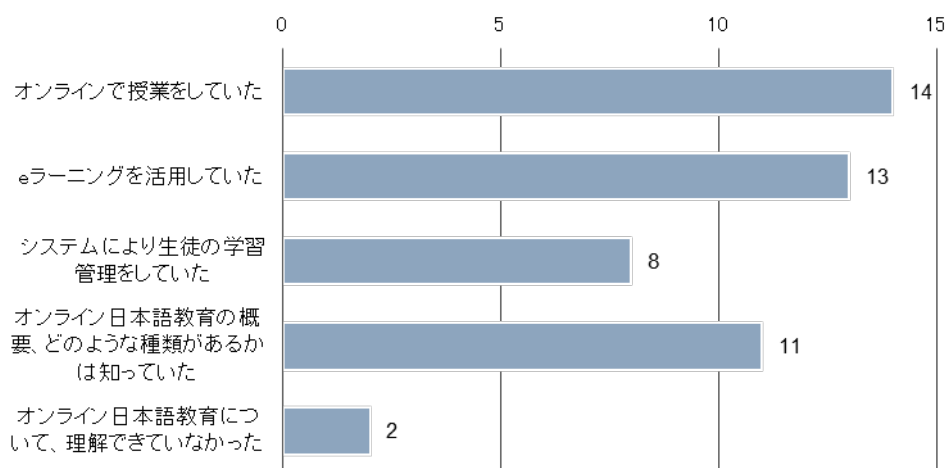
(n=16)

【ブレイクアウトルームを使用した実践的な授業体験（中・上級レベル編）に対する満足度】



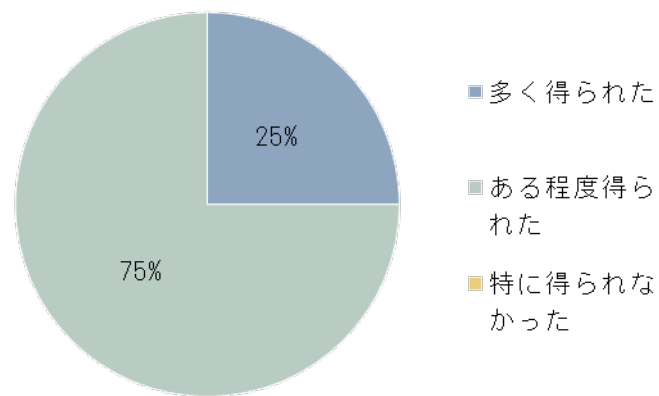
(n=16)

【研修を受ける前のオンライン日本語教育の実施状況】



(n=16)

【研修を受けた後のオンライン日本語教育の知識と情報について】



(n=16)

【自由記述欄の抜粋】

- ・ブレイクアウトルームについて、より知識がたかまった。
- ・グループディスカッションの時間がもう少し長ければよい。
- ・今まで使用していないスキルが身に付いた。
- ・具体的な授業の組み立てのヒントを知りたいです。
- ・大変わかりやすい講義、ありがとうございました。

第Ⅱ章 自主事業で開発したオンライン教育プログラムについて

1. 自主事業のオンライン教育プログラムについて

(1) 目的

海外の留学の候補者及び留学以外も含めた日本語の初級学習者を対象に、日本での留学、生活、就労に求められる日本語能力の向上に向け、参照枠を取り入れた教育プログラムを開発する。

また、LMS を活用し学習者の進捗に応じた学習が行えるプログラムとする。

(2) 実施事項

○オンライン教育プログラムの開発

- ① 留学生（初学者）向けコース
- ② 生活者（初学者）向けコース
- ③ 就労者向けコース

○LMS の開発

(3) 実施期間

開発期間：2022 年 9 月～2022 年 12 月

実証期間：2023 年 1 月～2023 年 2 月

(4) オンライン教育プログラムのモデルコース実証参加校

自主事業で開発したオンライン教育プログラムのモデルコースに参加した日本語教育機関は下記の 4 校 13 クラスである。

コース	実証参加校
留学生向けコース	SPC Japanese College 国際語学学院（2 クラス） AJS 国際学園（8 クラス）
生活者向けコース	神村学園専修学校
就労者向けコース	国際語学学院

2. オンライン教育プログラムのモデル開発

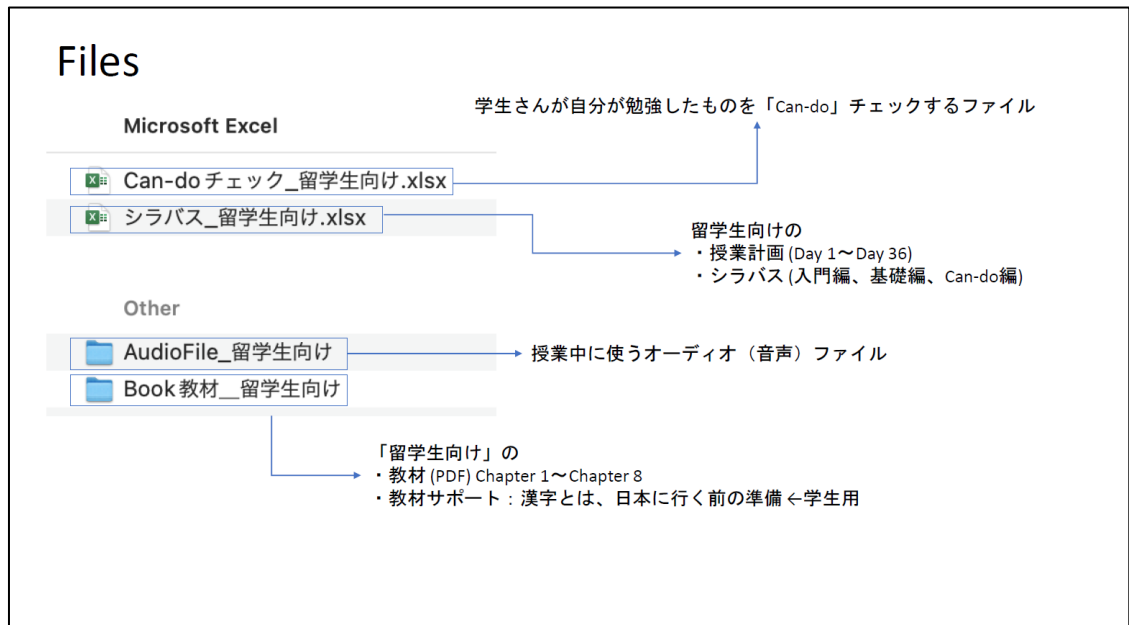
(1) オンライン教育プログラムのモデルコース開発内容

① 留学生（初学者）向けコース

1. 目標	日本語の初学者向けに、ゼロから日本語を学習できるコースである。「日本語教育の参照枠」を反映したオリジナルコースで、ひらがなの学習からスタートし、「全体的な尺度」 A1（初級）レベルの日本語能力の熟達を目標とする。
2. 開発担当者と属性	インジェスター システム担当と日本語開発チーム
3. 実証参加機関と参加者の属性	本コース希望日本語教育機関 2校 11 クラス 入門者・初学習者（海外在住の高校生など） 日本での留学を目指す海外学習者
4. カリキュラム内容	【入門編】 第1課（1週目）自己紹介（あいさつ・よく使う表現・数字） 第2課（2週目）好きな食べ物 【基礎編】 第3課（3～4週目）私の日常（1日の行動・今週の予定） 第4課（5～6週目）趣味 第5課（7～8週目）友達と話す 【Can-do 編】 第6課（9週目）日本に到着（家・学校） 第7課（10-11週目）学校での会話（先生/友人） 第8課（12週目）乗り物に乗る（電車/バス） 第9課（13週目）お店で食事（ファストフード/レストラン） 第10課（14週目）お店で買い物（コンビニ/スーパー/デパート）
5. 活用方法	オンライン双方向（Zoom） グループワーク 自己学習（宿題）
6. 参考図書	『Nihongo Fun and Easy』、『まるごと Starter (A1)』 『TRY! 日本語能力試験 N5』、『みんなの日本語初級1』
7. 学習環境	インターネット環境 Zoom オンライン接続デバイス、またはオンライン教室など 自己学習接続デバイス等
8. カリキュラム概要	12週間（1.5時間/1回 週3回 計36回・54時間）
9. 評価方法	週に2回の宿題のチェック、月末テスト

10. 実証における日本語能力評価の結果	多少のばらつきはあるが、ひらがな・カタカナの読み書き、感想の発言、質問の聞きとり等、「全体的な尺度」 A1（初級）レベルの日本語能力の熟達を達成できた。
11. 実証における活用効果・成果	【話す（やり取り）】 相手がゆっくり、はっきり話すことに対し、簡単なやり取りができ、自分や家族のことに関する質問に答えられるようになった。 【話す（発表）】 話す能力は発音も改善され、各段に上達した。自分や家族のことを簡単な語句や文を使って話すことができるようになった。 【聞く】 ゆっくり、はっきりと話せば、質問を正確に聞き取ることができ、聞き返すこともできるようになった。 【読む】 ひらがな、カタカナは問題なく読めるようになり、単純な文章をスムーズに感情を込めて読めるようになった。 【書く】 短い簡単な文章であれば精度が高いものを書けるようになった。 【日本事情・日本理解】 自分の好きなアイドルやアニメ、漫画日本の日常生活や伝統文化、料理について積極的に発言できるようになった。
12. 課題／改善点	日本語教師、現地学習者のシステム操作経験不足等により学習の進捗が難しい面もあったことから、活用するための研修等を十分に行う必要がある。LMS の重さ等も課題となったことから、アジア等の狭帯域でもスムーズに活用できる方法等の検討が必要である。また、モチベーションがキープできずに離脱した学習者もいたことから、モチベーションを保つ仕組みも必要である。 LMS システムでは、使いやすさ等の面で利用者からの意見を元に、継続して改善していく。

【学習資料（ファイル構成）】



【学習資料（教材構成）】

CONTENTS 目次	
学生用のサポート教材です。 学生が自分で勉強するものです。 オンラインレッスン中には使いません。	THINGS I HAVE TO KNOW! 漢字とは？ What is Japanese Kanji? i 日本に行く前に知らない！ Before Start Living in Japan v
ユニット名 ユニットのテーマ	UNIT 1.1 自己紹介 Self-Introduction 1
レッスン内容	あいさつ＆よくつかうひょうげん Greetings & Useful Expressions 2 おしごとは？ (What is) your job? 3 ～です＆～じゃないです Affirmative: ...desu & Negative: ...janai desu 4 すうじ 1～99 Numbers 1 to 99 5 かんじ Kanji 8
ユニットまとめの問題になります。 作文等の問題もあるため、 オンラインレッスン中に 時間が無くなったら、宿題になります。	もんだい Questions 9 Audio Script 10 単語リスト Word List 11
作文等以外の問題の答え	回答 Answer Sheets 12
	UNIT 1.2 自己紹介 Self-Introduction 13 にほん、にほんじん、にほんご Japan, Japanese, Japanese Language 14

教材の順番

単語 → 文法 → 例文 → 練習 → 漢字 → 問題

単語

日本に到着しました
Arrived at Japan

くうこう
Kuukou
Airport



ひこうき
Hikouki
Airplane



パスポート
Pasupooto
Passport



チケット
Chiketto
Ticket



マスク
Masuku
Mask



出発 (しゅっぱつ)
Shuppatsu
Departure



到着 (とうちゃく)
Touchaku
Arrival



入管検査
Immigration

にゅうかん けんさ
Nyuukan Kensa
Immigration Check

絵カード
Word Card

文法

先生が教えるもの

文法
Grammar

乗り物に乗るとき、「～にのります」を使いましょう。
乗り物を降りるとき、「～をおります」を使いましょう。
⇒ 「(乗り物) + で + いきます」

Points:

- When you ride, use ～にのります (...ni norimasu) = to ride on ...
- When you get off, use ～をおります (...wo orimasu) = to get off/out from the...
- Use particle で (de) to explain about the means of transportation

→ Form: (name of transportation) + で + いきます

文法
Grammar

学生は日本語がまだ初心者のレベルなので、
先生の説明を聞きながら、
学生が理解しやす苦するために、
ちゃんと英語での説明が書いてあります。

音声ファイルあって、
ウィンドウズメディアプレイヤー等に
レッスン中で再生してください。

例文



かいわのれい
Conversation Example

- ジョン : くうこうから しんじゅく駅(えき)まで タクシーですか。
Kuukou kara Shinjuku-eki made takushii desu ka?
電車(でんしゃ)ですか。
Densha desu ka?
山田先生 : そうですね。タクシーは はやいですが、ぜったいに たかいですね。
Sou desu ne. Takushii wa hayai desu ga, zettai ni takai desu ne.
ジョン : 電車で いきますか。
Densha de ikimasu ka?
山田先生 : はい、電車で いきましょう。
Hai, densha de ikimashou.
ええと、つぎの 電車は あと 15ふんで、しゅっぱつです。
Eeto, tsugi no densha wa ato 15 fun de, shuppatsu desu.
つぎの 電車に のりましょう。
Tsugi no densha ni norimashou.

- (アナウンス : まもなく しんじゅくに とうちゃくします。)
(Anaunsu: Mamonaku Shinjuku ni touchaku shimasu.)

ジョン : つぎは しんじゅくですね。
Tsugi wa Shinjuku desu ne.
山田先生 : すごい! 「しんじゅく」ときけましたね。
Sugoi! "Shinjuku" to kikemashita ne.
はい、つぎは しんじゅくです。
Hai, tsugi wa Shinjuku desu.
つぎの 駅に おりましょう。
Tsugi no eki ni orimashou.

辞書で言葉を調べるのは
まだできないため、
追加の単語リストになります。
英語の意味も書いてあります。

Hint:

- はやい = fast
- ぜったいに = absolutely
- まもなく = in a moment soon

訓読み・音読みの勉強はなしで、
とりあえず、この漢字の意味が分かったら、
日本に留学するときの生活に役に立ちます。



えき



漢字

① 駅



5

もんだい Questions

問題



日本語に翻訳しましょう。
Let's translate into Japanese.

- Excuse me, where is the station? Is it far?
.....
- The train is fast but inconvenient.
Because the luggage is a lot. Let's ride a taxi.
.....
- Where is the South Entrance? This is the West Entrance, right?
.....
- Let's get off at the next station.
.....
- Let's ride the bus. Because the apartment is very near to the bus stop.
.....

【授業計画案】

授業計画		月	火	水	木	金
入門編	1週目	オンライン授業(1)	LMS	オンライン授業(2)	LMS	オンライン授業(3)
	【第1課】Part 1 自己紹介	1. 挨拶＆よく使う表現 2. お仕事は？ 3. 文法(～です＆～じゃないです) 4. 練習 *話す(やり取り)・書く・読む	宿題 (1)	1. 数字 今年は何歳ですか 2. 練習 3. 自己紹介 Part 1 (発表) *話す(発表)・話す(やり取り)・書く・読む・聞く	宿題 (2)	1. レビュー 2. 漢字 3. 問題
	2週目	オンライン授業(4)	LMS	オンライン授業(5)	LMS	オンライン授業(6)
	【第1課】Part 2 自己紹介	1. 日本、日本語、日本人 2. ～ができます。～はできません。 3. 練習 *話す(やり取り)・書く・読む	宿題 (4)	1. なにが好きですか。 2. ～が好きです。 ～は好きじゃないです／～はちよつと。 3. 自己紹介 Part 2 (発表) *話す(やり取り)・書く	宿題 (5)	1. レビュー 2. 漢字 3. 問題
	3週目	オンライン授業(7)	LMS	オンライン授業(8)	LMS	オンライン授業(9)
	【第2課】 好きな食べ物	1. 食べ物＆飲み物 2. ～を食べます。～を飲みます。 3. 好き／きらいな食べ物は… 4. ～がきらいです。～はきらいじゃないです。 5. 練習 *話す(やり取り)・書く・聞く	宿題 (7)	1. 日本よりうちはなにが好きですか。 2. ～がおいしいです。～はおいしいくないです 3. おいしいですから、いっしょにたべませんか。 4. 練習 *話す(やり取り)・書く	宿題 (8)	1. レビュー 2. 漢字 3. 問題

【学習資料（第1課：自己紹介（挨拶））】

1 あいさつ & よく つかう ひょうげん

Greetings & Useful Expressions

あいさつ
Greetings

World Card

おはようございます
Ohayou gozaimasu
Good morning

こんにちは
Konnichiwa
Hello; Good afternoon

こんばんは
Konbanwa
Good Evening

Nina こんにちは。はじめまして、ニナです。よろしく おねがいします。

Konnichiwa. Hajimemashite, Nina desu. Yoroshiku Onegaishimasu.
Hello. How do you do, (I am) Nina. Nice to meet you.

• One better say "Hajimemashite" before presenting their names.

• Don't forget to end them with "Yoroshiku Onegaishimasu" it literally means "Please be good to me".

いただきます
Itadakimasu

ごちそうさまでした
Gochisou sama deshita

Say "Itadakimasu" before you eat, and "Gochisou sama deshita" after you finish eating.

すみません
Sumimasen

ごめんと
Gomen to

よびかけるとき
to call out someone

あやまるとき
to apologize

おれいをいうとき
to express thanks

2 おしことは？

What is your Job?

サラリーマン
Sarariman
Office Worker (male)

せんせい
Sensei
Teacher

がくせい
Gakusei
Student

だいがくせい
Daigakusei
University Student

OL
Oeru
Office Worker (female)

かいしゃいん
Kaishain
Office Worker

IT エンジン
IT Enjinia
IT Worker

しゅふ
Shufu
Housewife

Did you know?

- "Sarariman" is one example of Janglish (for some may say English or Japlish, etc.) In Japan, a Salary-man is a salaried worker, whose income is salaried based. A noun for a Japanese white-collar businessman.
- "Using the word "Sensei" apply not only for teacher. A "Manga-ka" for example, can also be called "Sensei", "Oda-Sensei works is amazing!"

よみましよう
Let's Read

1. はじめまして、ニナです。わたしは がくせいです。よろしく おねがいします。

2. はじめまして、ワンです。わたしも がくせいです。よろしく おねがいします。

3. はじめまして、ジェームズです。わたしは だいがくせいです。よろしく おねがいします。

4. はじめまして、ジョンです。わたしも だいがくせいです。よろしく おねがいします。

Japanese language use "particles"

- は "wa" is to show you where is the subject or topic of the sentence
- も "mo" when you want to say "also"

3 〜です & 〜じゃないです

Affirmative: ...desu & Negative: ...janai desu

文法

「〜です」は、現在肯定形です。
「〜じゃないです」は、現在否定形です。

Affirmative (Noun)	Negative (Noun)
こうこうせい Koukousei desu	こうこうせいじゃないです Koukousei janai desu
だいがくせい Daigakusei desu	だいがくせいじゃないです Daigakusei janai desu

Points:

1. Use 〜です (...desu) to set the Noun into Affirmative form.

2. Use 〜じゃないです (...janai desu) to set the Noun into Negative form.

れいぶん (Example Sentences):

1. わたしは こうこうせいです。だいがくせい じゃないです。
Watashi wa koukousei desu. Daigakusei janai desu.

2. ジェームズさんは だいがくせいです。こうこうせい じゃないです。
Jeemuzu san wa daigakusei desu. Koukousei janai desu

！ れんしゅうしましょう
Let's practice

日本語に翻訳しましょう
Translate into Japanese

れい (Example):
James is not a highschool student. (He is) a university student.
ジェームズさんは こうこうせい じゃないです。だいがくせいです。

1. Nina is a high school student.
.....

2. Wang is also a high school student.
Not a university student.
.....

3. Ms. Yamada is a Japanese language teacher.
Not an English language teacher.
.....

4. Ms. Samantha is an English teacher.
.....

5. Anna is an IT engineer. Not a student.
.....

ヒント:

- Japanese Language Teacher: ほんごの せんせい
- English Language Teacher: えいごの せんせい

文法

さくら

4 すうじ 1〜99

Numbers 1 to 99

文法

1	いち	ichi
2	に	ni
3	さん	san
4	よん	yon
5	ご	go
6	ろく	roku
7	なな	nana
8	はち	hachi
9	きゅう	kyuu
10	じゅう	juu

よみましよう
Let's Hear

でんわ ばんごうは...
Denwa ban-gou wa...
My telephone number is...

れい (Example):
05 - 1234 - 5678
05 - XXXX - XXXX
080 - XXXX - XXXX
XX - XXXX - XXXX

文法

Number 4 can also be read as "shi", and
Number 7 can also be read as "shichi".

11

じゅういち

Juu ichi

12

じゅうに

Juu ni

13

じゅうさん

Juu san

...

...

...

20

にじゅう

Ni juu

21

にじゅういち

Ni juu ichi

22

にじゅうに

Ni juu ni

...

...

...

90

きゅうじゅう

Kyuu juu

99

きゅうじゅうきゅう

Kyuu juu kyuu

26

② 生活者（初学者）向けコース

1. 目標	日本での生活を目指す海外の外国人や、日本国内で生活している外国人が生活上の基盤を形成するために必要となる日本語能力を向上させる、生活場面での実践的な日本語学習ができるコースである。 「日本語教育の参照枠」を反映したオリジナルコースで、「全体的な尺度」 A1 レベル（初級）の日本語能力の熟達を目標とする。
2. 開発担当者とその属性	インジェスター システム担当と日本語開発チーム
3. 実証参加機関と参加者の属性	本コース希望日本語教育機関 1校1クラス 入門者・初学習者 日本での生活を目指す海外学習者
4. カリキュラム内容	第1課（1週目） あいさつをする 第2課（2週目） 買い物する 第3課（3週目） 電車やバスにのる 第4課（4週目） 毎日することを話す 第5課（5週目） 食事をする 第6課（6週目） 予定やしたことを話す 第7課（7週目） 友達と話す① 第8課（8週目） 友達と話す② 第9課（9週目） 注意や指示を聞く 第10課（10週目） お願いをする 第11課（11週目） お礼を言う ・ 謝る 第12課（12週目） 誘う・断る・アドバイスする 第13課（13週目） 目上の人と話す（敬語） 第14課（14週目） くらべる・方法ややり方を説明する 第15課（15週目） アルバイトの面接を受ける 第16課（16週目） 様子を伝える 第17課（17週目） 病院へ行く 第18課（18週目） 困っていることを言う 第19課（19週目） 状況を説明する・感謝する 第20課（20週目） 旅行などの準備をする 第21課（21週目） 伝える 第22課（22週目） 社会や文化について話す 第23課（23週目） 不満を言う 第24課（24週目） 意見を言う
5. 活用方法	オンライン双方向（Zoom） グループワーク 自己学習（宿題）

6. 参考図書	『つなぐにほんご 初級1』『つなぐにほんご 初級2』を使用
7. 学習環境	インターネット環境 Zoom オンライン接続デバイス、またはオンライン教室など 自己学習接続デバイス等
8. カリキュラム概要	12週間（1.5時間/1回 週3回 計36回・54時間） 会話を中心に実践型の授業。 場面会話を想定し、会話で使った文型の確認・練習を行う。ペアワークで会話に慣れ、授業最後応用練習を行い会話の幅を広げる。
9. 評価方法	自己評価、文型テストによる評価、タスク発表パフォーマンス評価、授業参加態度評価、小テスト
10. 日本語能力評価の結果	日本での生活を目指す海外の外国人が生活上の基盤を形成するために必要となる日本語能力の向上はしたが、生活場面での実践的な日本語が使えるレベルまでは到達しなかった。 A1 レベル（初級）に熟達するには継続学習が必要である。
11. 実証における活用効果・成果	【話す（やり取り）】 友達との会話での、簡単なやり取りができるようになった。 スピードについて来られない人もおり、定着度が低い人もいた。 【話す（発表）】 覚えたフレーズや、自分のことについて簡単な語句での表現はできるようになった。自分の意見などの発表は難しい。 【聞く】 はっきり話す会話の内容は理解できるようになった。 【読む】 単純な文章は読むことができるようになった。 スクリプトを読むスピードは上がった。 【書く】 会話のキャプションの会話文を書くことや、友達が言った会話などを聞き書き取ることができるようになった。
12. 課題／改善点	実証授業においては、学習レベルの差が大きかったため、遅れている学習者のフォローが難航した。教師側もしっかり、学びなおしや練習などが必要である。 日本語教師、現地学習者のシステム操作経験不足等により学習の進捗が難しい面もあったことから、活用するための研修等を十分に行う必要がある。LMSの動作が重い点も課題となったことから、アジア等の狭帯域でもスムーズに活用できる方法等の検討が必要である。 コンテンツの範囲を広げ充実させていく。コンテンツ開発を継続して改善していく。

【学習資料 (Lesson1-1 ① はじめまして (抜粋))】

Lesson1-1

1-②場面会話の文字確認

こんにちは。
はじめまして。
サラです。

どうぞよろしく
おねがいします。



あ、はじめまして。
タンです。
どうぞよろしく
おねがいします。

9

Lesson1-1

1-②場面会話の文字確認

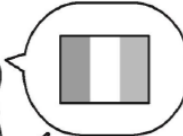
タンさん
おくにはどちらですか。



ベトナムです。

サラさんは？

サラさん？



わたしは
フランスです。

そうですか。

10

③ 就労者向けコース

1. 目標	日本での就労を目指す海外外国人向けに、就労場面に求められるコミュニケーションを可能とする、実践的な日本語学習ができるコースである。「日本語教育の参照枠」を反映したオリジナルコースで、「全体的な尺度」A2～B1（中級）レベルの日本語能力の熟達を目標とする。
2. 開発担当者とその属性	インジェスター システム担当と日本語開発チーム
3. 実証参加機関と参加者の属性	本コース希望日本語教育機関 1校1クラス A1～A2（N4取得者以上）レベルの学習者 就労を目指す海外学習者
4. カリキュラム内容	第1課（1週目）就職活動に向けた自己紹介・自己分析 第2課（2週目） 企業研究 第3課（3週目） 自己PR・履歴書・エントリーシート・異文化理解 第4課（4週目） 面接の受け方 第5課（5週目） 報告・連絡・相談 第6課（6週目） 仕事の敬語 ・仕事の挨拶 第7課（7週目） 電話を受ける・電話をかける・電話アポイントを取る 第8課（8週目） ビジネスメール 第9課（9週目） プレゼンテーション① 第10課（10週目）プレゼンテーション② 第11課（11週目）ケーススタディ① 第12課（12週目）ケーススタディ② 第13課（13週目）訪問する 第14課（14週目）会議 第15課（15週目）プレゼンテーション③ 第16課（16週目）プレゼンテーション④ 第17課（17週目）ケーススタディ③ 第18課（18週目）ケーススタディ④ 第19課（19週目）プレゼンテーション⑤ 第20課（20週目）プレゼンテーション⑥ 第21課（21週目）ケーススタディ⑤ 第22課（22週目）プレゼンテーション⑦ 第23課（23週目）ケーススタディ⑥ 第24課（24週目）プレゼンテーション⑧ プレゼンテーションやケーススタディは企業内外で起こりうる内容をトピックとする

	プレゼンテーション (例) 日本の社会活動についてのトピック ケーススタディは (例) 報連相、異文化理解などのトピック
5. 活用方法	オンライン双方向 (Zoom)、グループワーク、自己学習 (宿題)
6. 参考図書・ 使用教材	『伸ばす! 就活能力・ビジネス日本語力』を使用 (受講者 1 人 1 人に電子教材の購入が必要)
7. 学習環境	インターネット環境 Zoom オンライン接続デバイス、またはオンライン教室など 自己学習接続デバイス等
8. カリキュラム概要	1 日 1 コマ 90 分・週 3 回・12 週間 計 36 回 54 時間
9. 評価方法	自己評価 発表のパフォーマンス評価 提出物の評価 授業の参加態度評価
10. 日本語能力 評価の結果	開始時には、日本語能力が高い人 (C1 レベル) もいたが、A2 レベルの学習者もいた。レベル差があったが、全員が最後には自分の日本語能力が高くなった。自己評価により満足したことを実感した。
11. 実証における活用効果・成果	A2～B1 (中級) レベルの日本語能力の熟達はしたが、就労場面に求められるコミュニケーションを可能とする、実践的な日本語学習ができるレベルまでは到達できなかった。 【話す (やり取り)】 日常生活、仕事等の関心事について、正確ではなくともやり取りにおいて相互理解ができた。教師とのやり取りはできたが、学習者同士は難しかった。 【話す (発表)】 仕事用の自己紹介、希望等について簡単な文は言えるようになった。動詞の活用の不正確さはあるが、発表能力は向上した。 【聞く】 仕事の話について明瞭に話す先生の話であれば聞き取れるようになった。学習者同士の会話は、楽しんで理解している人もいた。 【読む】 教科書で語彙の提示があったビジネスの言葉がわかるようになった。漢字は読めても正確に書けない場合が多い。 【書く】 履歴書やメールを書くことができるようになった。
12. 課題／改善点	日本語教師、現地学習者のシステム操作経験不足等により学習の進捗が難しい面もあったことから、活用するための研修等を十分に行う必要がある。LMS の重さ等も課題となったことから、アジア等の狭帯域でもスムーズに活用できる方法等の検討が必要であ

る。また、モチベーションがキープできずに離脱した学習者もいたことから、モチベーションを保つ仕組みも必要である。
LMS システムでは、使いやすさ等の面で利用者からの意見を元に、継続して改善していく。

【学習資料（第1回 自己紹介）】

伸ばす就活能力・ビジネス日本語 1

自己紹介



じこしょうかい

自己紹介

しゅうしょくかつどう

めんせつ

ばめん

就職活動（面接）の場面で
自己紹介をする

10

伸ばす就活能力・ビジネス日本語 1

自己紹介



けいれき

せいり

経歴を整理する

1

しゅうしんこく
・出身国

しゅうしんち
・出身地

さいしゅうがくれき
・最終学歴

せんこう
・専攻

そつぎょうご けいれき
・卒業後の経歴

にほん き
・日本に来たきっかけ

にほん き
・日本に来てからの経歴

かいしゃ はい
・会社に入りたいことを伝える

2

はなしかた

かんが

話し方を考える

・どんな話し方をすればいいか ▶▶▶

13

④ LMS 開発

・使用システム：Moodle Workplace

概要と選定理由	特徴
世界標準LMSであるMoodleをベースに開発されたオンライン研修システム 複数の日本語学校が参加される本事業において、各日本語学校のデータや受講者の個人情報などを、他校がアクセスできないよう、制限を掛け、かつ、事務局としては同一システム内ですべての内容を管理できるテナント機能が実装されているため。	LMS内でオンライン授業への参加、課題の提出、受講者自身によるCan-Do チェック、テスト受験を完了できるように設計、構築 出席率/課題提出率、また、評点、評定などといった数値を一元管理できるように構築

3. オンライン教育プログラムのモデルコース開発事業の実施結果

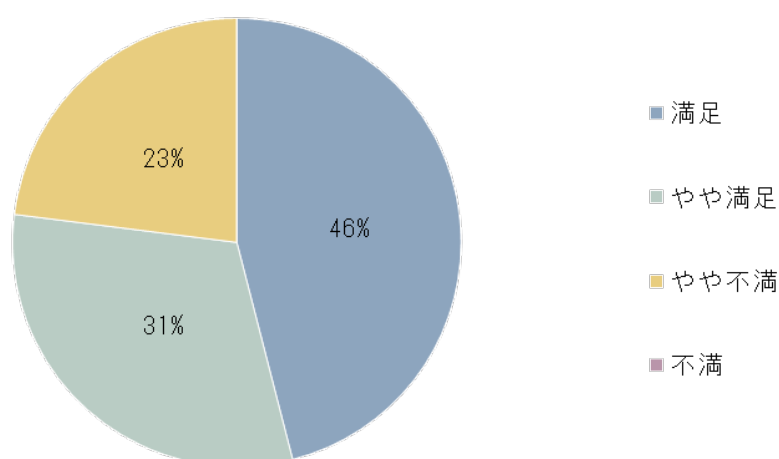
(1) オンライン教育プログラムのモデルコース実証参加校へのアンケートの結果

総合評価は「満足」「やや満足」を合わせて77%となった。学習者への効果・成長については「満足」「やや満足」を合わせて92%と高い満足度となった。

オンライン教育プログラムのLMS活用による効果測定・情報共有のしやすさへの評価とともに、システムへの慣れにより、より効果がでる等の意見があった。

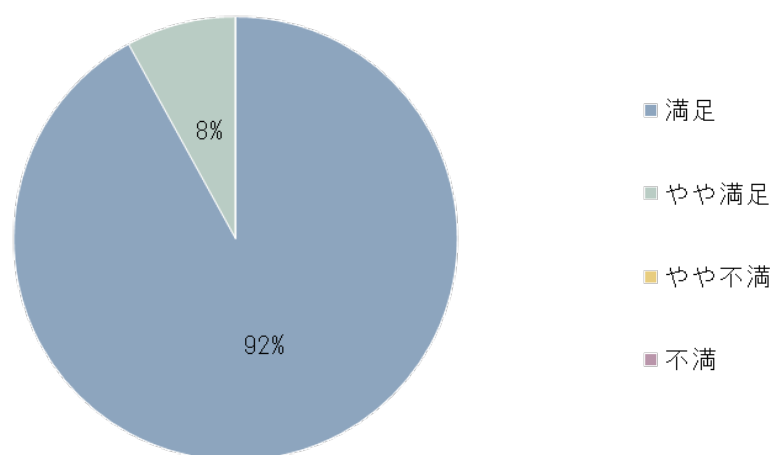
① オンライン教育プログラムのモデルコース開発事業のアンケート結果

【自主事業総合評価】



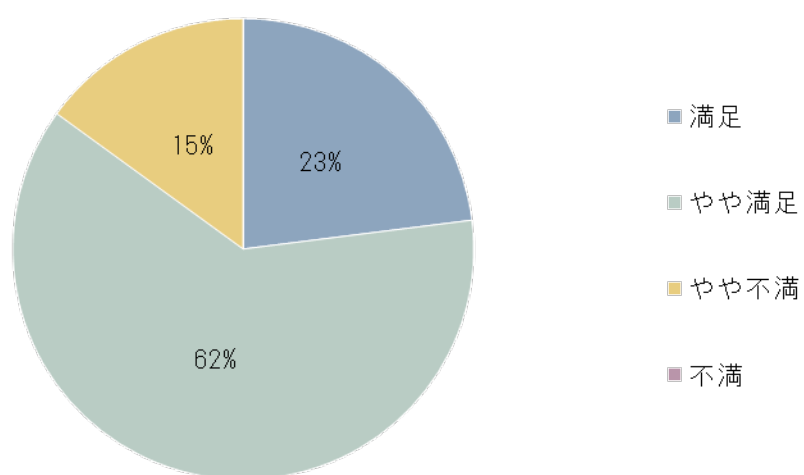
※4校（13クラス）の口頭によるアンケート集計（n=13）

【カリキュラムの使い勝手】



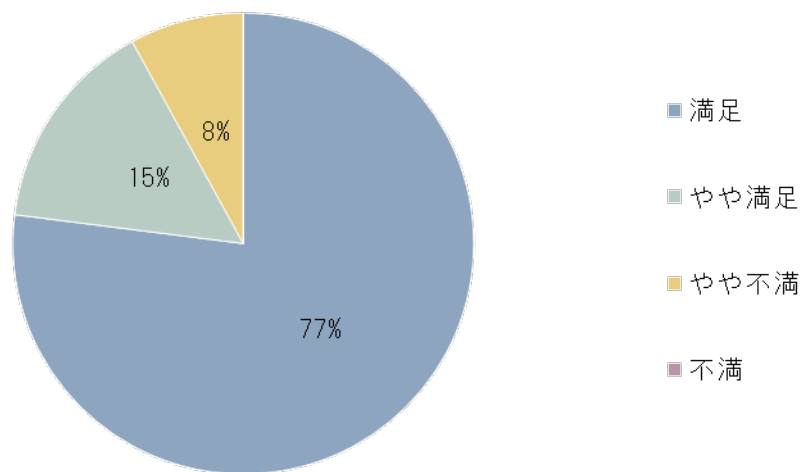
※4校（13クラス）の口頭によるアンケート集計（n=13）

【授業計画・進捗結果】



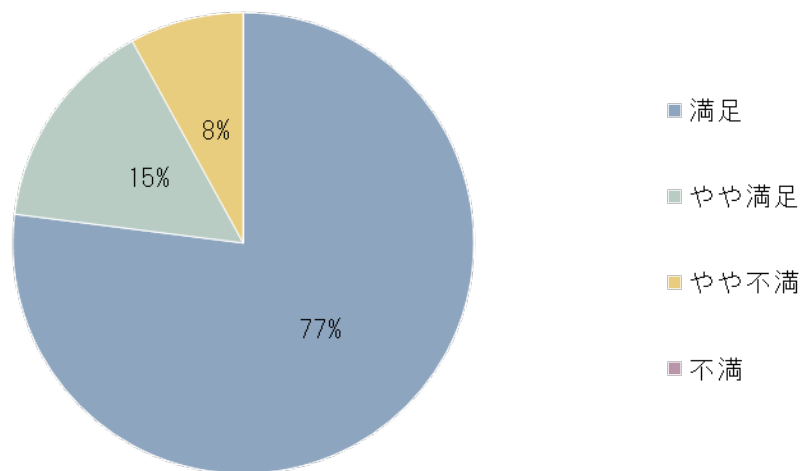
※4校（13クラス）の口頭によるアンケート集計（n=13）

【テスト・宿題活用効果】



※4校（13クラス）の口頭によるアンケート集計（n=13）

【学習者の効果・成長】



※4校（13クラス）の口頭によるアンケート集計（n=13）

② 自由記述欄の抜粋

【システムについて】

- ・小テスト等結果が数字化され、使い勝手が良かった。
- ・不慣れで使いこなすまでに時間がかかるが出来るようになった。
- ・入国前のパッケージ等、有料でも使いたい、続けると良い結果が出る。

【機能について】

- ・出欠などがリアルタイムで分かったのが良かった。
- ・画像やフラッシュカードを使えるのもっと良いと思う。
- ・リアルと違いフィードバックの赤ペン先生機能があるといい。

【学習者について】

- ・問題が簡単で、できる子たちは退屈だった。(クラス内レベル差)
- ・学習者は、慣れるまで時間がかかった。(システムを使ったことがない)
- ・宿題をやる人とやらない人が分かれた。モチベーションをキープする。

【全体について】

- ・LMS 導入により、効果測定、情報共有がしやすい。
- ・環境合わせる工夫や変更などルール化が必要である。
- ・継続して、より良い仕組みを作り続け、精度を高める。
- ・教師、学習者の教育・慣れにより、より効果出ると思われる。

第Ⅲ章 日本語教育機関が実施したオンライン教育の実証結果

1. 実施概要

(1) 公募について

① 事業の趣旨

本事業では、「実証事業」という趣旨を鑑み、多くの日本語教育機関による多様な「オンライン日本語教育」が実証されることを要件とした。

日本語教育において、進学、就職等のニーズから既存の日本語教育の枠を超えて将来の教育内容・教育環境も見据えた、オンライン教育手法と日本語教育の内容・指導法、評価手法を組み合わせできるだけ多様な日本語教育の実証を行うものとした。

② 事業の内容

1. 取組例

取組例を参照して取り組むとともに、例にないものについても必要に応じて取り組むこととした。

(取組例)

- ① オンライン日本語教育の授業・セミナー等
- ② オンライン日本語教育のカリキュラムの検討及び作成
- ③ オンライン日本語教育の教材の作成
- ④ オンライン日本語教育の日本語教師等研修
- ⑤ オンライン日本語教育に関連する取組
(受講者の募集等の周知、オンライン環境確保等)

2. 「オンライン教育手法」および「日本語教育の内容・指導法・評価手法」

以下の「オンライン教育手法」、「日本語教育の内容・指導法・評価手法」を組み合わせ、多様な内容の日本語教育を幅広く実証することとした。

(オンライン教育手法)

- 「ハイブリッド型」・・・対面授業とオンライン授業を組み合わせもの
- 「オンデマンド型」・・・録画した授業を配信するもの（反転授業の事前学習等）
- 「ハイフレックス型」・・・ハイブリッド型とオンデマンド型を組み合わせたもの

(日本語教育の内容・手法)

- 進学（大学、大学院、専門学校等）、就職（ビジネス）、一般（日常生活、一般教養等）の「コース別」
- 初級、中級、上級あるいは「日本語教育の参照枠」に示された A1、A2、B1、B2、C1 の「レベル別」
- 読む、書く、話す（やり取り・発表）、聞く等の言語活動による「教育内容（授業科目）別」
- 漢字圏・非漢字圏等の言語種別

③ 事務局による取組モデル

本事業の趣旨に添い、多様な日本語教育の実証を行うために、弊社内に設置された事務局が用意する取組モデルを参考にすることができるものとした。

取組モデルは、以下の8つとした。

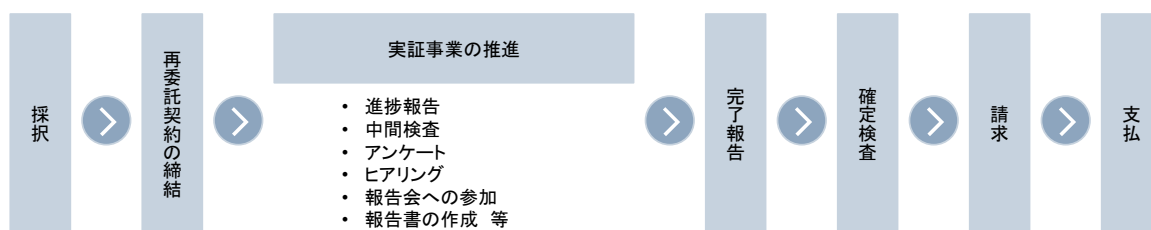
4つの参考コース、3つのオリジナルコース、日本語教育機関が独自でカリキュラム等を作成する場合や既存のカリキュラムを活用する場合のフリーコース（自由提案）とした。

no	コース名	目標レベル	対象	教材	期間
1	初学者コース	A1	初学者	TRY アスク出版	3 か月
2	初級コース	A2	N4 保持者	TRY アスク出版	
3	中級コース	B1	N3 保持者	TRY アスク出版	
4	準上級コース	B2	N2 保持者	TRY アスク出版	
5	【オリジナル】 留学生（初学者）向けコース	A1	初学者 留学生	オリジナル	
6	【オリジナル】 就労者向けコース	A2-B 1	初中級 就労者	オリジナル	
7	【オリジナル】 生活者向けコース	A1	初学者・ 初級 生活者	オリジナル	
8	フリー（自由提案）	募集要項に沿って自由提案			

(2) 実証事業の実施について

① 日本語教育機関の採択から支払いまでの流れ

日本語教育機関を採択し、以下の流れで実証事業を実施した。

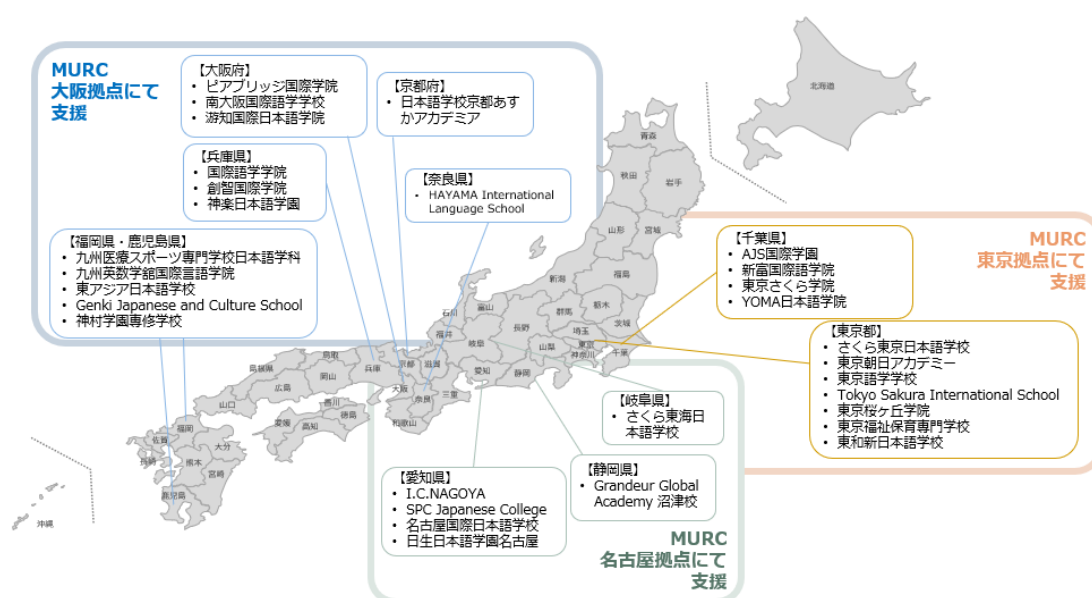


② 募集内容

時期	内容	備考
2022年5月24日（火）	公募HP立上げ	
5月27日（金）・5月30日（月）	公募説明会実施	説明会参加者：65名
5月30日（月）	日本語教育機関 申込開始	架電メール等によるPR：782校
9月30日（金）	日本語教育機関 受付終了	30校にて終了
2023年1月31日（火）	日本語教育機関 30校の実証期間終了	
2月1日（水）～10日（金）	報告書とりまとめ・事業費精算	

(3) 日本語教育機関について

実証事業を実施した 30 校の地域分布は、関東 11 校、中部 6 校、近畿 8 校、九州 5 校。効果的な実証事業とするために、弊社研究員が伴走支援を実施。



(4) 実証内容のマトリクス

以下の通り、各校で満遍なく取り組まれた。

レベル	言語活動	オンライン (双方向)のみ			ハイブリッド型			オンデマンド型			ハイフレックス型		
		進学	就職	一般	進学	就職	一般	進学	就職	一般	進学	就職	一般
A1	話す（やり取り）	36	11	15	13	4	2	25	7	6	5	3	3
	話す（発表）	29	10	9	12	4	1	23	7	4	4	3	2
	聞く	38	11	15	13	4	2	26	7	6	5	3	3
	読む	39	11	15	13	4	2	26	7	6	5	3	3
	書く	32	11	14	12	4	1	21	7	5	4	3	2
	日本事情・日本理解	10	7	4	1	0	1	8	5	1	0	0	0
	その他	6	2	3	1	1	0	3	0	1	0	0	0
A2	話す（やり取り）	16	9	8	8	4	2	11	5	5	5	4	2
	話す（発表）	14	7	6	7	4	1	9	5	3	4	4	1
	聞く	18	9	8	8	4	2	12	5	5	5	4	2
	読む	18	9	8	8	4	2	12	5	5	5	4	2
	書く	11	8	7	7	4	1	8	5	4	4	4	1
	日本事情・日本理解	6	2	3	1	0	1	5	2	1	0	0	0
	その他	3	3	1	1	1	0	2	1	1	1	1	0
B1	話す（やり取り）	5	2	5	7	3	3	2	0	1	0	0	0
	話す（発表）	3	2	3	5	3	1	1	0	0	0	0	0
	聞く	6	2	5	7	3	3	2	0	1	0	0	0
	読む	6	2	5	7	3	3	2	0	1	0	0	0
	書く	4	2	5	7	3	3	1	0	1	0	0	0
	日本事情・日本理解	1	0	2	3	0	3	0	0	0	0	0	0
	その他	2	1	1	1	1	0	1	0	1	0	0	0
B2	話す（やり取り）	3	1	4	5	2	3	1	0	1	0	0	0
	話す（発表）	2	1	3	3	2	1	0	0	0	0	0	0
	聞く	3	1	4	5	2	3	1	0	1	0	0	0
	読む	3	1	4	5	2	3	1	0	1	0	0	0
	書く	2	1	4	5	2	3	1	0	1	0	0	0
	日本事情・日本理解	2	0	2	3	0	3	0	0	0	0	0	0
	その他	1	0	1	1	1	0	1	0	1	0	0	0
C	話す（やり取り）	1	0	2	3	1	2	1	0	1	0	0	0
	話す（発表）	1	0	2	1	1	0	1	0	1	0	0	0
	聞く	1	0	2	3	1	2	1	0	1	0	0	0
	読む	1	0	2	3	1	2	1	0	1	0	0	0
	書く	1	0	2	3	1	2	1	0	1	0	0	0
	日本事情・日本理解	1	0	2	2	0	2	1	0	1	0	0	0
	その他	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0

(5) 弊社の伴走支援について

- ・事務局にて、日本語教育機関が不慣れな「申請」や「精算」の手続きについてきめ細かく支援した。
- ・担当研究員が、事前/事後アンケートのフォローや、ヒアリング等を通じ、実施内容を見える化した。
- ・中間報告会での各学校の発表を通じ、各学校の取組状況や、オンライン日本語教育全般の情報の共有を実施した。

時期	実施事項
申請時	・ 申請書類の確認、文化庁への申請までのフォロー
契約時	・ 当事業の趣旨を改めて説明 ・ 委託事業の契約・精算手続きについて説明 ・ 当該校への有識者からのコメント・アドバイスなどをフィードバック 等
事業期間中	・ 各日本語教育機関へ、フォローを兼ねたヒアリングを実施（事業開始時、中間、事業終了時 等） ・ 事前アンケート、事後アンケートのフォロー ・ 中間報告会の取組発表の学校用スライドの作成支援 ・ 中間報告会の当該校への有識者や他校からのコメント・アドバイスをフィードバック 等
事業終了時	・ 事業報告書の作成支援 ・ 事業経費報告書の作成支援、精算証憑の確認 等

2. 各日本語教育機関の取組について

(1) 当事業に参加した日本語教育機関一覧（都道府県順）

日本語教育機関名	
1	AJS 国際学園（千葉県）
2	新富国際語学院（千葉県）
3	東京さくら学院（千葉県）
4	YOMA 日本語学院（千葉県）
5	さくら東京日本語学校（東京都）
6	東京朝日アカデミー（東京都）
7	東京語学学校（東京都）
8	Tokyo Sakura International School（東京都）
9	東京桜ヶ丘学院（東京都）
10	東京福祉保育専門学校（東京都）
11	東和新日本語学校（東京都）
12	Grandeur Global Academy 沼津校（静岡県）
13	さくら東海日本語学校（岐阜県）
14	I. C. NAGOYA（愛知県）
15	SPC Japanese College（愛知県）
16	名古屋国際日本語学校（愛知県）
17	日生日本語学園名古屋（愛知県）

18	日本語学校京都あすかアカデミア（京都府）
19	ピアブリッジ国際学院（大阪府）
20	南大阪国際語学学校（大阪府）
21	游知国際日本語学院（大阪府）
22	神楽日本語学園（兵庫県）
23	国際語学学院（兵庫県）
24	創智国際学院（兵庫県）
25	HAYAMA International Language School（奈良県）
26	九州医療スポーツ専門学校日本語学科（福岡県）
27	九州英数学館国際言語学院（福岡県）
28	Genki Japanese and Culture School（福岡県）
29	東アジア日本語学校（福岡県）
30	神村学園専修学校（鹿児島県）

(2) 実証期間

- 日本語教育機関は、最短で約 2 か月間、最長で約 7 か月間における実証事業を実施した。

実証期間	日本語教育機関数
約 7 か月間	7 校
約 6 か月間	8 校
約 5 か月間	4 校
約 4 か月間	7 校
約 3 か月間	3 校
約 2 か月間	1 校
合計	30 校

(3) 受講者実績

- 日本語教育機関 30 校において、78 のコースを実施し、当事業に参加した学生数は 1,688 人となった。

(4) 取組内容について

- ・日本語教育機関 30 校で取り組んだ実施内容は、以下の通り。

NO	学校名	コース 番号	実施内容																			
			レベル					対象			手法				言語活動							
			A1	A2	B1	B2	C	進学	就職	一般	オンラ イン	ハイブ リット	オンデ マント	ハイフ レックス	話す (やり 取り)	話す (発 表)	聞く	読む	書く	日本事 情・日 本理解	その他	
1	東京さくら学院	1	○							○	○		○		○	○	○	○	○			
2		2	○							○	○		○		○	○	○	○	○			
3	YOMA日本語学院	1	○	○	○			○						○	○	○	○	○	○	○		
4		2	○	○					○					○	○	○	○	○	○	○		
5	さくら東海日本語学校	1	○	○	○			○						○	○	○	○	○	○	○		
6		2	○	○					○					○	○	○	○	○	○	○		
7	名古屋国際日本語学校	1	○					○		○	○					○	○	○	○	○		
8		2	○					○		○	○					○	○	○	○	○		
9		3			○			○		○	○					○	○	○	○	○		
10	東京語学学校	1	○	○	○		○					○			○		○	○	○	○	○	○
11		3	○	○	○	○				○	○				○	○	○	○	○	○	○	
12		2	○	○	○	○	○				○	○				○	○	○	○	○	○	○
13	HAYAMA International Language School	1		○				○		○	○				○	○	○	○	○	○		○
14		2				○		○			○				○	○	○	○	○	○		
15		3	○	○				○			○				○	○	○	○	○	○		
16		4	○					○			○				○	○	○	○	○	○		○
17		5		○				○			○				○	○	○	○	○	○		
18		6	○	○	○			○			○					○	○	○	○	○	○	
19	ILC-NAGOYA	1	○					○	○					○		○	○	○	○	○	○	
20		2	○					○			○			○	○	○	○	○	○	○	○	○
21		3	○					○			○			○	○	○	○	○	○	○	○	○
22		4		○				○			○				○	○	○	○	○	○	○	○
23	SPC Japanese College	1	○					○			○				○	○	○	○	○	○	○	
24		2	○	○	○			○			○				○	○	○	○	○	○	○	
25	新富国際語学院	1	○					○			○				○	○	○	○	○	○	○	
26		2	○					○			○				○	○	○	○	○	○	○	
27		3	○	○				○			○				○	○	○	○	○	○	○	
28	さくら東京日本語学校	1	○	○	○	○		○	○			○			○	○	○	○	○	○	○	
29		1	○					○		○	○				○	○	○	○	○	○	○	
30		2	○	○				○			○				○	○	○	○	○	○	○	
31		4		○				○			○				○	○	○	○	○	○	○	
32	九州英数学館国際言語学院	1	○					○		○	○			○		○	○	○	○	○	○	○
33		2				○		○		○				○	○	○	○	○	○	○	○	○
34		3		○				○		○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○
35		4			○			○		○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○
36		5	○					○			○				○	○	○	○	○	○	○	○
37		6	○					○			○				○	○	○	○	○	○	○	○
38	東京朝日アカデミー	1	○					○	○					○	○	○	○	○	○	○	○	
39		2		○				○			○			○	○	○	○	○	○	○	○	
40		3	○	○	○	○	○		○			○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
41	東アジア日本語学校	1	○					○			○	○			○	○	○	○	○	○	○	
42	東京福祉保育専門学校	1	○					○			○				○	○	○	○	○	○	○	
43		2	○					○			○				○	○	○	○	○	○	○	
44		3			○			○		○					○	○	○	○	○	○	○	
45		4		○				○			○				○	○	○	○	○	○	○	
46	游知国際日本語学院	1	○					○		○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	
47	東和חד日本語学校	1	○					○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	
48	Tokyo Sakura International School	1	○					○			○				○	○	○	○	○	○	○	
49		2		○				○			○				○	○	○	○	○	○	○	
50	九州医療スポーツ専門学校日本語学科	1	○					○			○				○	○	○	○	○	○	○	
51	創智国際学院	1	○					○	○		○				○	○	○	○	○	○	○	○
52		2	○					○	○		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○
53		3	○					○	○		○				○	○	○	○	○	○	○	○
54		4	○					○	○		○				○	○	○	○	○	○	○	○
55		5	○	○				○	○		○				○	○	○	○	○	○	○	○
56	南大阪国際語学学校	1	○					○		○	○				○	○	○	○	○	○	○	
57		2		○	○			○	○		○				○	○	○	○	○	○	○	○
58		3	○					○			○				○	○	○	○	○	○	○	○
59		4	○					○			○				○	○	○	○	○	○	○	○
60	東京桜ヶ丘学院	1	○					○			○				○	○	○	○	○	○	○	
61		2	○					○			○				○	○	○	○	○	○	○	
62		3		○				○			○				○	○	○	○	○	○	○	
63	Grandeur Global Academy 沼津校	1	○					○			○				○	○	○	○	○	○	○	
64		2	○					○			○				○	○	○	○	○	○	○	
65	国際語学学院	1			○	○		○	○		○				○	○	○	○	○	○	○	
66		2	○	○				○	○	○			○		○	○	○	○	○	○	○	
67		3			○	○	○	○		○					○	○	○	○	○	○	○	○
68		4	○					○			○				○	○	○	○	○	○	○	○
69	神村学園専修学校	1			○	○	○	○		○					○	○	○	○	○	○	○	○
70		2			○	○	○	○		○					○	○	○	○	○	○	○	○
71		3	○					○			○				○	○	○	○	○	○	○	○
72		4	○	○	○			○			○				○	○	○	○	○	○	○	○
73	25 日本語学校京都あすかアカデミア	2	○					○			○				○	○	○	○	○	○	○	
74	26 ビアブリッジ国際学院	1	○	○				○		○	○				○	○	○	○	○	○	○	○
75		1	○					○		○	○				○	○	○	○	○	○	○	○
76	27 神楽日本語学園	1	○					○			○				○	○	○	○	○	○	○	
77		2	○					○			○				○	○	○	○	○	○	○	
78	28 日生日本語学園名古屋	2	○					○			○				○	○	○	○	○	○	○	
79	29 Genki Japanese and Culture School	3	○	○	○	○		○		○	○				○	○	○	○	○	○	○	
80	30 JAIS国際学園	1	○					○			○				○	○	○	○	○	○	○	
小計			58	31	15	10	5	67	26	25	66	15	39	6	75	60	77	78	67	22	13	

3. 当事業におけるグッドプラクティスについて

(1) グッドプラクティスについて

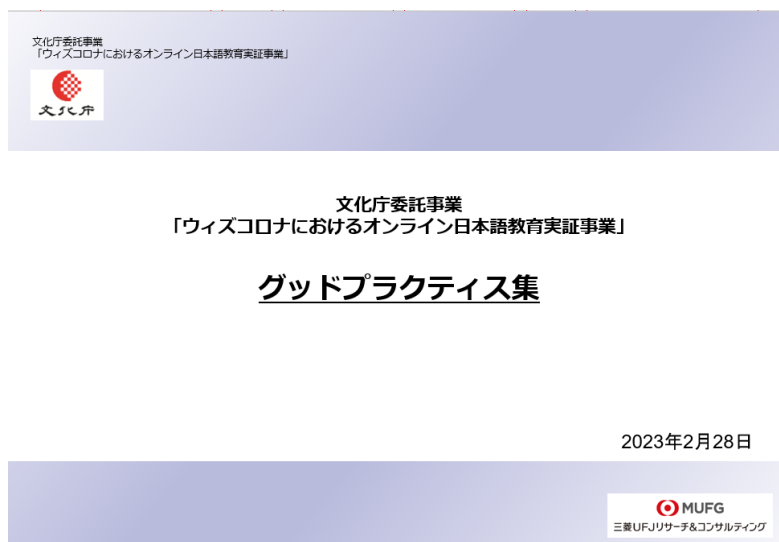
「グッドプラクティス」とは、以下のような視点で工夫がなされている日本語学校の具体的な取組のこととして整理した。

- ・コースの目標設定とプログラム（カリキュラム・教員配置・評価等）の適切性
- ・教育内容・方法の適切性
- ・目標の達成度・成果の分析

(2) グッドプラクティス集の構成

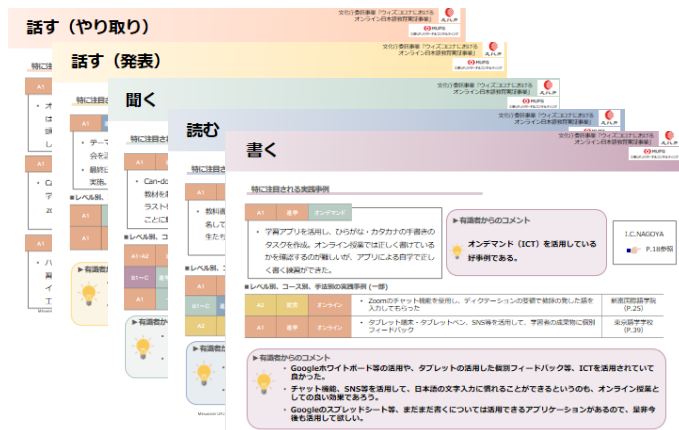
別紙の「グッドプラクティス集」を別冊にて以下の通りまとめた

「言語活動別」を中心にしたレベル別、コース別、手法別の実践事例」と、「日本語教育機関別 実践事例」の2章にわけ、巻末に索引として「レベル別」「対象別」「手法別」「言語活動別」を掲載した。



①「言語活動別」を中心にしたレベル別、コース別、手法別の実践事例

今後、日本語教育機関が、オンライン日本語教育を実践していく上で参考となるよう、言語活動の「話す（やり取り）」「話す（発表）」「聞く」「読む」「書く」のそれぞれのグッドプラクティスを有識者のコメントとともに掲載した。

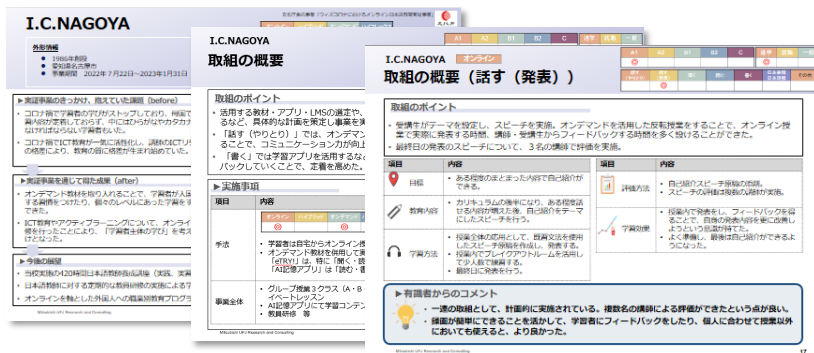


② 日本語教育機関別 実践事例

日本語教育機関別にグッドプラクティスをまとめた。

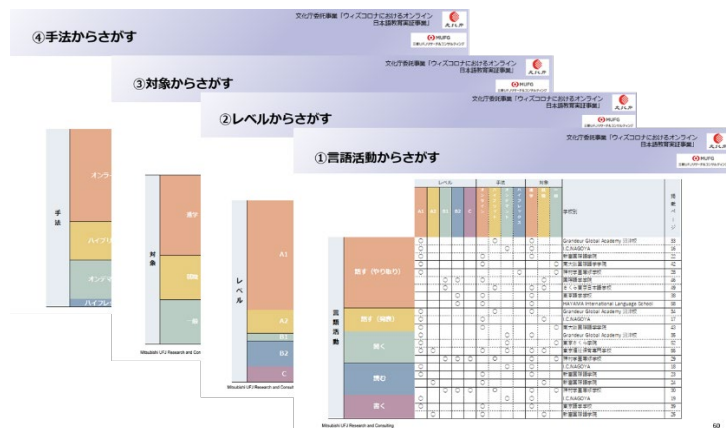
日本語教育機関の考え、当該グッドプラクティスに至るまでの各日本語教育機関の取組の全体像、before → after 等を掲載している。

また、各機関の 2 ページ目以降は、具体的なグッドプラクティスの取組ポイントや有識者のコメントなどをまとめている。



③ 掲載事例の索引

巻末に、掲載事例の索引として、「レベル別」「対象別」「手法別」「言語活動別」の一覧を掲載している。



(3) グッドプラクティス一覧

① グッドプラクティス一覧

以下の日本語教育機関 11 機関の 25 ケのグッドプラクティスを掲載した。

NO	学校別	掲載 ページ	レベル					対象			手法				言語活動									
			A1	A2	B1	B2	C	進学	就職	一般	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	話す（やり取り）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情・日本理解	その他			
1	I.C.NAGOYA (P14～19)	16	○					○					○		○									
		17	○						○			○				○								
		18	○					○					○					○						
		19	○					○					○							○				
2	新富国際語学院 (P20～25)	22	○					○			○				○									
		23	○					○			○							○						
		24		○					○			○							○					
		25		○					○			○								○				
3	神村学園専修学校 (P26～30)	28	○							○				○	○									
		29			○	○	○	○				○					○							
		30			○	○	○	○				○						○						
4	Grandeur Global Academy 沼津校 (P31～35)	33	○					○				○			○									
		34	○					○				○				○								
		35	○					○					○				○							
5	東京語学学校 (P36～39)	38				○		○			○				○									
		39	○					○			○									○				
6	南大阪国際語学学院 (P40～43)	42	○							○	○				○									
		43	○							○	○					○								
7	国際語学学院 (P44～46)	46			○	○			○		○				○									
8	さくら東京日本語学校 (P47～49)	49			○			○	○			○			○									
9	東京さくら学院 (P50～52)	52	○							○			○				○							
10	東京福祉保育専門学校 (P53～55)	55	○	○				○	○		○		○				○							
11	HAYAMA International Language School (P56～58)	58				○		○			○				○									

② マトリックスに配置した事例一覧

レベル別・対象別・手法別・言語活動別のマトリックスに対し、以下のグッドプラクティスを掲載した。

レベル	言語活動	オンライン（双方向）のみ			ハイブリッド型			オンデマンド型			ハイフレックス型		
		進学	就職	一般	進学	就職	一般	進学	就職	一般	進学	就職	一般
A1	話す（やり取り）	○		○	○			○					○
	話す（発表）		○	○	○								
	聞く	○	○					○		○			
	読む	○						○					
	書く	○						○					
	日本事情・日本理解												
	その他												
A2	話す（やり取り）												
	話す（発表）												
	聞く	○						○					
	読む		○										
	書く		○										
	日本事情・日本理解												
	その他												
B1	話す（やり取り）		○		○	○							
	話す（発表）												
	聞く				○		○						
	読む				○		○						
	書く												
	日本事情・日本理解												
	その他												
B2	話す（やり取り）	○	○										
	話す（発表）												
	聞く				○		○						
	読む				○		○						
	書く												
	日本事情・日本理解												
	その他												
C	話す（やり取り）												
	話す（発表）												
	聞く				○		○						
	読む				○		○						
	書く												
	日本事情・日本理解												
	その他												

第Ⅵ章 日本語教育機関の実証事業の評価（計測）について

1. 実証事業の実施概要

(1) 日本語教育機関によるオンライン授業の実証分析の考え方

① ロジックモデルを活用した成果指標の設定について

「ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業」の効果分析を行うために、今回、ロジックモデルを活用した成果指標を設定して、成果の評価を行うこととした。

ロジックモデルは、事業を実施したことによる、最終的なゴールに至るまでの一連の成果波及の流れを示した図である。

実証事業は単年度であるため、事業期間内に最終アウトカムを達成することは難しいと考えられるが、ロジックモデルにおいては最終アウトカムに至るまでにどのような成果が生まれるかを示すことで、その途中で生み出される成果を把握することが可能になる。

② ロジックモデル・成果指標（案）を活用する上での留意点

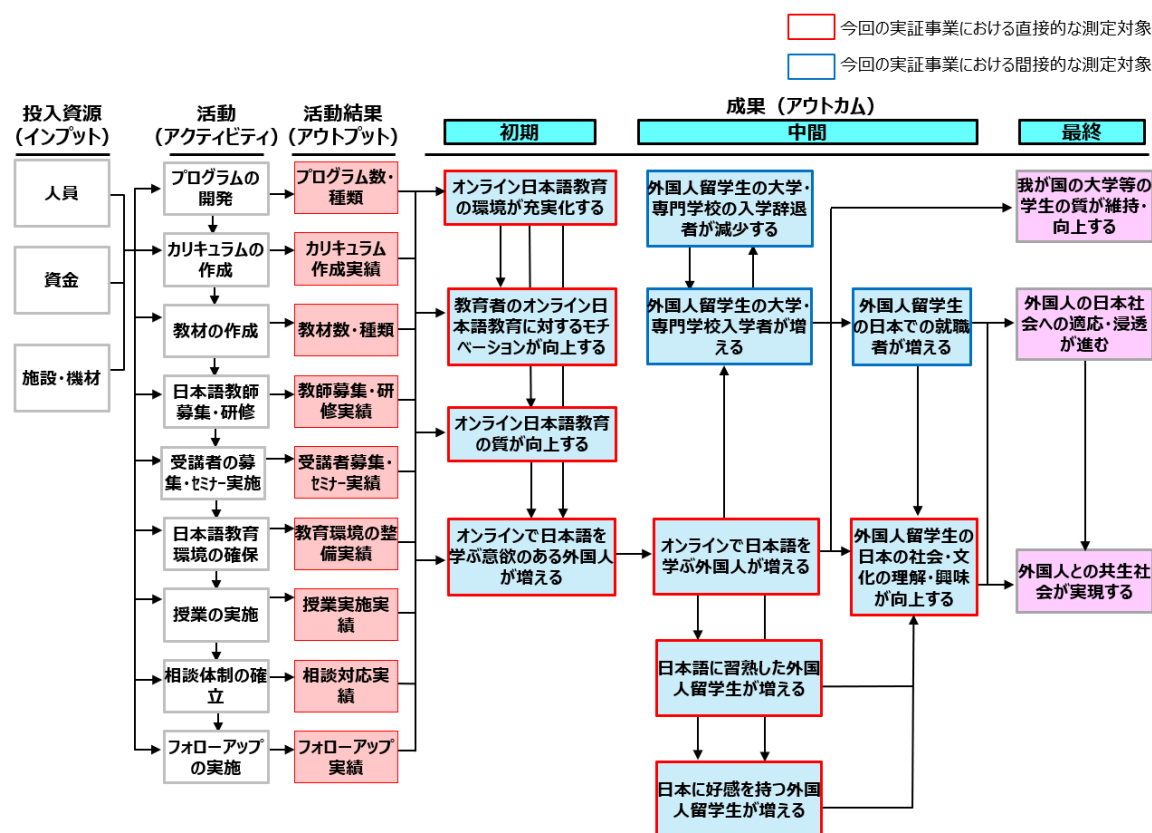
今回作成するロジックモデルは、あくまでも初期仮設である。特に初期アウトカムと中間アウトカムについては、相互に関連するものであり、因果関係や前後の関係（矢印の向き）については実証事業を通じて検証する必要がある。

成果指標の測定方法については、実証事業を実施する日本語教育機関の事業内容や利用できるデータ（収集期間や収集可能性）に合わせて、可能な測定方法（評価方法）を検討する必要がある。

成果評価に当たっては、日本語教育機関の実施する「オンライン教育手法」や「日本語教育の内容・指導法・評価手法」に合わせて日本語教育機関の間で成果を比較することにより、どのようなオンライン教育手法や教育内容が有効かを比較できるが、前提となるのは、各日本語教育機関の事業実施前と事業実施後の比較である。したがって、実証事業を開始する前に成果評価の方法を決めて、ベースとなる初期値（データ）を測定しておくことが重要である。

(2) 実施事業の効果を分析するためのフレーム（ロジックツリーの検討と成果指標）

① ロジックモデル（当初案）



② 成果指標（案）①

日本語教育機関が事業を実施することにより、成果が出るものがアウトプットである。

【アウトプット指標（案）】

成果指標	定義	測定方法（例）
① プログラム数・種類	日本語教育機関によるオンライン日本語学習プログラムの提供数、種類	日本語教育機関による実績報告
② カリキュラム作成実績	日本語教育機関によるオンライン日本語学習カリキュラムの作成実績	日本語教育機関による実績報告
③ 教材数・種類	日本語教育機関によるオンライン日本語学習プログラムで活用できる教材の作成実績（数・種類）	日本語教育機関による実績報告
④ 教師募集・研修実績	日本語教育機関によるオンライン日本語学習を担う教師の募集実績、研修実績	日本語教育機関による実績報告

⑤受講者募集・セミナー実績	日本語教育機関によるオンライン日本語学習の受講者募集実績、周知するためのセミナーの開催実績	日本語教育機関による実績報告
⑥教育環境の整備実績	日本語教育機関によるオンライン日本語学習環境の整備実績	日本語教育機関による実績報告
⑦授業実施実績	日本語教育機関によるオンライン日本語授業の実施実績	日本語教育機関による実績報告
⑧相談対応実績	日本語教育機関による外国人留学生の相談体制の確立・対応実績（ドロップアウトの防止）	日本語教育機関による実績報告
⑨フォローアップ実績	日本語教育機関による外国人留学生の学習到達度の確認等フォローアップの実施実績	日本語教育機関による実績報告

③ 成果指標（案）②

事業を実施することにより、初期段階で導出するアウトカムである。初期アウトカムは、中間アウトカム、最終アウトカムへと成果を波及させるうえで、非常に重要なアウトカムとなる。

【アウトカム指標①（案）：初期アウトカム】

成果指標	定義	測定方法（例）
①オンライン日本語教育の環境が充実化する	オンライン日本語教育の環境の質の向上状況	事業実施前と比較してオンライン教育環境の質が向上したとアンケートで回答した教員、経営者の数・比率の増加
②教育者のオンライン日本語教育に対するモチベーションが向上する	日本語学校の教育者のオンライン日本語教育に対するモチベーションの向上状況	事業実施前後のアンケートで比較したオンラインで日本語教育を実施する意欲のある日本語学校の教員、経営者の数・比率の増加
③オンライン日本語教育の質が向上する	日本語教育機関のオンライン日本語教育の質の向上	オンラインで教育を提供することにより、事業実施前と比較して教育環境の質が向上したとアンケートで回答した教員、経営者の数・比率の増加
④オンラインで日本語を学ぶ意欲のある外国人が増える	オンラインで日本語を学ぶ意欲のある外国人の増加状況	事業実施前後のアンケートで比較したオンラインで日本語教育を学ぶ意欲のある外国人の数・比率の増加

④ 成果指標（案）③

中間段階で導出するアウトカム。教育に関するアウトカムについては成果の導出までに時間がかかるため、本事業期間内に成果が導出されるアウトカムと本事業期間内での導出が難しい成果があることに留意が必要である。

【アウトカム指標②（案）：中間アウトカム】

成果指標	定義	測定方法（例）
① 外国人留学生の大学・専門学校入学辞退者が減少する	外国人留学生の大学・専門学校への入学辞退者の減少状況	オンラインで日本語教育を実施したことにより、事業実施前後のアンケートで比較した留学希望者の増加数・比率、オンラインで日本語を学ぶ意欲のある外国人が増えたと感じる教員、経営者の比率
② 外国人留学生の大学・専門学校入学者が増える	日本語教育を受けた外国人の大学・専門学校の入学者数の増加状況	オンラインで日本語教育を実施したことにより、事業実施前後のアンケートで比較した留学希望者の増加数・比率、オンラインで日本語を学ぶ意欲のある外国人が増えたと感じる教員、経営者の比率
③ オンラインで日本語を学ぶ外国人が増える	オンラインで日本語を学ぶ外国人留学生の増加状況	日本語教育機関による実績報告
④ 日本語に習熟した外国人留学生が増える	プログラムを修了した外国人の日本語の習熟度の向上度合い	事業実施前後のアンケートで比較した外国人の、日本語の読み・書き、コミュニケーション、日本語で仕事ができるか（習熟状況）の向上度合いを、外国人、教員、経営者に対するアンケートで測定
⑤ 日本に好感を持つ外国人留学生が増える	日本語教育を受けた外国人留学生の日本の好感度の増加状況	事業実施前後で比較した外国人の日本に対する好感度が向上したとアンケートで回答した教員、経営者の比率
⑥ 外国人留学生の日本での就職者が増える	日本語教育を受けた外国人留学生の日本での就職する意欲を持つ者の増加状況	オンラインで日本語教育を実施したことにより、事業実施前後のアンケートで比較した外国人の日本での就職する意欲を持つ者の増加数・割合
⑦ 外国人留学生の日本の社会・文化の理解・興味が向上した	日本の社会・文化の理解・興味が向上した外国人留学生の	事業実施前後のアンケートで比較した外国人の日本の社会・文化の理解・興味が向上したと回答した外国人、教員、経営

化の理解・ 興味が向上 する	増加状況	者の比率
----------------------	------	------

⑤ 成果指標（案）④

事業を実施することにより、最終的に目指すアウトカム。事業の目的として何を達成することが重要であるか文化庁、弊社、関係者間で擦り合わせる必要がある。

教育に関するアウトカムについては成果の導出までに時間がかかるため、本事業期間内に成果が導出されることは難しいが、今後、長期にわたって成果の導出状況をモニタリングしていくためには、比較のために必要となるベースラインとしてのデータを測定しておくことが重要と考えられる。

データ測定に当たっては、本事業に直接的に関わるステイクホルダー以外の日本企業や組織の協力を必要とする成果指標もあるため、その実現可能性については検討が必要となる。

【アウトカム指標③（案）：最終アウトカム】

成果指標	定義	測定方法（例）
①我が国の大学等の学生の質が維持・向上する	大学・専門学校における外国人留学生の知識・学力の向上度	日本語が熟達したことによる、大学・専門学校における外国人留学生の知識・学力の向上度合いをアンケートで測定
②外国人の日本社会への適応・浸透が進む	大学・専門学校を卒業後、日本社会に一定期間以上定着する外国人の増加状況	外国人留学生の卒業後の一定期間（例えば5年間等）の日本企業や組織への定着率の向上度合いをアンケートで測定
③外国人との共生社会が実現する	外国人留学生の日本のコミュニティへの参加の増加、日本人との交流の増加、日本人とのコミュニケーションの増加状況	外国人留学生による、日本のコミュニティへの参加の増加、日本人との交流の増加、日本人とのコミュニケーションの増加の度合いをアンケートで測定

2. 実施結果

(1) アンケート実施概要

① アンケートの目的

「ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業」の効果分析を行うために、ロジックモデルに基づく成果指標を設定し、効果測定に必要なデータを収集するために、オンライン日本語教育実証事業に参加した①学習者、②日本語教師、③日本語教育機関責任者を対象に、アンケート調査を実施した。

今回のロジックモデルを活用した事業効果分析は、事前事後評価によって行うため、事業の実施前と実施後にアンケート調査を実施して、事業の実施前段階のベース値（初期値）と事業実施後のデータを取ることを目的としている。

なお、日本語能力を計る指標は、文化審議会国語分科会（2021）「日本語教育の参照枠 報告」p. 23にある、言語活動別の熟達度を参照した。

② アンケートの実施方法

【アンケート対象者（事前）】

①学習者：802名 ②日本語教師：173名 ③日本語教育機関責任者：32名

【アンケート対象者（事後）】

①学習者：520名 ②日本語教師：163名 ③日本語教育機関責任者：33名

【アンケート実施方法】

オンラインアンケート

【アンケート期間】

2022年9月以降順次実施

(2) 受講者本人の調査（事前調査と事後調査、ヒアリング結果概要）

① 初期アウトカム

- ・「オンラインで日本語を学ぶ意欲のある外国人が増える」に関する設問では、事前データの水準が高かったこともあり、上位2項目の値が1.1%増加しているに留まるが、今回事業に参加した学習者のほとんど（9割強）が日本語教育を受け続けたいと考えている。

② 中間アウトカム

- ・「外国人留学生の大学・専門学校入学者が増える」や「日本に好感を持つ外国人留学生が増える」に関する設問では、上位2項目の値が3%以上増加しており、9割前後の学習者が「日本に留学したくなった」や「将来日本に住み続けたい」と考えている。
- ・「日本語に習熟した外国人留学生が増える」に関する設問では、上位2項目の値が大きく増加（17.2%）しており、今回事業に参加した学習者のほとんど（9割強）が日本語ができるようになったと考えている。オンライン日本語教育プログラムのレベル別習熟度の平均点も、すべてのレベルで向上している。
- ・その他の成果指標に関する設問では、事前データの水準が高かった（9割強）こともあり、ほとんど変化が見られなかった

③ 学習者の成果指標と対応するアンケート結果

アウトカム	成果指標	設問	事前データ			事後データ			差分 (※)
			①	②	①+②	①	②	①+②	
初期アウトカム	オンラインで日本語を学ぶ意欲のある外国人が増える	オンライン日本語教育プログラムを受けたかったか／受け続けたいか	50.0%	42.8%	92.8%	50.8%	43.1%	93.8%	1.1%
中間アウトカム	外国人留学生の大学・専門学校入学者が増える	日本に留学したいと思っていたか／留学したくなったか	55.7%	29.3%	85.0%	57.7%	30.4%	88.1%	3.0%
	オンラインで日本語を学ぶ外国人が増える	オンラインで日本語を勉強したかったか／勉強し続けたいか	48.8%	44.3%	93.0%	53.8%	38.3%	92.1%	-0.9%
	日本語に習熟した外国人留学生が増える	どれぐらい日本語ができるか／できるようになったか	15.0%	62.8%	77.8%	43.8%	51.2%	95.0%	17.2%
		オンライン日本語教育プログラムのレベル別習熟度（A1）平均点			3.08			3.35	0.27
		オンライン日本語教育プログラムのレベル別習熟度（A2）平均点			3.22			3.41	0.19
		オンライン日本語教育プログラムのレベル別習熟度（B1）平均点			2.92			3.11	0.19
		オンライン日本語教育プログラムのレベル別習熟度（B2）平均点			2.51			2.73	0.22
		オンライン日本語教育プログラムのレベル別習熟度（C）平均点			2.34			2.55	0.21
	日本に好感を持つ外国人留学生が増える	将来日本に住み続けたいか	53.1%	34.7%	87.8%	57.5%	33.8%	91.3%	3.6%
	外国人留学生の日本での就職者が増える	将来日本で仕事をしたいか	65.0%	26.9%	91.9%	69.6%	23.3%	92.9%	1.0%
	外国人留学生の日本の社会・文化の理解・興味が向上する	どれぐらい日本の社会や文化に興味があるか	66.8%	31.7%	98.5%	66.2%	32.1%	98.3%	-0.2%

(※) 「①」最も評価の高い選択肢、「②」次に評価の高い選択肢、「差分」＝事後データ（①+②）－事前データ（①+②）

(3) 日本語教育機関の講師の調査（事前調査と事後調査、ヒアリング結果概要）

① 初期アウトカム

- ・「オンライン日本語教育の環境が充実化する」に関する設問では、上位2項目の値が6.5%減少し、今回事業に参加した日本語教師の7割弱が日本語教育の環境が質的・量的に整ったと考えるに留まっており、日本語教育機関責任者の回答よりも低い結果となっている。
- ・「教育者のオンライン日本語教育に対するモチベーションが向上する」に関する設問では、事前データの水準が高かったこともあり、上位2項目の値が若干減少又は同等であるが、今回事業に参加した日本語教師の9割強が今後もオンライン日本語教育に取り組んでいきたいと考えている。
- ・「オンライン日本語教育の質が向上する」に関する設問では、上位2項目の値が大きく増加（16.7%）しており、今回事業に参加した日本語教師の約7割が日本語の教授能力・スキルが向上したと考えている。

② 中間アウトカム

- ・「外国人留学生の大学・専門学校入学者が増える」や「日本に好感を持つ外国人留学生が増える」に関する設問では、上位2項目の値が若干減少しているが、「外国人の日本留学の動機が高まった」や「外国人の日本に対する好感度が増した」と考えている日本語教師は8割～9割に達している。
- ・「日本語に習熟した外国人留学生が増える」に関する設問では、上位2項目の値が大きく増加（43.2%）しており、今回事業に参加した日本語教師の8割弱が外国人の日本語能力が向上したと考えている。
- ・「外国人留学生の日本の社会・文化の理解・興味が向上する」に関する設問では、上位2項目の値が大きく増加（14.2%）しており、今回事業に参加した日本語教師の9割弱が外国人の日本の社会に対する理解や文化に対する関心が増したと考えている。

③ 日本語教師の成果指標と対応するアンケート結果

アウトカム	成果指標	設問	事前データ			事後データ			差分 (※)
			①	②	①+②	①	②	①+②	
初期アウトカム	オンライン日本語教育の環境が充実化する	日本語教育の環境が質的・量的に整っているか／整ったか	11.6%	63.0%	74.6%	9.8%	58.3%	68.1%	-6.5%
	教育者のオンライン日本語教育に対するモチベーションが向上する	今後もオンライン教育に取り組んでいきたいか	60.1%	37.0%	97.1%	61.3%	33.7%	95.1%	-2.0%
		日本語教育機関が渡日前の日本語教育をオンラインで実施したり、通学が困難な学習者へのオンラインによる日本語学習機会の提供を今後積極的に取り組むべきだと思うか。	47.4%	48.6%	96.0%	50.3%	46.0%	96.3%	0.4%
	オンライン日本語教育の質が向上する	日本語の教授能力・スキルは高いか／向上したか	7.5%	45.1%	52.6%	10.4%	58.9%	69.3%	16.7%
中間アウトカム	外国人留学生の大学・専門学校入学者が増える	外国人の日本留学の動機は高いか／高まったか	17.3%	63.0%	80.3%	25.8%	54.0%	79.8%	-0.6%
	日本語に習熟した外国人留学生が増える	外国人の日本語能力は高いか／向上したか	1.7%	31.8%	33.5%	17.2%	59.5%	76.7%	43.2%
	日本に好感を持つ外国人留学生が増える	外国人の日本に対する好感度は高いか／増したか	20.8%	72.3%	93.1%	29.4%	60.1%	89.6%	-3.5%
	外国人留学生の日本の社会・文化の理解・興味が向上する	外国人の日本の社会に対する理解や文化に対する関心は高いか／増したか	9.8%	61.8%	71.7%	22.7%	63.2%	85.9%	14.2%

(※) 「①」最も評価の高い選択肢、「②」次に評価の高い選択肢、「差分」＝事後データ（①+②）－事前データ（①+②）

(4) 日本語教育機関管理者の調査（事前調査と事後調査、ヒアリング結果概要）

① 初期アウトカム

- ・「オンライン日本語教育の環境が充実化する」に関する設問では上位2項目の値が6.5%増加し、今回事業に参加した日本語教育機関責任者の9割超が日本語教育の環境が質的・量的に整ったと考えており、現場の日本語教師の回答よりもかなり高い結果となっている。
- ・「教育者のオンライン日本語教育に対するモチベーションが向上する」に関する設問では、事前・事後とも上位2項目の値は100%となっており、今回事業に参加したすべての日本語教育機関責任者が、今後もオンライン日本語教育に取り組んでいきたい、取り組むべきと考えている。
- ・「オンライン日本語教育の質が向上する」に関する設問では、上位2項目の値が大きく増加（15.7%）しており、今回事業に参加した日本語教育機関責任者のほとんど（9割超）が所属している日本語の教授能力・スキルが向上したと考えている。

② 中間アウトカム

- ・「外国人留学生の大学・専門学校入学者が増える」に関する設問では、事前データの水準が高いため、上位2項目の値が若干（0.6%）減少しているが、今回事業に参加した日本語教育機関責任者のほとんど（9割超）が「外国人の日本留学の動機が高まったと考えている。また、すべての日本語教育機関責任者が「外国人の日本に対する好感度は増した」と考えている。
- ・「日本語に習熟した外国人留学生が増える」に関する設問では、上位2項目の値が大きく増加（34.8%）しており、今回事業に参加した日本語教育機関責任者の8割強が外国人の日本語能力が向上したと考えている。
- ・「外国人留学生の日本の社会・文化の理解・興味が向上する」に関する設問では、上位2項目の値が6.3%増加しており、今回事業に参加した日本語教師のほとんど（9割強）が、外国人の日本の社会に対する理解や文化に対する関心が増したと考えている。

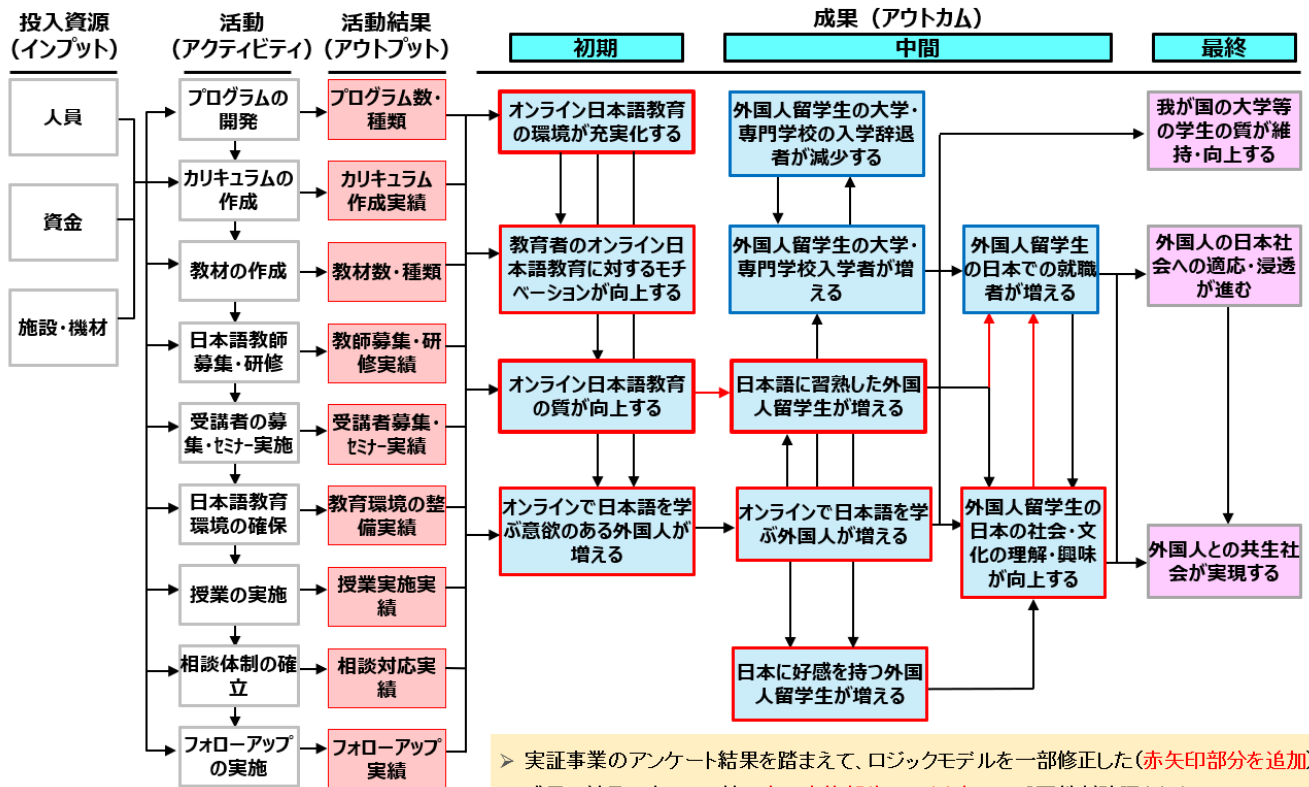
③ 日本語教育機関管理者の成果指標と対応するアンケート結果

アウトカム	成果指標	設問	事前データ			事後データ			差分 (※)
			①	②	①+②	①	②	①+②	
初期アウトカム	オンライン日本語教育の環境が充実化する	日本語教育の環境が質的・量的に整っているか／整ったか	18.8%	65.6%	84.4%	21.2%	69.7%	90.9%	6.5%
	教育者のオンライン日本語教育に対するモチベーションが向上する	今後もオンライン教育に取り組んでいきたいか	84.4%	15.6%	100.0%	72.7%	27.3%	100.0%	0.0%
		日本語教育機関が渡日前の日本語教育をオンラインで実施したり、通学が困難な学習者へのオンラインによる日本語学習機会の提供を今後積極的に取り組むべきだと思うか。	78.1%	21.9%	100.0%	69.7%	30.3%	100.0%	0.0%
	オンライン日本語教育の質が向上する	所属している日本語教師の教授能力・スキルは高いか／向上したか	15.6%	65.6%	81.3%	33.3%	63.6%	97.0%	15.7%
中間アウトカム	外国人留学生の大学・専門学校入学者が増える	外国人の日本留学の動機は高いか／高まったか	21.9%	75.0%	96.9%	36.4%	60.6%	97.0%	0.1%
	日本語に習熟した外国人留学生が増える	外国人の日本語能力は高いか／向上したか	6.3%	43.8%	50.0%	18.2%	66.7%	84.8%	34.8%
	日本に好感を持つ外国人留学生が増える	外国人の日本に対する好感度は高いか／増したか	28.1%	68.8%	96.9%	39.4%	57.6%	97.0%	0.1%
	外国人留学生の日本の社会・文化の理解・興味が向上する	外国人の日本の社会に対する理解や文化に対する関心は高いか／増したか	9.4%	81.3%	90.6%	24.2%	72.7%	97.0%	6.3%

(※) 「①」最も評価の高い選択肢、「②」次に評価の高い選択肢、「差分」＝事後データ (①+②) －事前データ (①+②)

(5) アンケート結果を踏まえたロジックモデルの修正案

□ 今回の実証事業における直接的な測定対象
□ 今回の実証事業における間接的な測定対象



3. 事前・事後アンケートデータ

(1) アンケート回答者の概要学習者

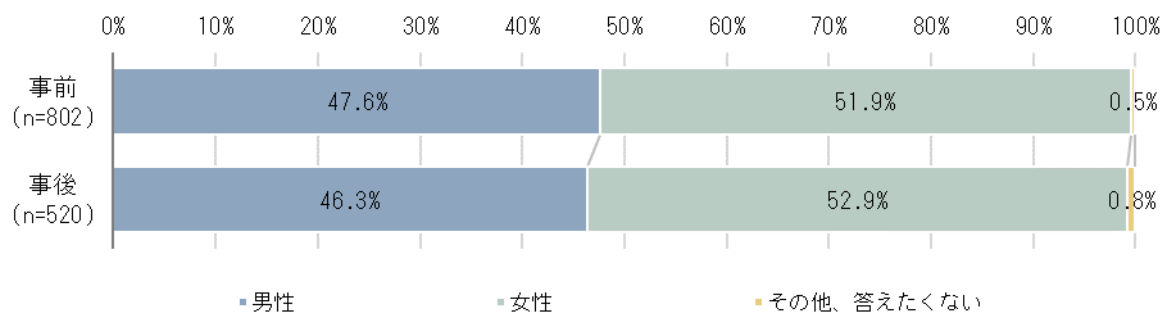
	学習者		日本語教育機関 責任者		日本語教師	
	事前	事後	事前	事後	事前	事後
東京さくら学院	50	0	1	2	8	9
YOMA 日本語学院	11	3	1	2	4	4
さくら東海日本語学校	33	14	1	1	3	3
名古屋国際日本語学校	3	7	1	3	2	4
東京語学学校	33	15	1	1	5	7
HAYAMA International Language School	64	45	1	0	2	3
I. C. NAGOYA	8	11	1	1	7	6
SPC Japanese College	15	7	1	1	5	6
新富国際語学院	36	11	1	1	6	4
さくら東京日本語学校	52	47	1	1	3	4
九州英数学館国際言語学院	24	13	3	3	10	10
東京朝日アカデミー	0	0	1	0	5	0
東アジア日本語学校	31	0	1	0	7	0
東京福祉保育専門学校	37	22	1	1	5	5
游知国際日本語学院	69	65	1	1	6	7
東和新日本語学校	9	2	1	1	3	3
Tokyo Sakura International School	23	4	1	2	5	5
九州医療スポーツ専門学校日本語学科	26	21	1	0	5	5
創智国際学院	54	45	1	1	8	10
南大阪国際語学学校	16	12	1	1	8	9
東京桜ヶ丘学院	56	56	1	1	4	4
Grandeur Global Academy 沼津校	11	7	1	1	5	3
国際語学学院	27	16	1	0	10	9
神村学園専修学校	18	29	1	0	3	3
日本語学校京都あすかアカデミア	12	8	1	1	5	4
ピアブリッジ国際学院	4	1	1	1	1	1
神楽日本語学園	16	0	0	0	5	0
日生日本語学園名古屋	20	19	0	1	1	1
Genki Japanese and Culture School	12	11	1	1	11	13
AJS 国際学園	32	29	1	1	5	9
その他	-	-	2	3	16	12
合計	802	520	32	33	173	163

(2) 学習者の事前・事後データ

① 属性

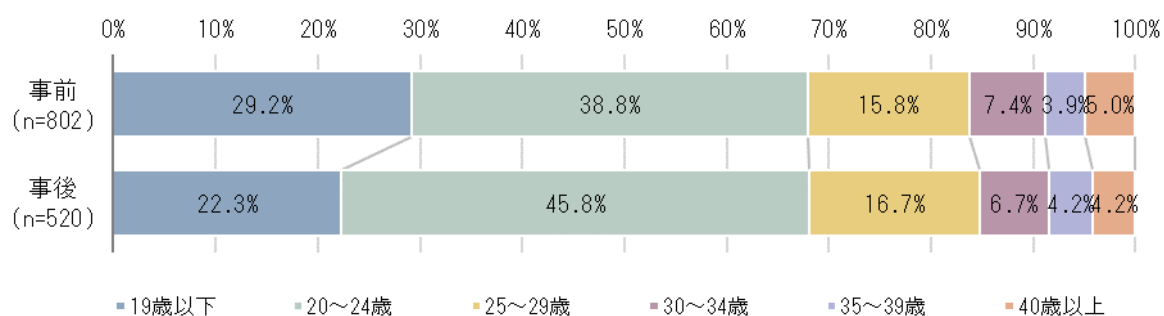
【学習者の性別】

- ・学習者の性別については、事前・事後とも女性（51.9%、52.9%）の方が男性（47.6%、46.3%）より若干多くなっている。



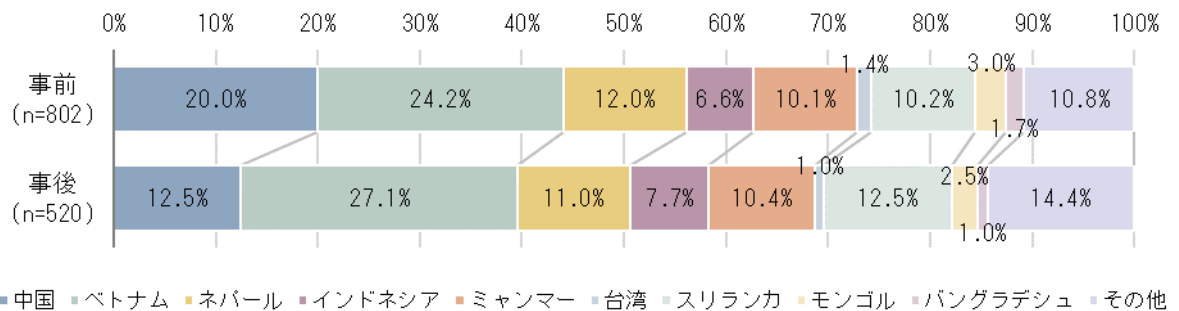
【学習者の年齢】

- ・学習者の年齢については、事前・事後とも「20～24歳」（38.8%、45.8%）が最も多くなっている。



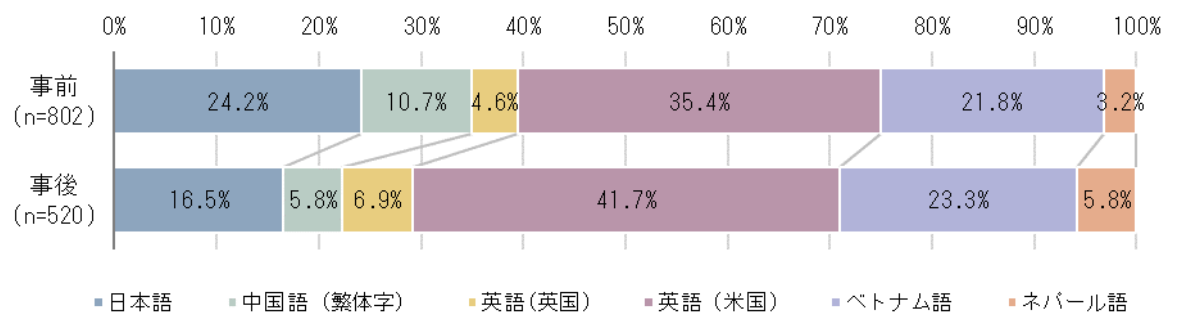
【学習者の国籍】

- ・学習者の国籍については、事前・事後ともベトナム（24.2%、27.1%）が最も多く、事後は、次いで「その他」（14.4%）、「中国」（12.5%）、「スリランカ」（12.5%）が多くなっている。



【学習者の言語】

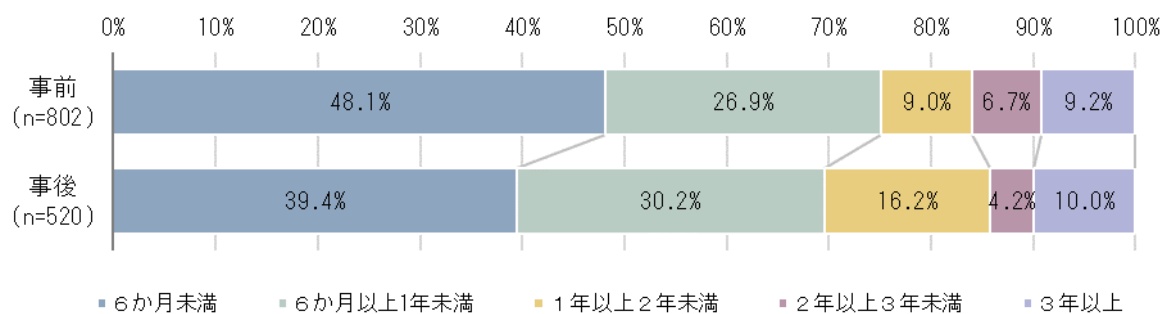
- ・学習者の言語については、事前・事後とも米国と英国を合わせた英語（40.0%、48.6%）が最も多くなっている。



② 日本への興味・関心

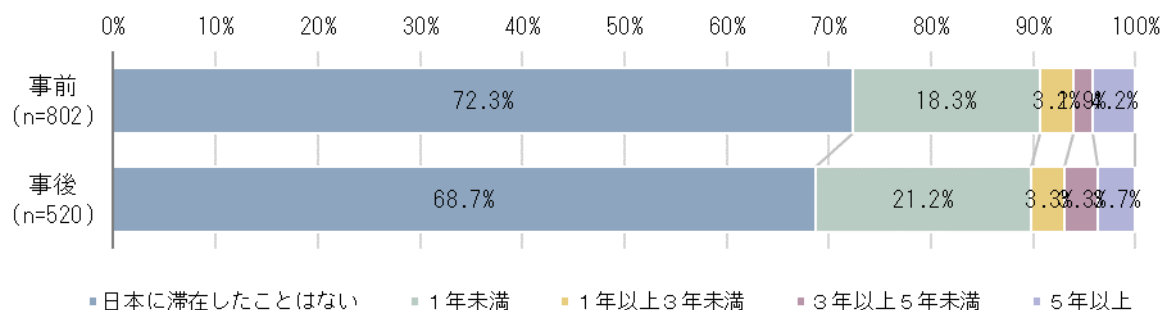
【日本語を勉強した期間】

- ・学習者の日本語を勉強した期間については、事前・事後とも「6か月未満」(48.1%、39.4%) が最も多く、次いで、「6 か月以上 1 年未満」(26.9%、30.2%) が多くなっている。



【日本に滞在した期間】

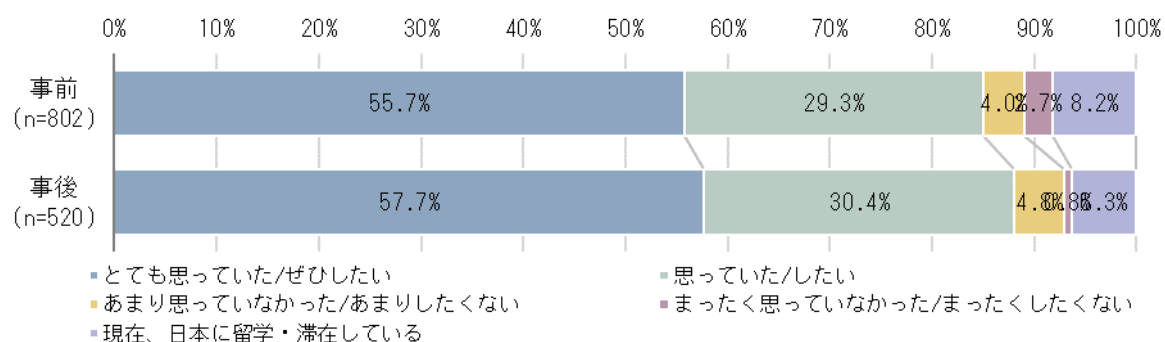
- ・学習者の日本に滞在した期間は、事前・事後とも「日本に滞在したことはない」(72.3%、68.7%) が最も多く、次いで、「1 年未満」(18.3%、21.2%) が多くなっている。



【日本に留学したいと思っていたか／留学したくなったか】

(中間アウトカム)

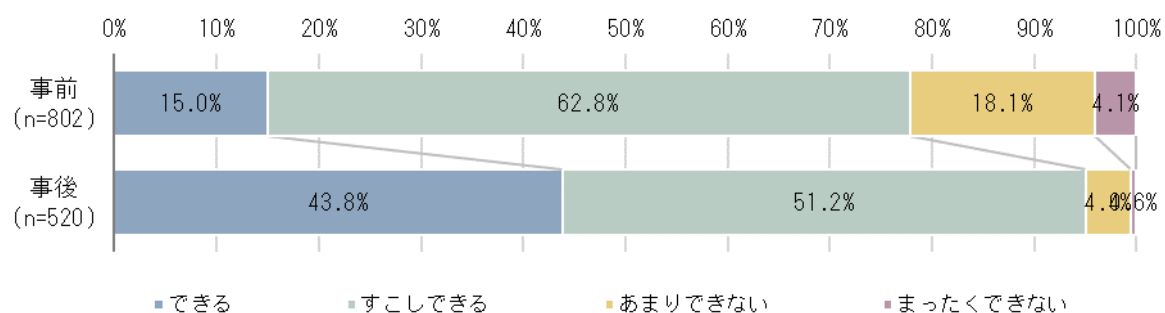
- ・学習者の日本への留学志望については、事前の「とても思っていた」(55.7%)が、事後では「ぜひしたい」(57.7%)と若干増加している。



【どれくらい日本語ができるか／できるようになったか】

(中間アウトカム)

- ・学習者の日本語の能力については、「できる」と「すこしできる」を合わせた割合が大きく増加 (77.8%→95.0%) している。

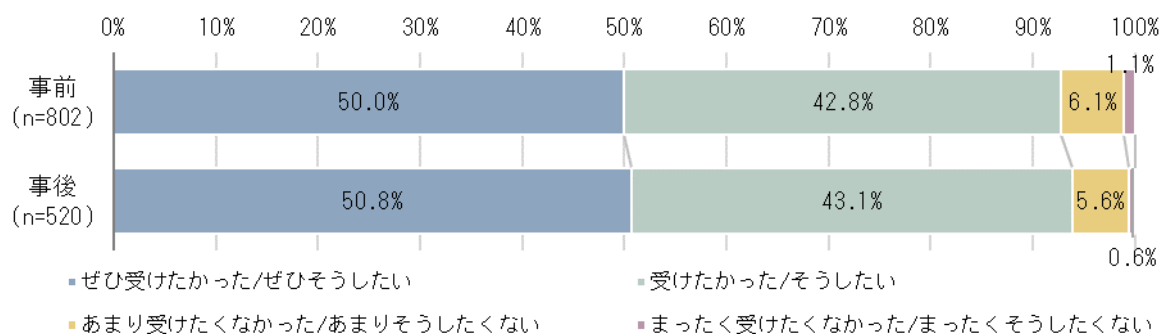


③ 日本語教育プログラムへの興味・関心

【オンライン日本語教育プログラムを受けたかったか／受け続けたいか】

(初期アウトカム)

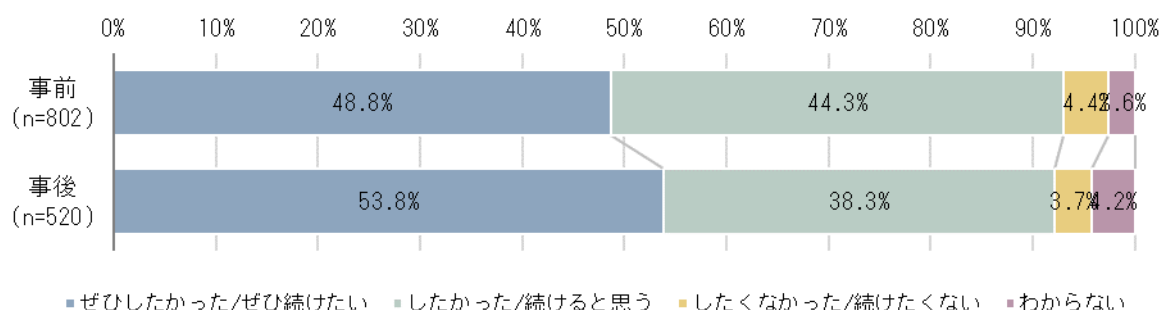
- ・学習者のオンライン日本語教育プログラムの受講希望については、事前・事後で「ぜひ受けたかった」と「受けたかった」を合わせた割合が、「ぜひそうしたい」と「そうしたい」で若干増加（92.8%→93.9%）している。



【オンラインで日本語を勉強したかったか／勉強し続けたいか】

(初期アウトカム)

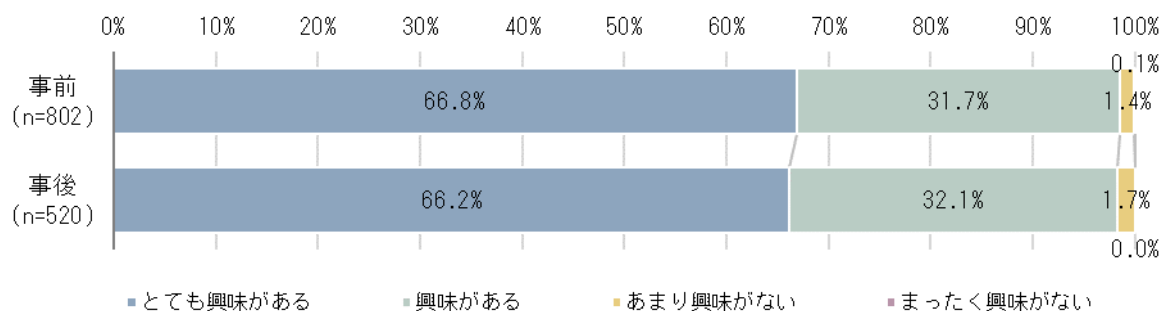
- ・学習者のオンライン日本語教育の志望度については、事前・事後で「ぜひしたかった」（48.8%）から「ぜひ続けたい」（53.8%）に増加している。



【どれくらい日本の社会や文化に興味があるか】

(中間アウトカム)

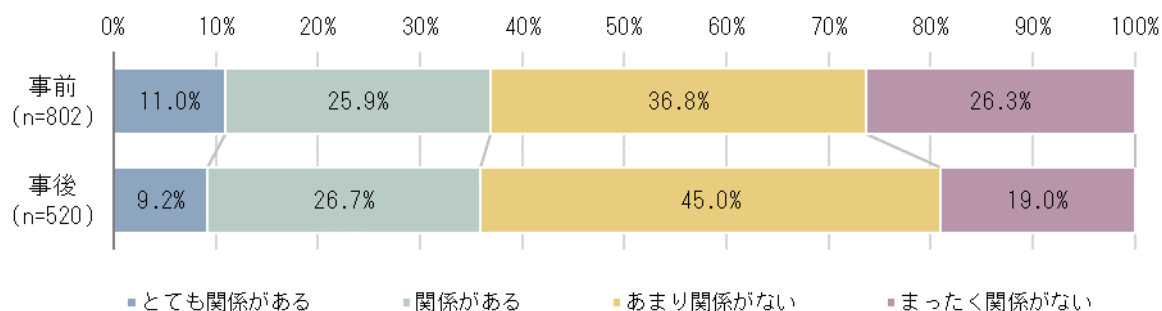
- ・学習者の日本の社会や文化に対する興味については、「とても興味がある」と「興味がある」を合わせた割合が、事前・事後でほぼ同じ水準（98.5%→98.3%）となっている。



【日本のコミュニティや日本人と関係があるか】

(中間アウトカム)

- ・学習者の日本のコミュニティや日本人と関係については、「とても関係がある」と「関係がある」を合わせた割合が、若干減少（36.9%→35.9%）している。

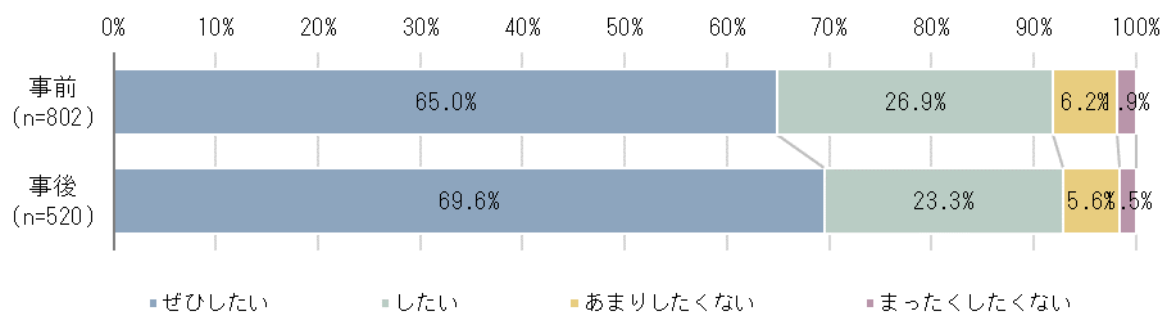


④ 日本での生活や就職への興味・関心

【将来日本で仕事をしたいか】

(中間アウトカム)

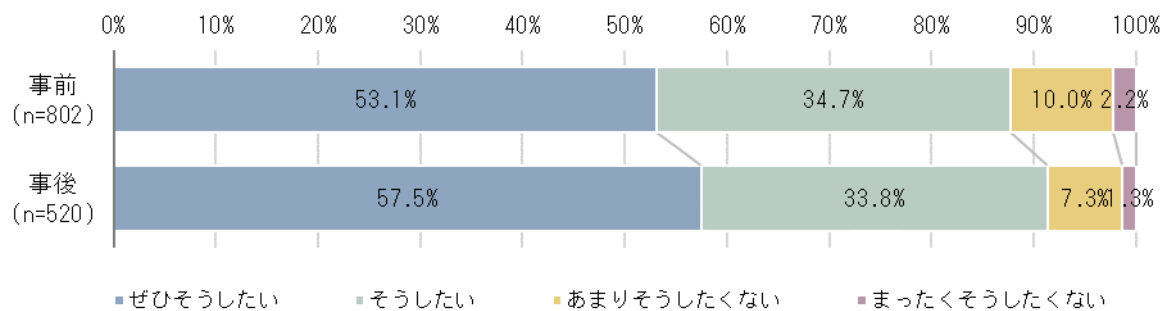
- ・ 学習者の将来の日本での就職希望については、「ぜひしたい」と「したい」を合わせた割合が、事前・事後で若干増加（91.9%→92.9%）している。
- ・ 全体の9割以上の学習者が、将来日本での就職を希望している。



【将来日本に住み続けたいか】

(中間アウトカム)

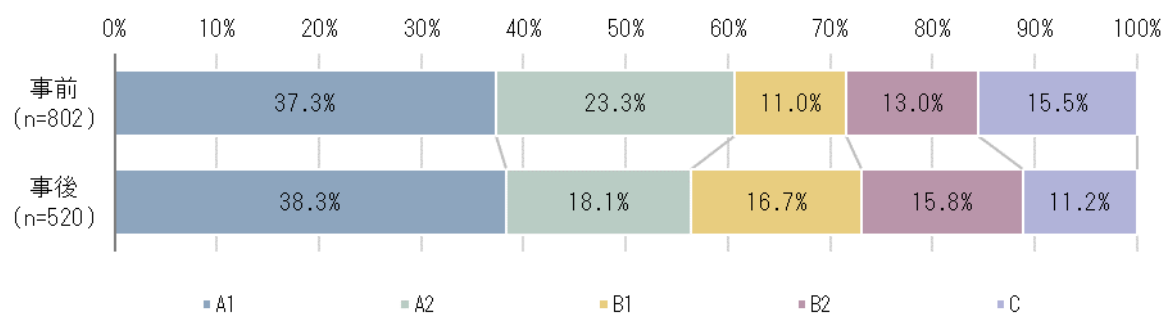
- ・ 学習者の将来の日本への居住希望については、「ぜひそうしたい」と「そうしたい」を合わせた割合が、事前・事後で若干増加（87.8%→91.3%）している。
- ・ 全体の9割以上の学習者が、将来の日本での居住を希望している。



⑤ 今回受けるオンライン日本語教育プログラムのレベル

【今回受けるオンライン日本語教育プログラムのレベル】

- ・ 学習者の今回受けるオンライン日本語教育プログラムのレベルは以下の通りとなっている。
- ・ 事前・事後とも A1（37.3%、38.3%）が最も多く、次いで、A2（23.3%、18.1%）が多くなっており、全体の約 6 割が初級者である。



⑥ 受講者の受講前の日本語能力

【A1 の日本語教育プログラム受講者の日本語能力】（中間アウトカム）

- ・ A1 の日本語教育プログラム受講者の日本語能力については、事前・事後を比較すると、すべての質問項目の事後データにおいて、「できる」と「すこしできる」を合わせた割合が増加している。
- ・ 事後データで見ると、「6. 新年の挨拶など短い簡単な葉書を書くことができる」を除くすべての質問項目の事後データにおいて、「できる」と「すこしできる」を合わせた割合が 9 割を超えている。
- ・ 全体の平均点についても 0.27 ポイント向上（3.08→3.35）している。

		No.	質問項目	できる		すこしできる		あまりできない		できない		無回答		できる+すこしできる		平均点（※）	
事前	事後			事前	事後	事前	事後	事前	事後	事前	事後	事前	事後	事前	事後	事前	事後
(n=293)	(n=199)	1	はっきりとゆっくり話してもらえれば、自分、家族、すぐ周りの具体的なものに関する聞き慣れた話やごく基本的な表現を聞き取ることができる	33.8%	45.2%	50.2%	48.2%	12.3%	6.5%	3.8%	0.0%	2.0%	0.0%	84.0%	93.5%	3.14	3.39
(n=295)	(n=199)	2	掲示やポスター、カタログの中をよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる	28.1%	37.7%	52.9%	55.3%	13.6%	6.5%	5.4%	0.5%	1.4%	0.0%	81.0%	93.0%	3.04	3.30
(n=294)	(n=199)	3	相手がゆっくり話し、繰り返したり、言い換えたりしてくれて、また自分が言いたいことを表現するのに助け船を出してくれるなら、簡単なやり取りをすることができる	33.7%	39.2%	50.0%	54.3%	11.6%	6.5%	4.8%	0.0%	1.7%	0.0%	83.7%	93.5%	3.13	3.33
(n=293)	(n=199)	4	直接必要なことやごく身近な話題についての簡単な質問なら、聞いたり答えたりできる	33.4%	45.2%	48.1%	47.2%	14.3%	7.5%	4.1%	0.0%	2.0%	0.0%	81.6%	92.5%	3.11	3.38
(n=295)	(n=199)	5	どこに住んでいるか、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる	33.2%	46.2%	47.5%	48.2%	13.2%	4.5%	6.1%	1.0%	1.4%	0.0%	80.7%	94.5%	3.08	3.40
(n=295)	(n=199)	6	新年の挨拶など短い簡単な葉書を書くことができる	24.7%	39.2%	47.8%	46.2%	17.6%	10.1%	9.8%	4.5%	1.4%	0.0%	72.5%	85.4%	2.87	3.20
(n=295)	(n=199)	7	ホテルの宿帳に名前、国籍や住所といった個人のデータを書き込むことができる	44.1%	53.8%	38.6%	40.7%	11.2%	4.5%	6.1%	1.0%	1.4%	0.0%	82.7%	94.5%	3.21	3.47
																3.08	3.35

（※）「できる」4 点、「すこしできる」3 点、「あまりできない」2 点、「できない」1 点とした場合の平均点。

【A2 の日本語教育プログラム受講者の日本語能力】（中間アウトカム）

- ・A2 の日本語教育プログラム受講者の日本語能力については、事前・事後を比較すると、すべての質問項目の事後データにおいて、「できる」と「すこしできる」を合わせた割合が増加している。
- ・事後データで見ると、すべての質問項目で「できる」と「すこしできる」を合わせた割合が 9 割前後となっている。
- ・全体の平均点についても 0.19 ポイント向上（3.22→3.41）している。

		No.	質問項目	できる		すこしできる		あまりできない		できない		無回答		できる+すこしできる		平均点（※）	
事前	事後			事前	事後	事前	事後	事前	事後	事前	事後	事前	事後	事前	事後	事前	事後
(n=187)	(n=93)	1	直接自分につながりのある領域で最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる	32.1%	54.8%	59.9%	40.9%	8.0%	3.2%	0.0%	1.1%	0.0%	1.1%	92.0%	95.7%	3.24	3.49
(n=187)	(n=92)	2	短い、はっきりとした簡単なメッセージやアナウンスの要点を聞き取ることができる	33.7%	47.8%	57.8%	46.7%	7.5%	3.3%	1.1%	2.2%	0.0%	2.2%	91.4%	94.6%	3.24	3.40
(n=187)	(n=92)	3	ごく短い簡単な文章なら理解できる	53.5%	76.1%	42.2%	23.9%	3.7%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	2.2%	95.7%	100.0%	3.49	3.76
(n=187)	(n=92)	4	広告や内容紹介のパンフレット、メニュー、予定表のようなものの中から日常の単純な具体的に予測が付けられる情報を取り出すことができる	21.9%	35.9%	63.1%	56.5%	13.9%	7.6%	1.1%	0.0%	0.0%	2.2%	85.0%	92.4%	3.06	3.28
(n=187)	(n=92)	5	簡単に短い個人的な手紙は理解できる	40.6%	53.3%	49.2%	43.5%	9.6%	3.3%	0.5%	0.0%	0.0%	2.2%	89.8%	96.7%	3.30	3.50
(n=187)	(n=91)	6	単純な日常の仕事の中で、情報の直接のやり取りが必要ならば、身近な話題や活動について話し合いができる	21.9%	34.1%	61.0%	61.5%	16.0%	4.4%	1.1%	0.0%	0.0%	3.3%	82.9%	95.6%	3.04	3.30
(n=186)	(n=92)	7	通常は会話を続けていくだけの理解力はないが、短い社交的なやり取りをすることはできる	31.7%	41.3%	59.7%	52.2%	8.1%	6.5%	0.5%	0.0%	0.5%	2.2%	91.4%	93.5%	3.23	3.35
(n=187)	(n=92)	8	家族、周囲の人々、居住条件、学歴、職歴を簡単な言葉で一連の語句や文を使って説明できる	27.3%	48.9%	59.4%	45.7%	12.3%	4.3%	1.1%	1.1%	0.0%	2.2%	86.6%	94.6%	3.13	3.42
(n=187)	(n=91)	9	直接必要のある領域での事柄なら簡単に短いメモやメッセージを書くことができる	32.6%	40.7%	57.2%	49.5%	9.1%	8.8%	1.1%	1.1%	0.0%	3.3%	89.8%	90.1%	3.21	3.30
(n=187)	(n=92)	10	短い個人的な手紙なら書くことができる	38.0%	38.0%	49.7%	50.0%	10.7%	12.0%	1.6%	0.0%	0.0%	2.2%	87.7%	88.0%	3.24	3.26
																3.22	3.41

（※）「できる」4点、「すこしできる」3点、「あまりできない」2点、「できない」1点とした場合の平均点。

【B1 の日本語教育プログラム受講者の日本語能力】（中間アウトカム）

- ・ B1 の日本語教育プログラム受講者の日本語能力については、事前・事後を比較すると、すべての質問項目の事後データにおいて、「できる」と「すこしできる」を合わせた割合が増加している。
- ・ 事後データで見ると、「9. 物語を語ったり、本や映画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる」と「10. 身近で個人的に関心のある話題について、つながりのあるテキストを書くことができる」を除くすべての質問項目で、「できる」と「すこしできる」を合わせた割合が 8 割以上となっている。
- ・ 全体の平均点についても 0.19 ポイント向上（2.92→3.11）している。

		No.	質問項目	できる		すこしできる		あまりできない		できない		無回答		できる+すこしできる		平均点（※）	
事前	事後			事前	事後	事前	事後	事前	事後	事前	事後	事前	事後	事前	事後	事前	事後
(n=88)	(n=87)	1	仕事、学校、娯楽でふだん出会うような身近な話題について、明瞭で共通語による話し方の会話なら要点を理解することができる	21.6%	44.8%	70.5%	48.3%	8.0%	6.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	92.0%	93.1%	3.14	3.38
(n=88)	(n=87)	2	話し方が比較的ゆっくり、はっきりとしているなら、時事問題や、個人的若しくは仕事上の話題についても、ラジオやテレビ番組の要点を理解することができる	13.6%	23.0%	61.4%	64.4%	25.0%	12.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	75.0%	87.4%	2.89	3.10
(n=88)	(n=87)	3	非常によく使われる日常言語や、自分の仕事関連の言葉で書かれた文章なら理解できる	21.6%	32.2%	60.2%	57.5%	18.2%	10.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	81.8%	89.7%	3.03	3.22
(n=88)	(n=86)	4	起こったこと、感情、希望が表現されている私信を理解できる	17.0%	22.1%	60.2%	59.3%	20.5%	18.6%	2.3%	0.0%	0.0%	1.2%	77.3%	81.4%	2.92	3.03
(n=88)	(n=86)	5	当該言語圏の旅行中に最も起こりやすい大抵の状況に対処することができる	18.2%	24.4%	55.7%	55.8%	21.6%	19.8%	4.5%	0.0%	0.0%	1.2%	73.9%	80.2%	2.88	3.05
(n=87)	(n=87)	6	例えば、家族や趣味、仕事、旅行、最近の出来事など、日常生活に直接関係のあることや個人的な関心事について、準備なしで会話に入ることができる	19.5%	29.9%	58.6%	56.3%	19.5%	13.8%	2.3%	0.0%	1.1%	0.0%	78.2%	86.2%	2.95	3.16
(n=87)	(n=86)	7	簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、野心を語ることができる	25.3%	36.0%	59.8%	58.1%	14.9%	5.8%	0.0%	0.0%	1.1%	1.2%	85.1%	94.2%	3.10	3.30
(n=88)	(n=87)	8	意見や計画に対する理由や説明を簡潔に示すことができる	25.0%	27.6%	50.0%	56.3%	23.9%	16.1%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	75.0%	83.9%	2.99	3.11
(n=88)	(n=87)	9	物語を語ったり、本や映画のあらすじを話し、それに対する感想・考えを表現できる	8.0%	6.9%	59.1%	63.2%	29.5%	28.7%	3.4%	1.1%	0.0%	0.0%	67.0%	70.1%	2.72	2.76
(n=88)	(n=87)	10	身近で個人的に関心のある話題について、つながりのあるテキストを書くことができる	8.0%	23.0%	60.2%	56.3%	29.5%	20.7%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%	68.2%	79.3%	2.74	3.02
(n=88)	(n=87)	11	私信で経験や印象を書くことができる	14.8%	21.8%	53.4%	60.9%	30.7%	17.2%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	68.2%	82.8%	2.82	3.05
																2.92	3.11

（※）「できる」4点、「すこしできる」3点、「あまりできない」2点、「できない」1点とした場合の平均点。

【B2 の日本語教育プログラム受講者の日本語能力】（中間アウトカム）

- ・ B2 の日本語教育プログラム受講者の日本語能力については、事前・事後を比較すると、すべての質問項目の事後データにおいて、「できる」と「すこしできる」を合わせた割合が増加している。
- ・ 事後データで見ると「1. 長い会話や講義を理解することができる」と「2. もし話題がある程度身近な範囲であれば、議論の流れが複雑であっても理解できる」については、「できる」と「すこしできる」を合わせた割合が 8 割以上となっている。
- ・ 全体の平均点についても 0.22 ポイント向上（2.51→2.73）している。

		No.	質問項目	できる		すこしできる		あまりできない		できない		無回答		できる+すこしできる		平均点（※）	
事前	事後			事前	事後	事前	事後	事前	事後	事前	事後	事前	事後	事前	事後	事前	事後
(n=104)	(n=82)	1	長い会話や講義を理解することができる	15.4%	17.1%	57.7%	69.5%	22.1%	13.4%	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%	73.1%	86.6%	2.84	3.04
(n=103)	(n=82)	2	もし話題がある程度身近な範囲であれば、議論の流れが複雑であっても理解できる	12.6%	20.7%	63.1%	65.9%	16.5%	13.4%	7.8%	0.0%	1.0%	0.0%	75.7%	86.6%	2.81	3.07
(n=104)	(n=82)	3	大抵のテレビのニュースや時事問題の番組を理解できる	5.8%	11.0%	48.1%	54.9%	32.7%	26.8%	13.5%	7.3%	0.0%	0.0%	53.8%	65.9%	2.46	2.70
(n=104)	(n=82)	4	共通語の映画なら、大多数は理解できる	11.5%	13.4%	53.8%	53.7%	21.2%	25.6%	13.5%	7.3%	0.0%	0.0%	65.4%	67.1%	2.63	2.73
(n=104)	(n=81)	5	筆者の姿勢や視点が出ている現代の問題についての記事や報告を読むことができる	8.7%	17.3%	35.6%	43.2%	38.5%	30.9%	17.3%	8.6%	0.0%	1.2%	44.2%	60.5%	2.36	2.69
(n=104)	(n=82)	6	現代文学の散文を読むことができる	4.8%	12.2%	43.3%	42.7%	33.7%	34.1%	18.3%	11.0%	0.0%	0.0%	48.1%	54.9%	2.35	2.56
(n=103)	(n=82)	7	流ちょうに自然に会話をすることができ、熟達した日本語話者と普通にやり取りができる	8.7%	12.2%	44.7%	45.1%	32.0%	32.9%	14.6%	9.8%	1.0%	0.0%	53.4%	57.3%	2.48	2.60
(n=103)	(n=82)	8	身近なコンテキスト（文脈・背景）の議論に積極的に参加し、自分の意見を説明し、弁明できる	5.8%	12.2%	43.7%	52.4%	35.0%	31.7%	15.5%	3.7%	1.0%	0.0%	49.5%	64.6%	2.40	2.73
(n=103)	(n=80)	9	自分の興味関心のある分野に関連する限り、幅広い話題について、明瞭で詳細な説明をすることができる	6.8%	10.0%	42.7%	57.5%	35.9%	26.2%	14.6%	6.3%	1.0%	2.5%	49.5%	67.5%	2.42	2.71
(n=102)	(n=82)	10	時事問題について、いろいろな可能性の長所、短所を示して自己の見方を説明できる	7.8%	12.2%	45.1%	48.8%	31.4%	34.1%	15.7%	4.9%	2.0%	0.0%	52.9%	61.0%	2.45	2.68
(n=101)	(n=82)	11	興味関心のある分野内なら、幅広くいろいろな話題について、明瞭で詳細な説明文を書くことができる	5.0%	13.4%	53.5%	51.2%	25.7%	31.7%	15.8%	3.7%	3.0%	0.0%	58.4%	64.6%	2.48	2.74
(n=102)	(n=81)	12	エッセイやレポートで情報を伝え、一定の視点に対する支持や反対の理由を書くことができる	4.9%	7.4%	45.1%	48.1%	34.3%	37.0%	15.7%	7.4%	2.0%	1.2%	50.0%	55.6%	2.39	2.56
(n=103)	(n=82)	13	手紙の中で、事件や体験について自分にとっての意義を中心に書くことができる	7.8%	9.8%	50.5%	53.7%	29.1%	32.9%	12.6%	3.7%	1.0%	0.0%	58.3%	63.4%	2.53	2.70
																2.51	2.73

（※）「できる」4 点、「すこしできる」3 点、「あまりできない」2 点、「できない」1 点とした場合の平均点。

【Cの日本語教育プログラム受講者の日本語能力】（中間アウトカム）

- ・Cの日本語教育プログラム受講者の日本語能力については、事前・事後を比較すると、すべての質問項目の事後データにおいて、「できる」と「すこしできる」を合わせた割合が増加している。
- ・事後データで見ると「1. たとえ構成がはっきりしなくて、関係性が暗示されているに過ぎず、明示的でない場合でも、長い話が理解できる」と「7. 自分の考えや意見を正確に表現できる」については、「できる」と「すこしできる」を合わせた割合が7割以上となっている。
- ・全体の平均点についても0.21ポイント向上（2.34→2.55）している。

事前	事後	No.	質問項目	できる		すこしできる		あまりできない		できない		無回答		できる+すこしできる		平均点（※）	
				事前	事後	事前	事後	事前	事後	事前	事後	事前	事後	事前	事後	事前	事後
(n=124)	(n=57)	1	たとえ構成がはっきりしなくて、関係性が暗示されているに過ぎず、明示的でない場合でも、長い話が理解できる	8.9%	21.1%	50.0%	57.9%	29.8%	19.3%	11.3%	1.8%	0.0%	1.8%	58.9%	78.9%	2.56	2.98
(n=124)	(n=58)	2	特別の努力なしにテレビ番組や映画を理解できる	10.5%	10.3%	33.1%	53.4%	43.5%	29.3%	12.9%	6.9%	0.0%	0.0%	43.5%	63.8%	2.41	2.67
(n=124)	(n=58)	3	長い複雑な事実に基づくテキストや文学テキストを、文体の違いを認識しながら理解できる	7.3%	8.6%	29.8%	39.7%	46.8%	34.5%	16.1%	17.2%	0.0%	0.0%	37.1%	48.3%	2.28	2.40
(n=124)	(n=58)	4	自分の関連外の分野での専門的記事も長い技術的説明書も理解できる	3.2%	8.6%	32.3%	32.8%	42.7%	39.7%	21.8%	19.0%	0.0%	0.0%	35.5%	41.4%	2.17	2.31
(n=123)	(n=58)	5	言葉を殊更探さずに流ちょうに自然に自己表現ができる	5.7%	12.1%	32.5%	46.6%	43.1%	34.5%	18.7%	6.9%	0.8%	0.0%	38.2%	58.6%	2.25	2.64
(n=123)	(n=58)	6	社会上、仕事上の目的に合った言葉遣いが、意のままに効果的にできる	9.8%	13.8%	33.3%	50.0%	42.3%	29.3%	14.6%	6.9%	0.8%	0.0%	43.1%	63.8%	2.38	2.71
(n=123)	(n=58)	7	自分の考えや意見を正確に表現できる	13.8%	13.8%	39.8%	60.3%	35.8%	17.2%	10.6%	8.6%	0.8%	0.0%	53.7%	74.1%	2.57	2.79
(n=122)	(n=58)	8	自分の発言を上手に他の話し手の発言に合わせる事ができる	9.8%	12.1%	38.5%	53.4%	37.7%	20.7%	13.9%	13.8%	1.6%	0.0%	48.4%	65.5%	2.44	2.64
(n=123)	(n=58)	9	複雑な話題を、派生的話題にも立ち入って詳しく論ずることができ、一定の観点を展開しながら、適切な結論でまとめ上げることができる	8.1%	6.9%	26.0%	36.2%	44.7%	39.7%	21.1%	17.2%	0.8%	0.0%	34.1%	43.1%	2.21	2.33
(n=123)	(n=58)	10	適当な長さで幾つかの視点を示して、明瞭な構成で自己表現ができる	8.9%	5.2%	28.5%	51.7%	43.1%	24.1%	19.5%	19.0%	0.8%	0.0%	37.4%	56.9%	2.27	2.43
(n=123)	(n=58)	11	自分が重要だと思う点を強調しながら、手紙やエッセイ、レポートで複雑な主題を扱うことができる	4.1%	5.2%	30.1%	36.2%	47.2%	41.4%	18.7%	17.2%	0.8%	0.0%	34.1%	41.4%	2.20	2.29
(n=123)	(n=58)	12	読者を念頭に置いて適切な文体を選択できる	10.6%	8.6%	29.3%	43.1%	39.8%	32.8%	20.3%	15.5%	0.8%	0.0%	39.8%	51.7%	2.30	2.45
																2.34	2.55

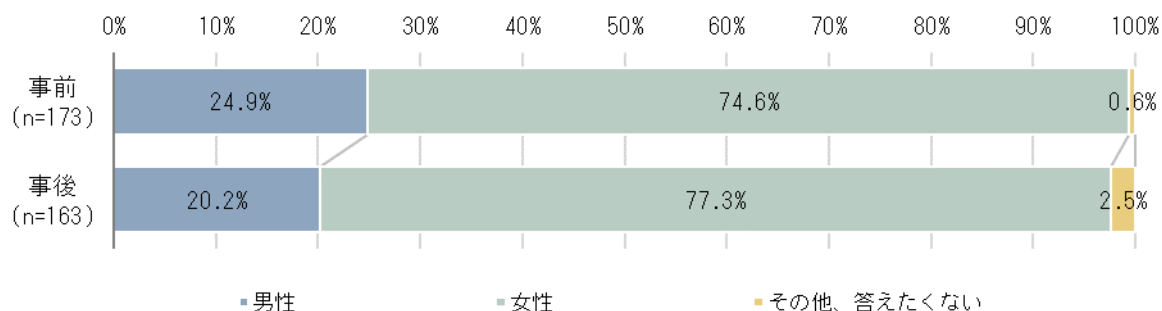
（※）「できる」4点、「すこしできる」3点、「あまりできない」2点、「できない」1点とした場合の平均点。

(3) 日本語教師の事前・事後データ

① 属性

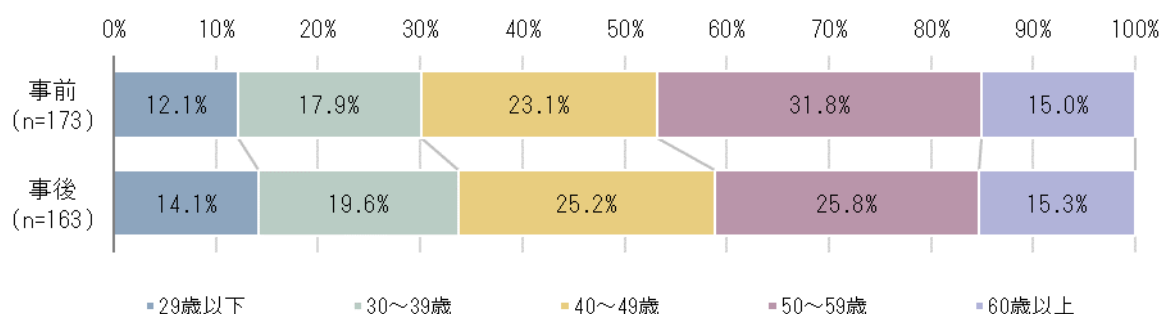
【日本語教師の性別】

- 日本語教師の性別については、事前・事後とも女性が 7 割強と男性に比べて多くなっている。



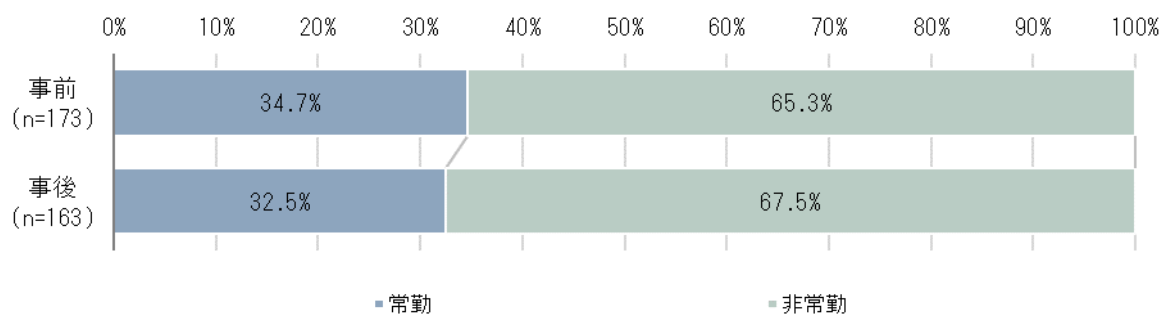
【日本語教師の年齢】

- 日本語教師の年齢については、事前・事後とも「50～59 歳」(31.8%、25.8%) が最も多く、次いで、「40～49 歳」(23.1%、25.2%) が多くなっている。



【日本語教師の勤務形態】

- 日本語教師の勤務形態は、事前・事後とも「非常勤」が 7 割弱と、「常勤」に比べて多くなっている。

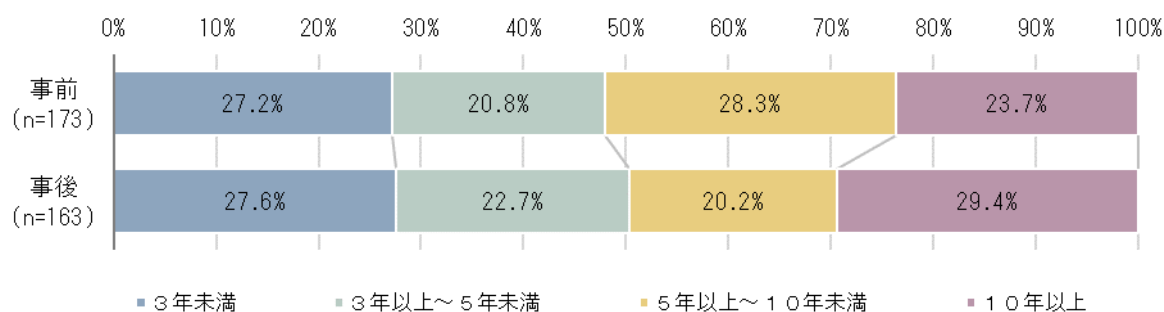


② 日本語教師のスキル・指導期間等

【日本語教師としての指導期間】

(初期アウトカム)

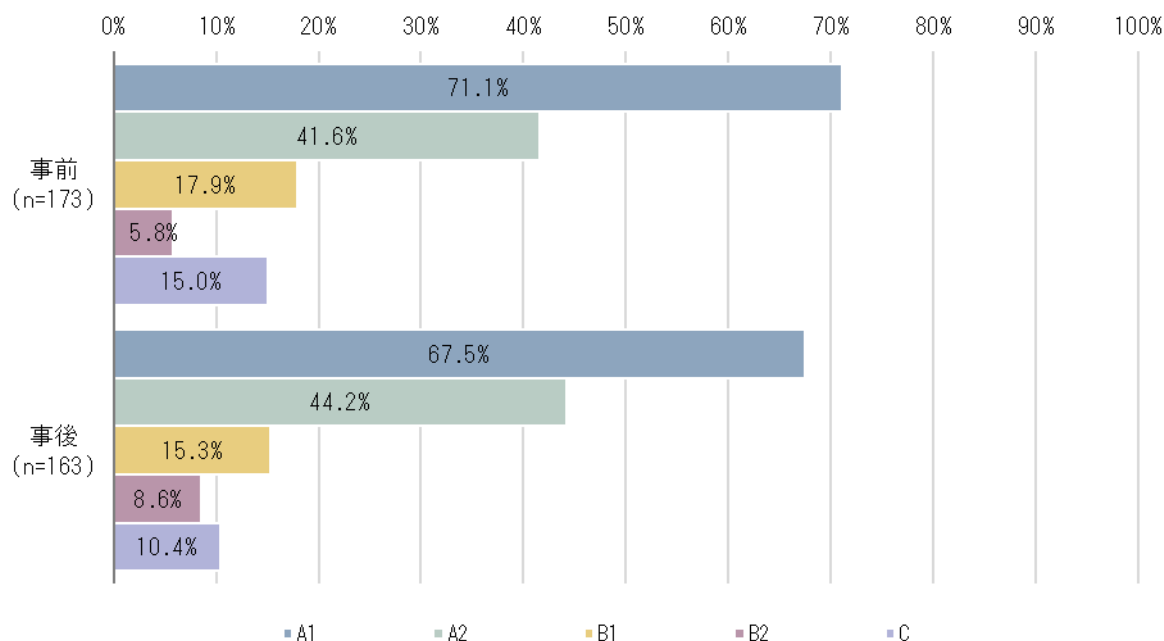
- 日本語教師の日本語教師としての指導期間については、事前は「5年以上～10年未満」(28.3%)が最も多く、事後は「10年以上」(29.4%)が最も多くなっているが、各年代別にそれほど大きな差はない。



【担当するオンライン日本語教育プログラムのレベル】

(初期アウトカム)

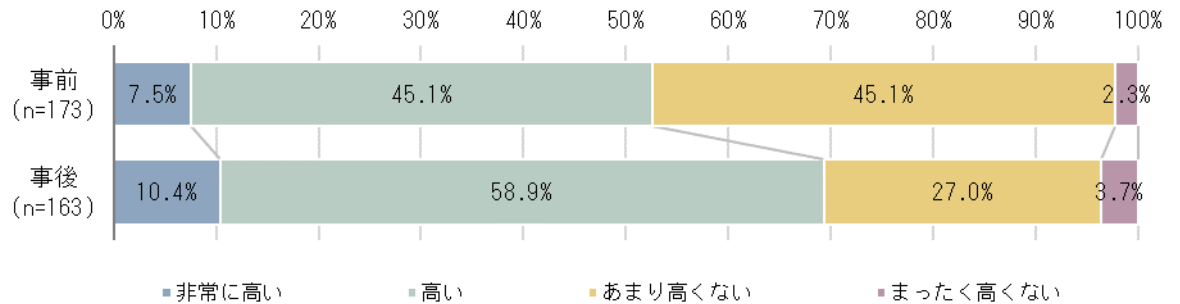
- 日本語教師の担当するオンライン日本語教育プログラムのレベルは、事前・事後とも「A1」(71.1%、67.5%)が最も多く、次いで、「A2」(41.6%、44.2%)が多くなっており、初級者レベルが大半となっている。



【日本語の教授能力・スキルの高さ】

（初期アウトカム）

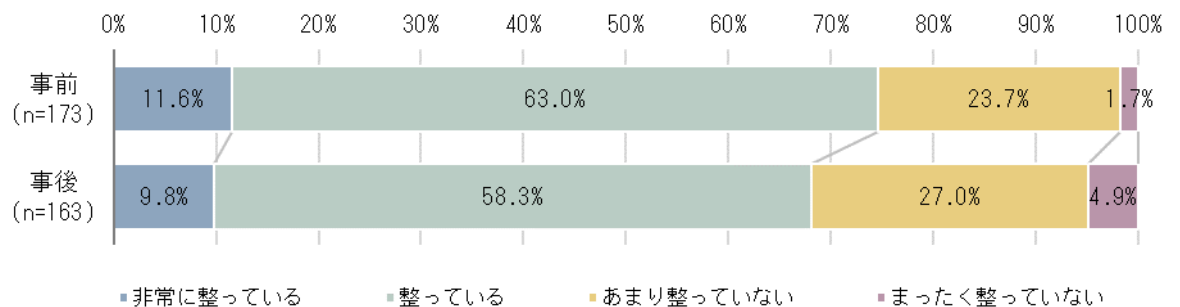
- ・日本語教師の日本語の教授能力・スキルの高さについては、事前・事後で「非常に高い」と「高い」を合わせた割合が大きく増加（52.6%→69.3%）している。



【日本語教育の環境が質的・量的に整っているか】

（初期アウトカム）

- ・日本語教育の環境が質的・量的に整っているかについては、「非常に整っている」と「整っている」を合わせた割合が減少（74.6%→68.1%）している。

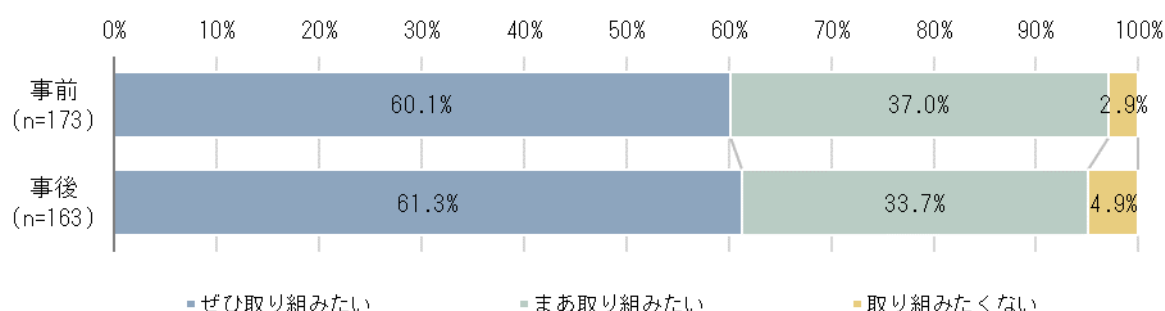


③ オンライン教育への興味・関心

【今後もオンライン教育に取り組んでいきたいか】

(初期アウトカム)

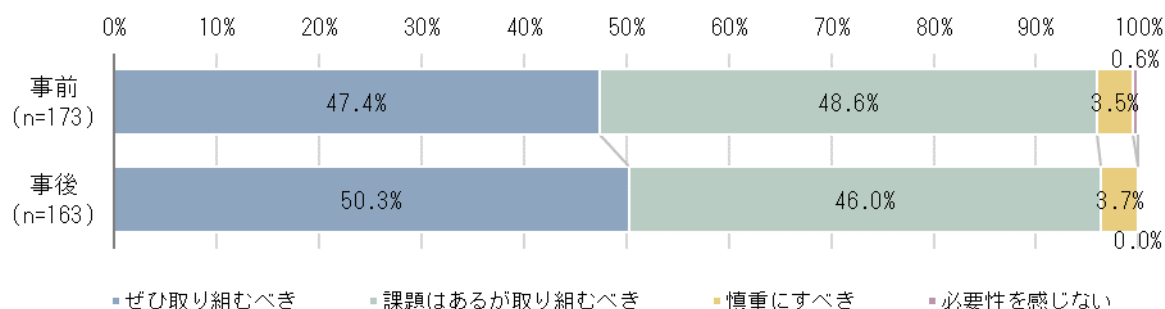
- ・今後もオンライン教育に取り組んでいきたいかについては、事前・事後で「ぜひ取り組みたい」が若干増加（60.1%→61.3%）している。
- ・事前・事後とも、「ぜひ取り組みたい」と「まあ取り組みたい」を合わせると、9割以上となっており、ほとんどの日本語教師が取り組みたいと考えている。



【日本語教育機関が渡日前の日本語教育をオンラインで実施したり、通学が困難な学習者へのオンラインによる日本語学習機会の提供を今後積極的に取り組むべきだと思うか】

(初期アウトカム)

- ・日本語教育機関が渡日前の日本語教育をオンラインで実施したり、通学が困難な学習者へのオンラインによる日本語学習機会の提供を今後積極的に取り組むべきだと思うかについては、事前・事後で「ぜひ取り組むべき」が増加（47.4%→50.3%）している。
- ・「ぜひ取り組むべき」と「課題はあるが取り組むべき」を合わせると、9割以上となっており、ほとんどの日本語教師が取り組むべきと考えている。

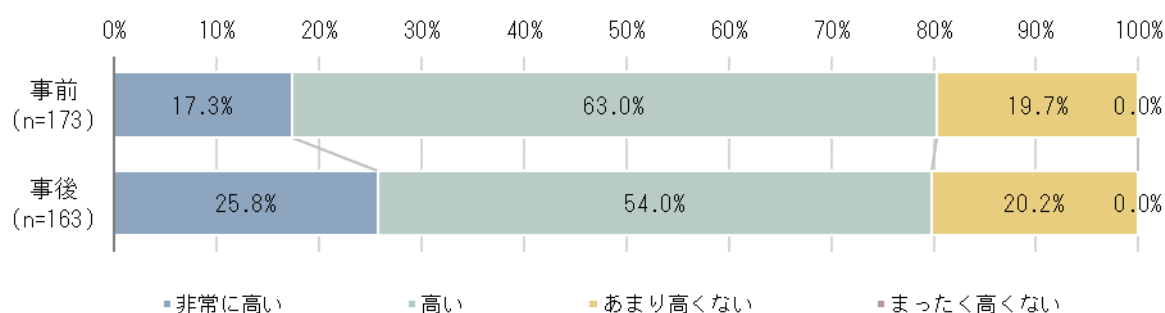


④ 外国人の日本・日本語への興味・関心

【外国人の日本留学の動機は高いか】

(中間アウトカム)

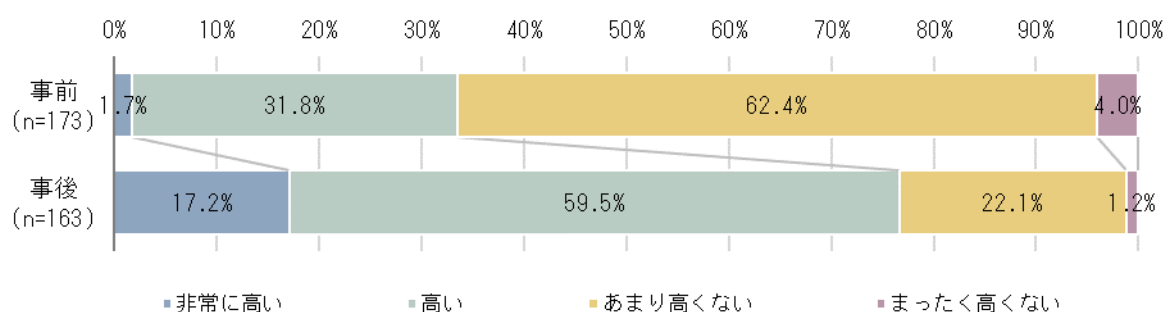
- ・外国人の日本留学の動機は高いかについては、事前・事後で「非常に高い」が大きく増加（17.3%→25.8%）している。
- ・事後データで見ると、「非常に高い」と「高い」を合わせると8割程度となっており、日本語教師の多くは、外国人の日本留学の動機は高いと考えている。



【外国人の日本語能力は高いか】

(中間アウトカム)

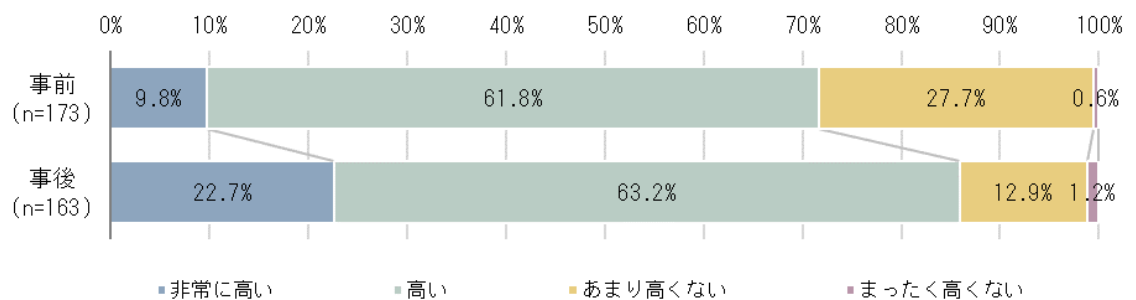
- ・外国人の日本語能力については事前・事後で「非常に高い」が大きく増加（1.7%→17.2%）するとともに、「高い」も大きく増加（31.8%→59.5%）している。
- ・事後データで見ると、「非常に高い」と「高い」を合わせると、8割弱となっており、プログラムを実施した結果、日本語教師の多くは、外国人の日本語能力は向上したと考えている。



【外国人の日本の社会に対する理解や文化に対する関心は高いか】

（中間アウトカム）

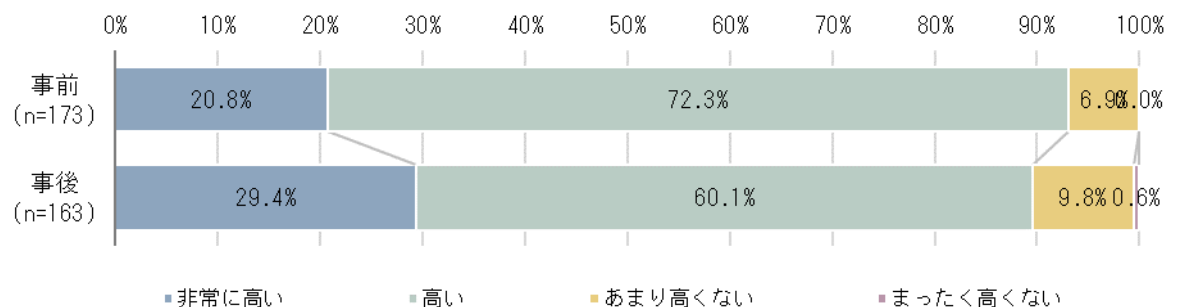
- ・外国人の日本の社会に対する理解や文化に対する関心は高いかについては、事前・事後で「非常に高い」が大きく増加（9.8%→22.7%）している。
- ・事後データで見ると、「非常に高い」と「高い」を合わせると9割弱となっており、日本語教師の多くは、外国人の日本の社会に対する理解や文化に対する関心は増したと考えている。



【外国人の日本に対する好感度は高いか】

（中間アウトカム）

- ・外国人の日本に対する好感度は高いかについては、事前・事後で「非常に高い」が増加（20.8%→29.4%）している。
- ・事後データで見ると、「非常に高い」と「高い」を合わせると9割程度となっており、日本語教師の多くは、外国人の日本に対する好感度は高いと考えている。

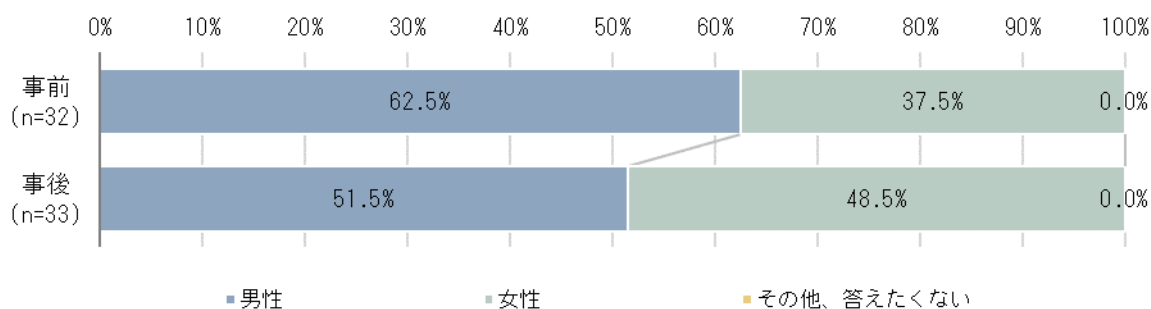


(4) 日本語教育機関責任者の事前・事後データ

① 属性

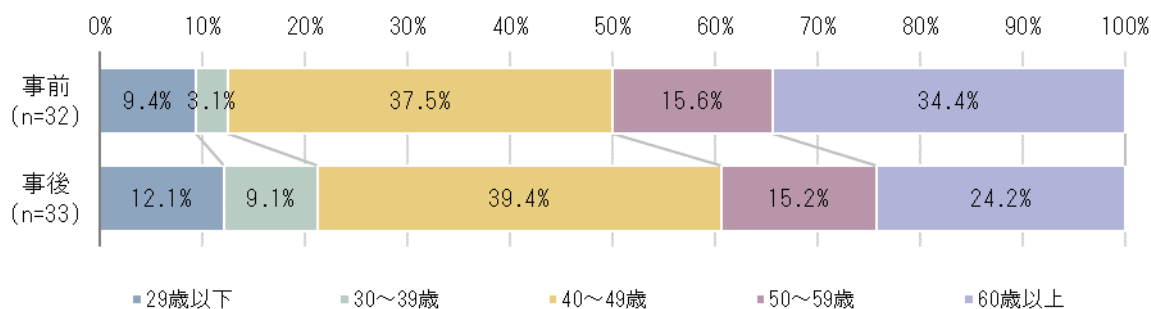
【日本語教育機関責任者の性別】

- ・日本語教育機関責任者の性別については、事前・事後とも男性の割合の方が女性よりも多くなっている。



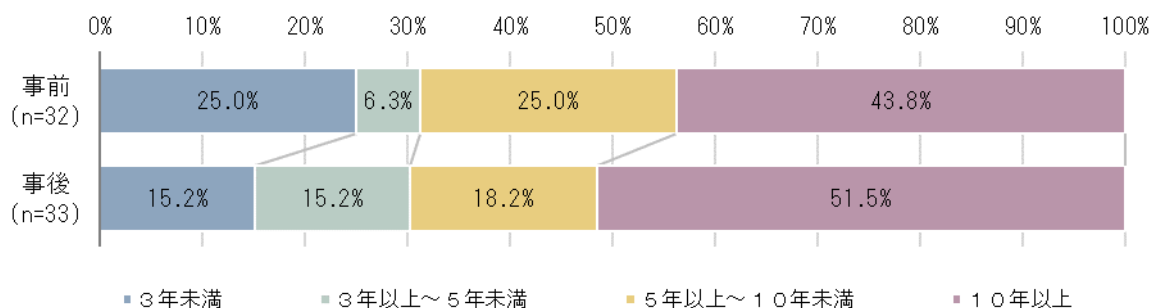
【日本語教育機関責任者の年齢】

- ・日本語教育機関責任者の年齢については、事前・事後とも「40～49 歳」(37.5%、39.4%) が最も多く、次いで、「60 歳以上」(34.4%、24.2%) が多くなっている。



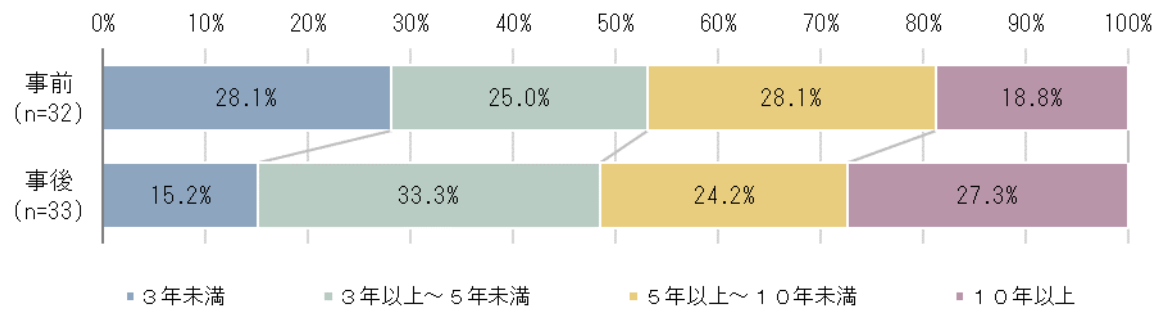
【日本語教育機関責任者の日本語教師としての指導期間】

- ・日本語教育機関責任者の日本語教師としての指導期間については、事前・事後とも「10 年以上」(43.8%、51.5%) が最も多くなっている。



【日本語教育機関責任者の日本語教育機関の経営期間】

- 日本語教育機関責任者の日本語教育機関の経営期間については、事前は「5年以上～10年未満」と「3年未満」(28.1%)が最も多く、事後は、「3年以上～5年未満」(33.3%)が多くなっている。

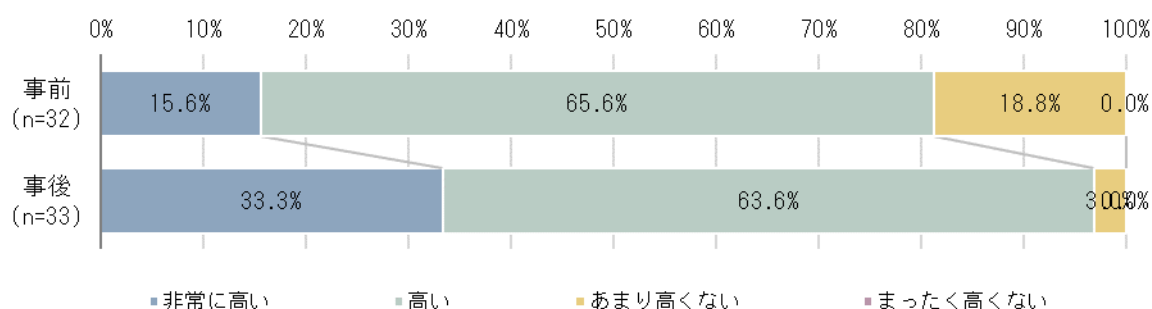


② 日本語教師のスキル・指導期間等

【所属している日本語教師の教授能力・スキルの高さ】

(初期アウトカム)

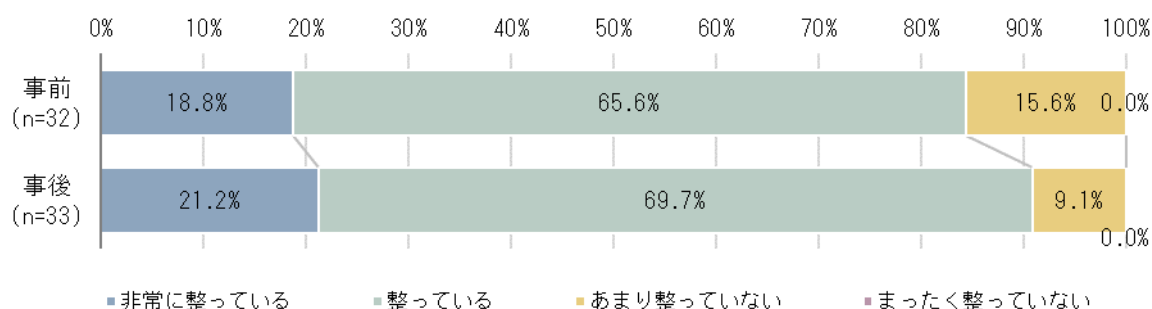
- ・所属している日本語教師の教授能力・スキルの高さについては、事前・事後で「非常に高い」が大きく増加（15.6%→33.3%）している。
- ・事後データで見ると、「非常に高い」と「高い」を合わせると、9割超となっており、ほとんどの日本語教育機関責任者は、所属している日本語教師の教授能力・スキルは高いと考えている。



【自機関は日本語教育の環境が質的・量的に整っているか】

(初期アウトカム)

- ・自機関は日本語教育の環境が質的・量的に整っているかについては、「非常に整っている」が増加（18.8%→21.2%）するとともに、「整っている」も増加（65.6%→69.7%）している。
- ・事後データで見ると、「非常に整っている」と「整っている」の回答を合わせると、約9割と高くなっており、ほとんどの日本語教育機関責任者は、自機関は日本語教育の環境が質的・量的に整っていると考えている。

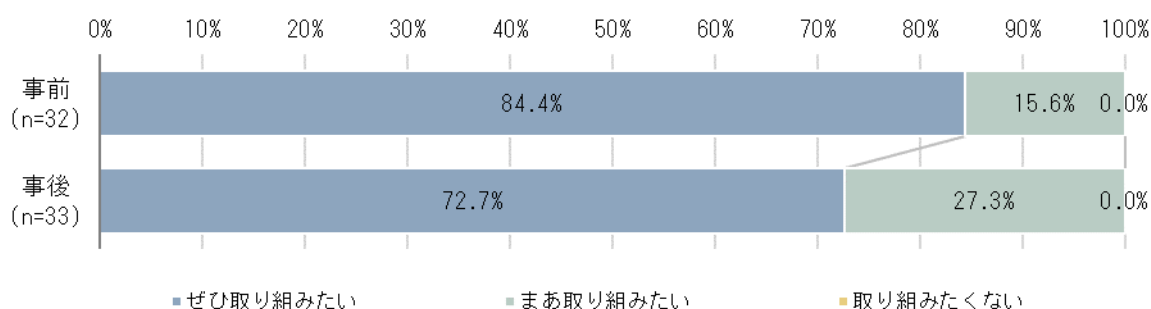


③ オンライン教育への興味・関心

【今後もオンライン教育に取り組んでいきたいか】

(初期アウトカム)

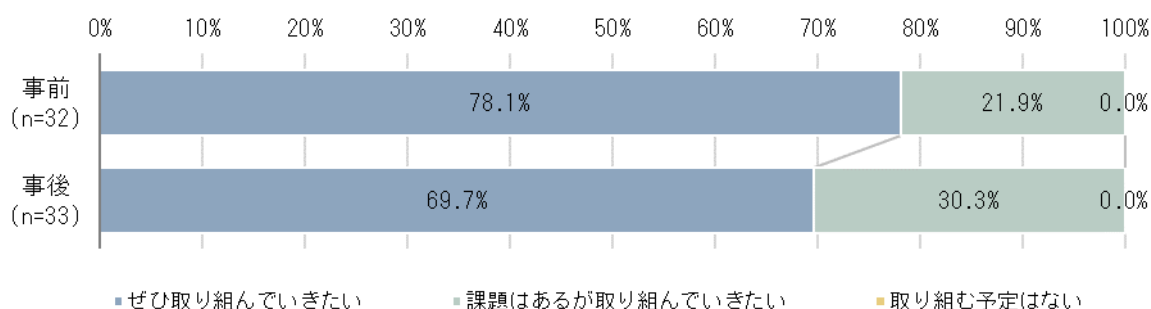
- ・今後もオンライン教育に取り組んでいきたいかについては、事前・事後では、「ぜひ取り組みたい」が減少（84.4%→72.7%）している。
- ・事前・事後とも、「ぜひ取り組みたい」と「まあ取り組みたい」を合わせると、10割となっており、すべての日本語教育機関責任者が今後もオンライン教育取り組みたいと考えている。



【日本語教育機関が渡日前の日本語教育をオンラインで実施したり、通学が困難な学習者へのオンラインによる日本語学習機会の提供を今後積極的に取り組むべきだと思うか】

(初期アウトカム)

- ・日本語教育機関が渡日前の日本語教育をオンラインで実施したり、通学が困難な学習者へのオンラインによる日本語学習機会の提供を今後積極的に取り組むべきだと思うかについては、「ぜひ取り組んでいきたいが、減少（78.1%→69.7%）している。
- ・事前・事後とも、「ぜひ取り組んでいきたい」と「課題はあるが取り組んでいきたい」を合わせると、10割となっており、すべての日本語教育機関責任者が取り組んでいきたいと考えている。

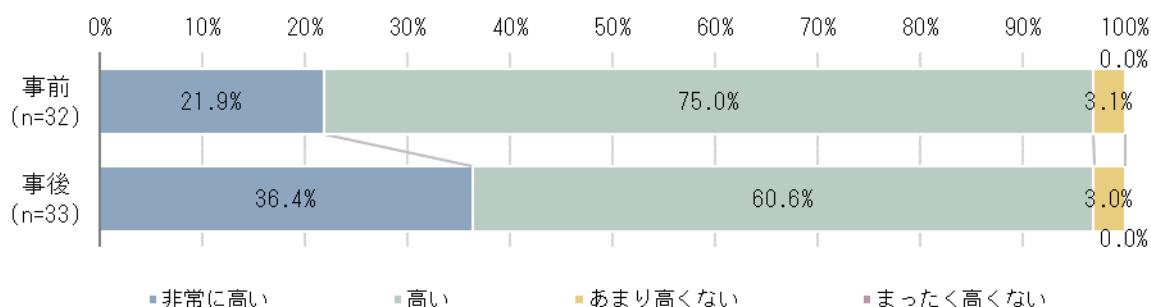


④ 外国人の日本・日本語への興味・関心

【外国人の日本留学の動機は高いか】

(中間アウトカム)

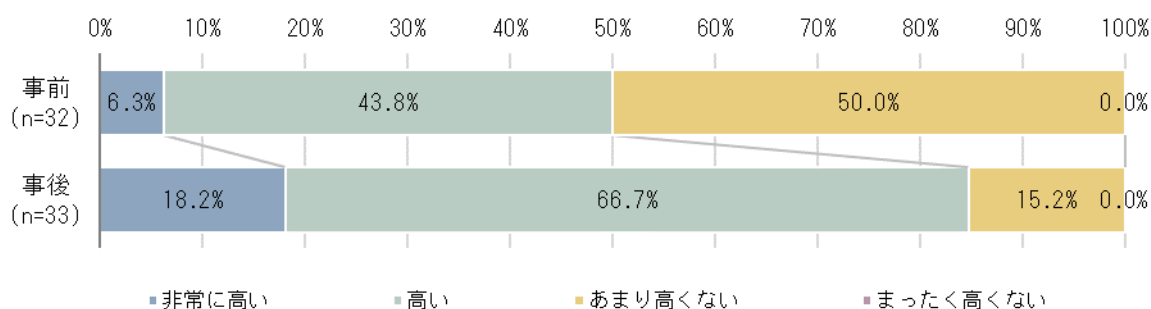
- ・外国人の日本留学の動機は高いかについては事前・事後で「非常に高い」が大きく増加（21.9%→36.4%）している。
- ・事後データで見ると、「非常に高い」と「高い」を合わせると9割強となっており、ほとんどの日本語教育機関責任者は、外国人の日本留学の動機は高まったと考えている。



【外国人の日本語能力は高いか】

(中間アウトカム)

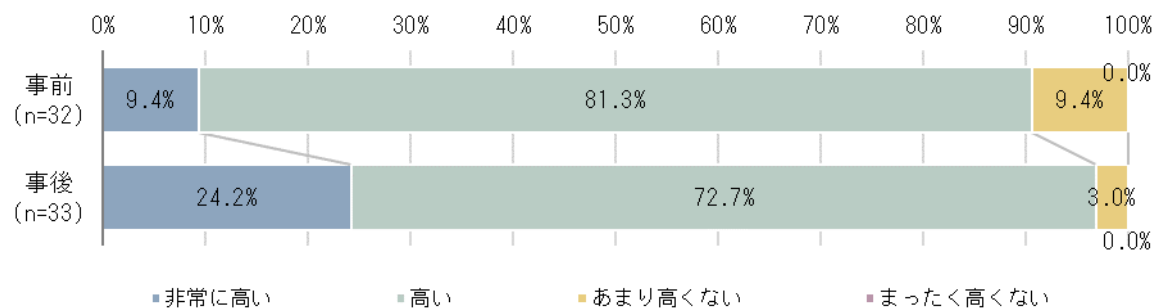
- ・外国人の日本語能力については、「非常に高い」が大きく増加（6.3%→18.2%）するとともに、「高い」も大きく増加（43.8%→66.7%）している。
- ・事後データで見ると、「非常に高い」と「高い」を合わせると、8割強となっており、日本語教育機関責任者の多くは外国人の日本語能力は向上したと考えている。



【外国人の日本の社会に対する理解や文化に対する関心は高いか】

（中間アウトカム）

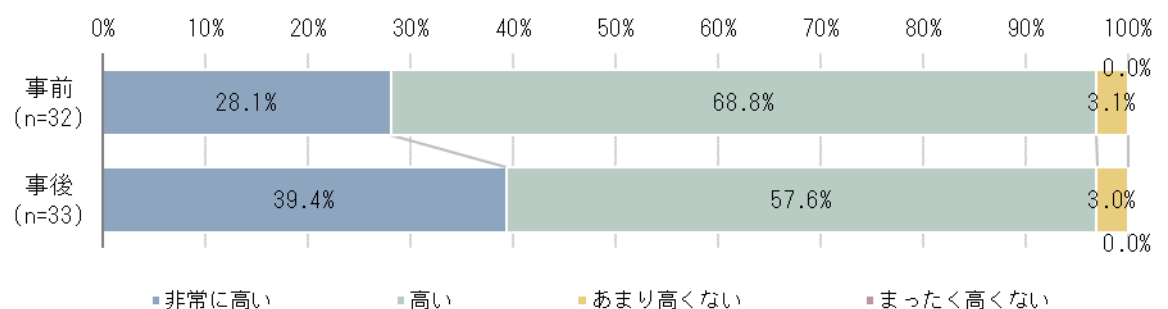
- ・外国人の日本の社会に対する理解や文化に対する関心は高いかについては、事前・事後で「非常に高い」が大きく増加（9.4%→24.2%）している。
- ・事後データで見ると、「非常に高い」と「高い」を合わせると9割強となっており、日本語教育機関責任者のほとんどは、外国人の日本の社会に対する理解や文化に対する関心が増したと考えている。



【外国人の日本に対する好感度は高いか】

（中間アウトカム）

- ・外国人の日本に対する好感度は高いかについては事前・事後で「非常に高い」が大きく増加（28.1%→39.4%）している。
- ・事後データで見ると、「非常に高い」と「高い」を合わせると9割強となっており、ほとんどの日本語教育機関責任者は、外国人の日本に対する好感度は増したと考えている。



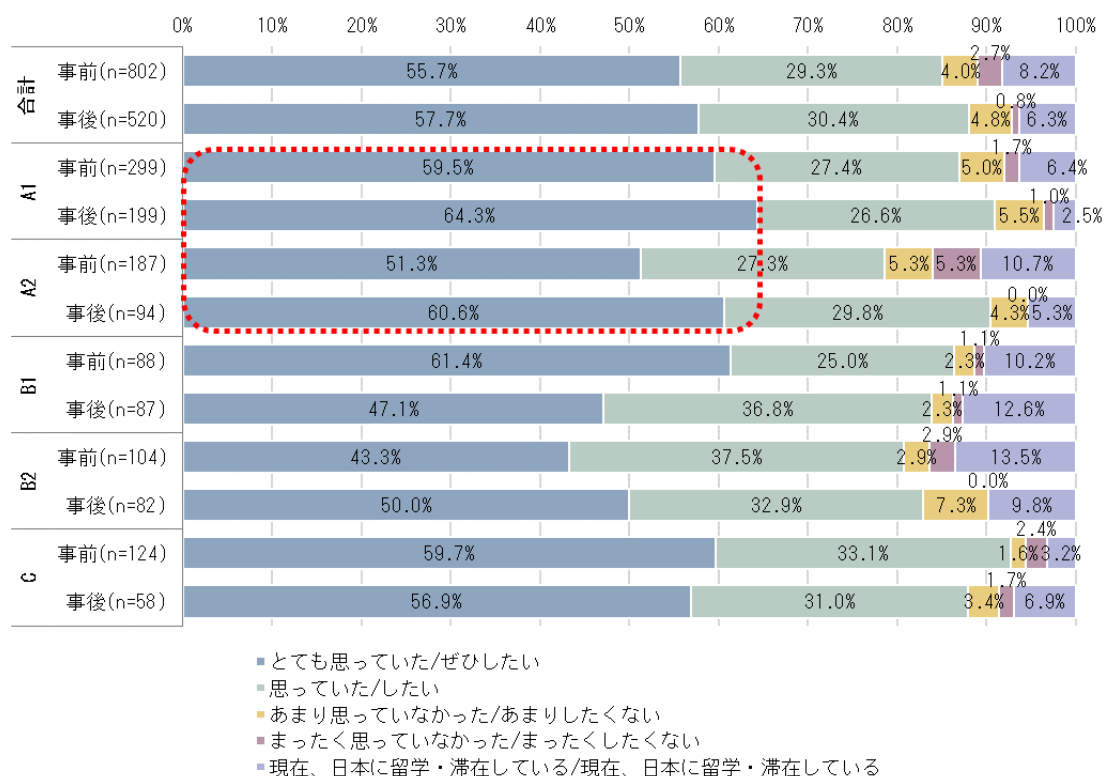
(5) プログラムの難易度別の事前・事後データ

① 学習者

【日本に留学したいと思っていたか／留学しなくなったか】

(初期アウトカム)

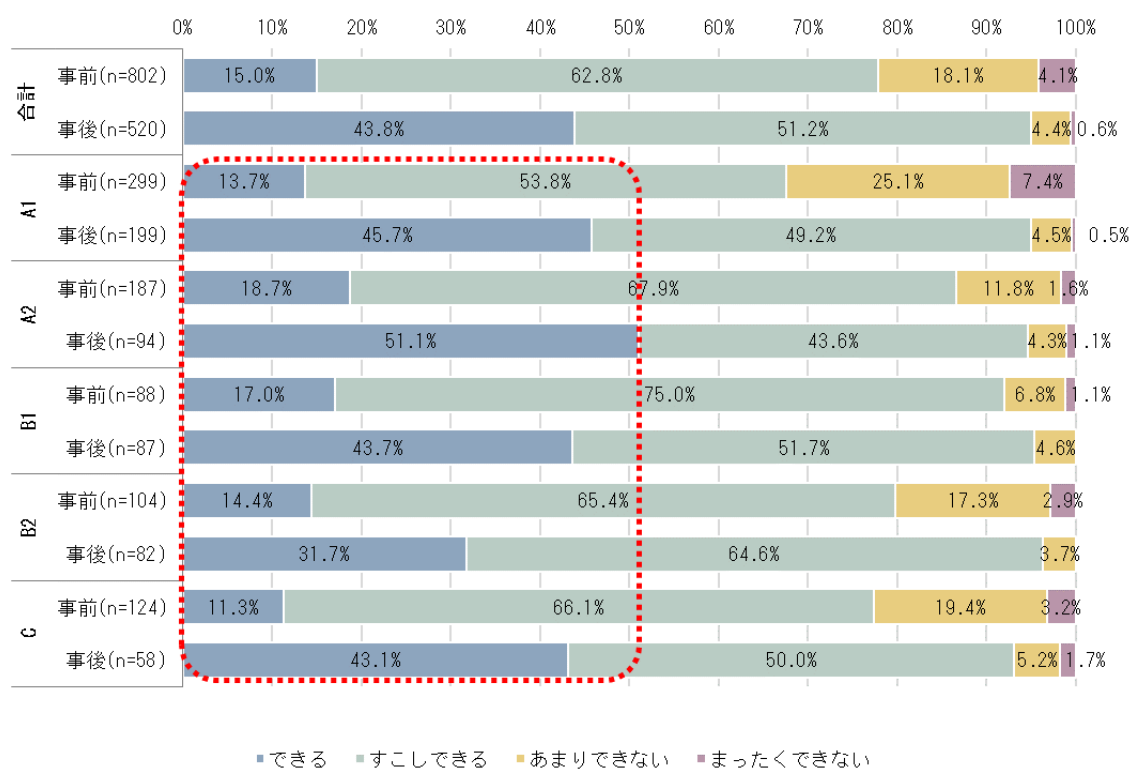
- ・プログラムの難易度別にみると、学習者の日本への留学志望については、初級において、事前の「とても思っていた」(56.4%)が、事後では「ぜひしたい」(63.1%)と増加している。



【どれくらい日本語ができるか／できるようになったか】

(初期アウトカム)

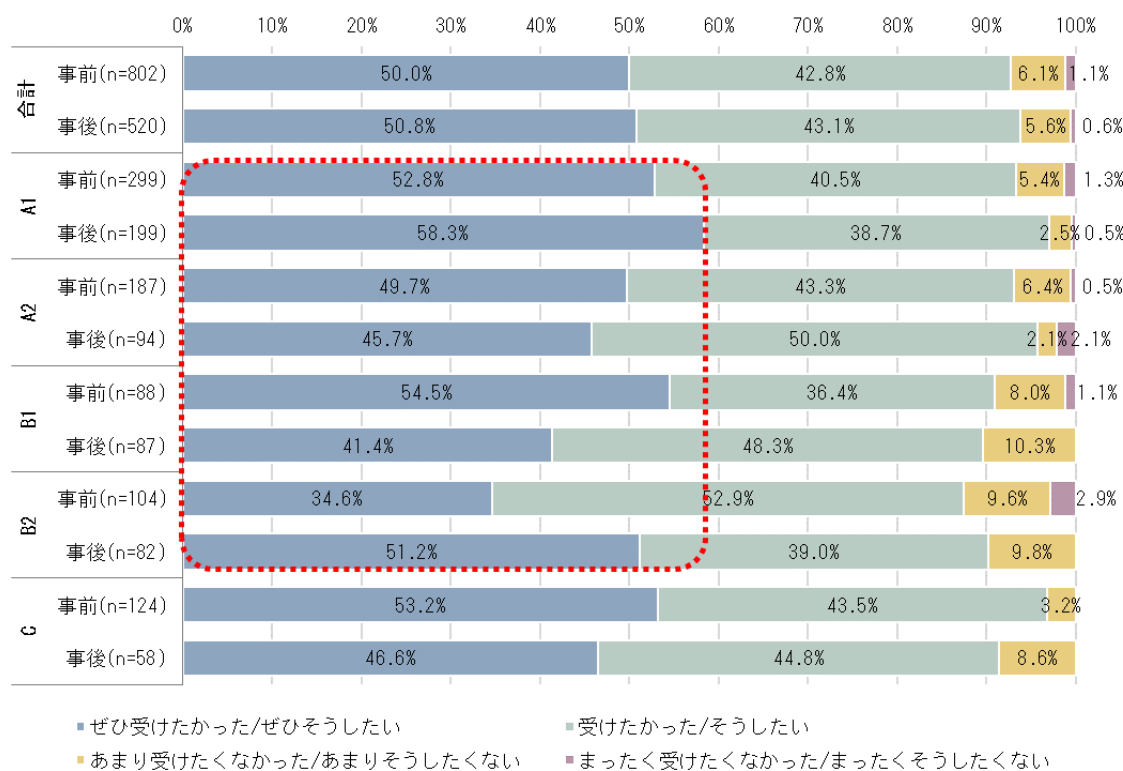
- ・プログラムの難易度別にみると、学習者の日本語の能力については、「できる」が初級（15.6%→47.4%）、中級（15.6%→37.9%）、上級（11.3%→43.1%）とすべてのレベルで、事後に大きく増加している。



【オンライン日本語教育プログラムを受けたかったか／受け続けたいか】

(初期アウトカム)

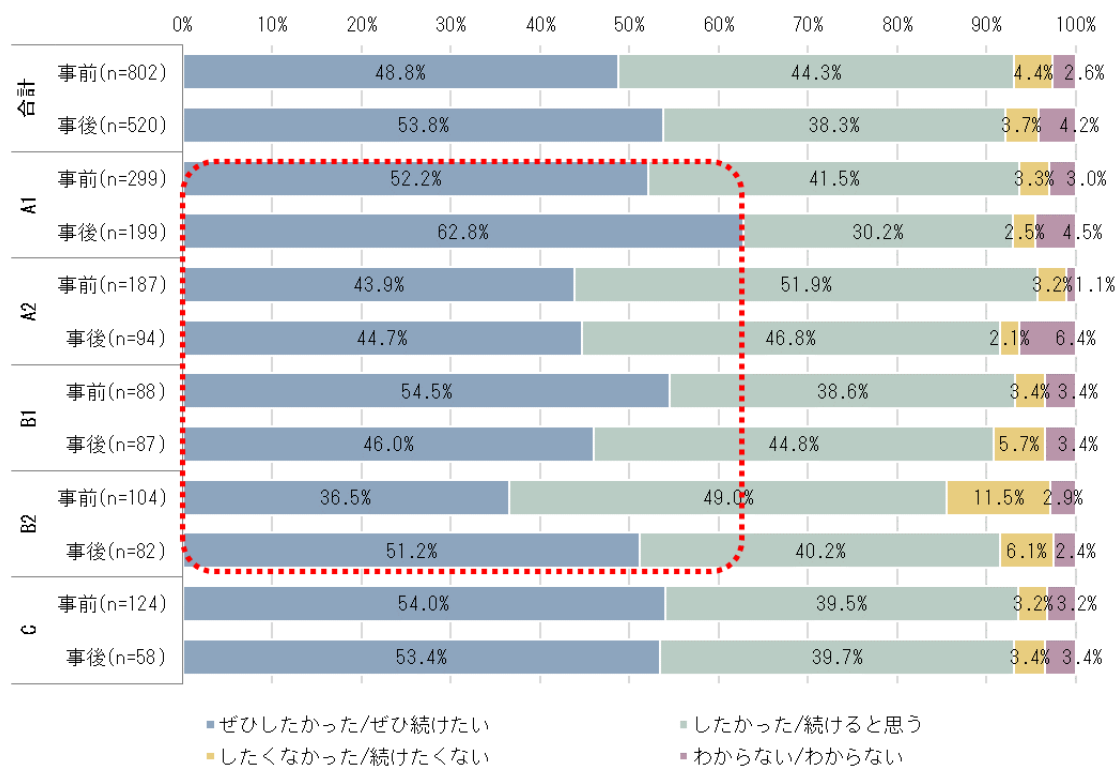
- プログラムの難易度別にみると、学習者のオンライン日本語教育プログラムの受講希望については、初級において、事前の「ぜひ受けたかった」(51.6%)が、事後では「ぜひそうしたい」(54.3%)と増加している。また、中級において、事前の「ぜひ受けたかった」(43.8%)が、事後では「ぜひそうしたい」(46.2%)と増加している。



【オンラインで日本語を勉強したかったか／勉強し続けたいか】

(初期アウトカム)

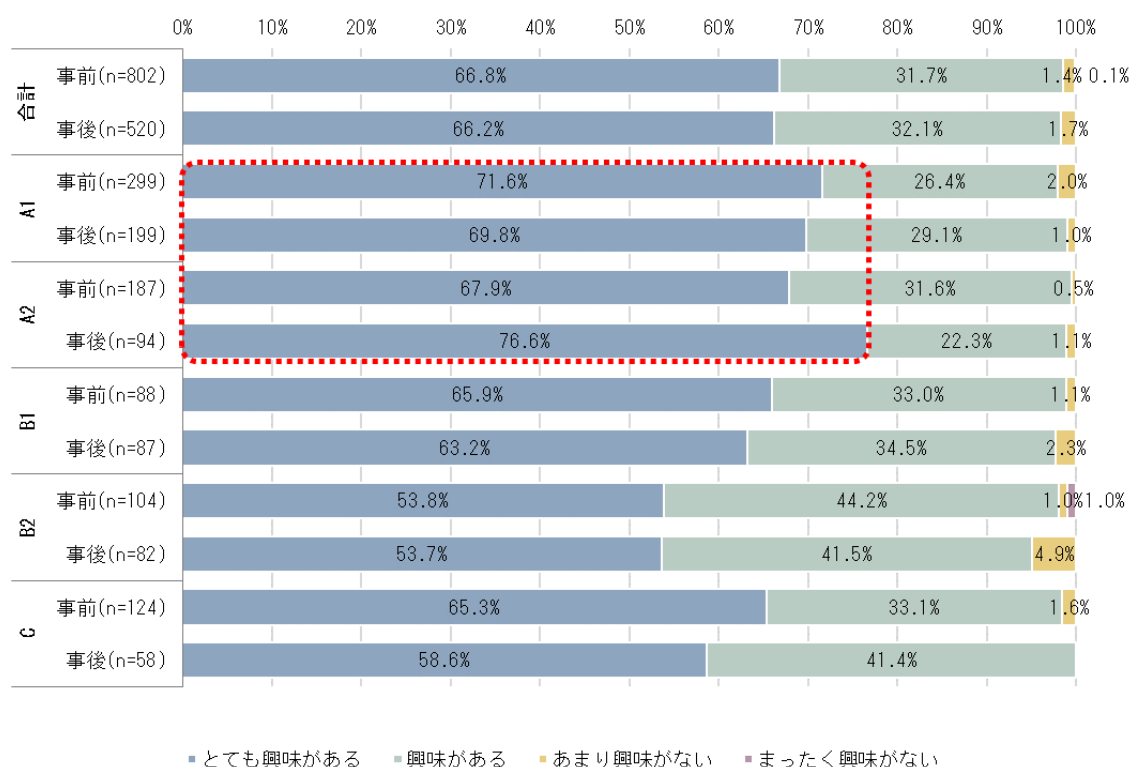
- プログラムの難易度別にみると、学習者のオンライン日本語教育の志望度については、初級において、事前の「ぜひしたかった」(49.0%)が、事後では「ぜひ続けたい」(57.0%)と増加している。また、中級においても、事前の「ぜひしたかった」(44.8%)が、事後では「ぜひ続けたい」(48.5%)と増加している。



【どれぐらい日本の社会や文化に興味があるか】

(中間アウトカム)

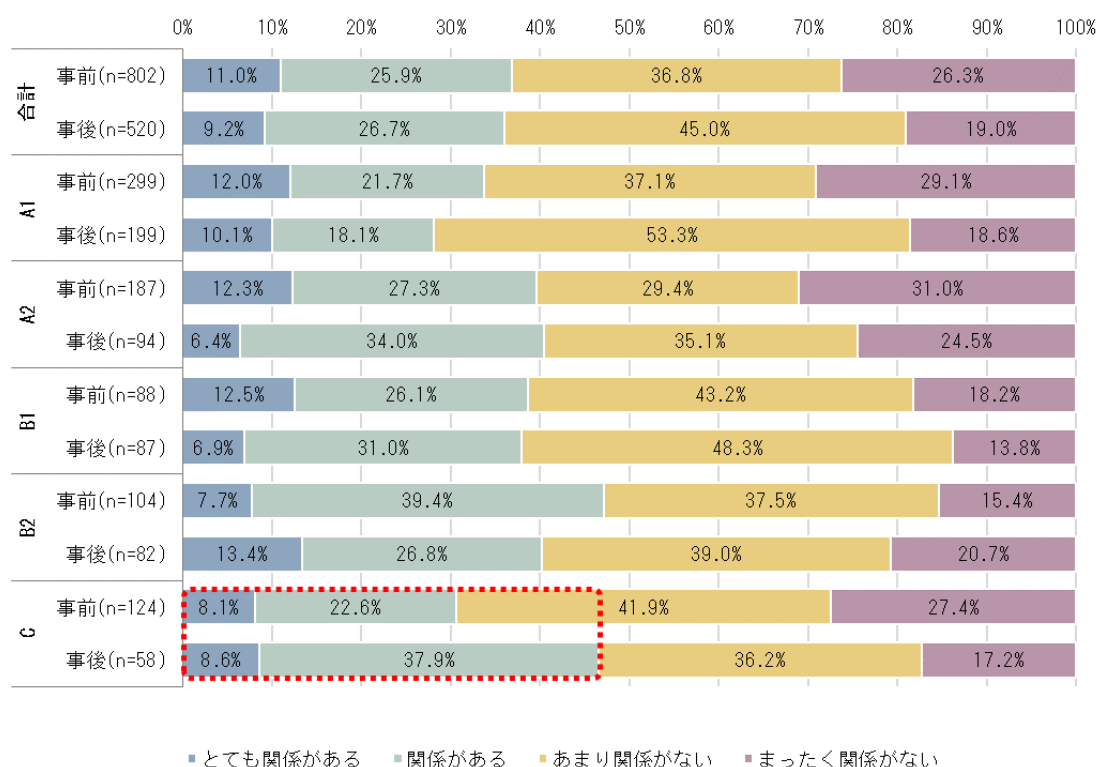
- ・プログラムの難易度別にみると、学習者の日本の社会や文化に対する興味については、初級において、事前・事後で「とても興味がある」が若干増加（70.2%→72.0%）している。



【どれぐらい日本のコミュニティや日本人と関係があるか】

(中間アウトカム)

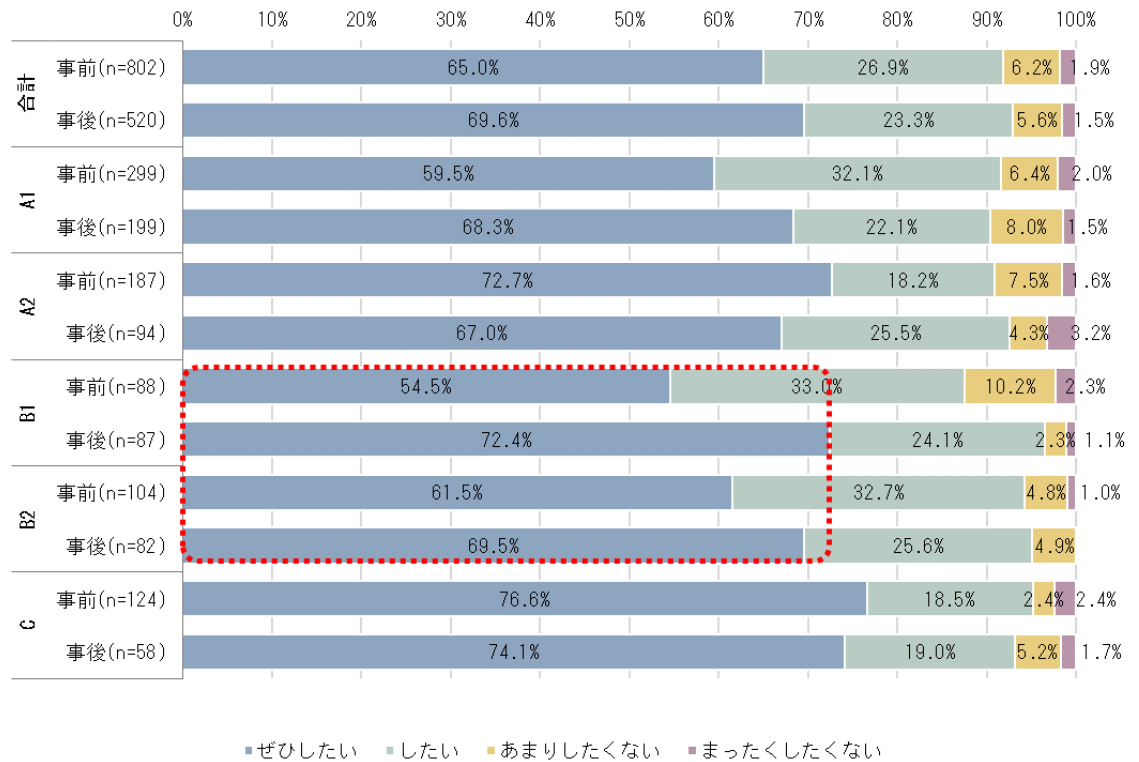
- ・プログラムの難易度別にみると、学習者の日本のコミュニティや日本人と関係があるかについては、上級において、事前・事後で「とても関係がある」と「関係がある」を合わせた割合が大きく増加（30.7%→46.5%）している。



【将来日本で仕事をしたいか】

(中間アウトカム)

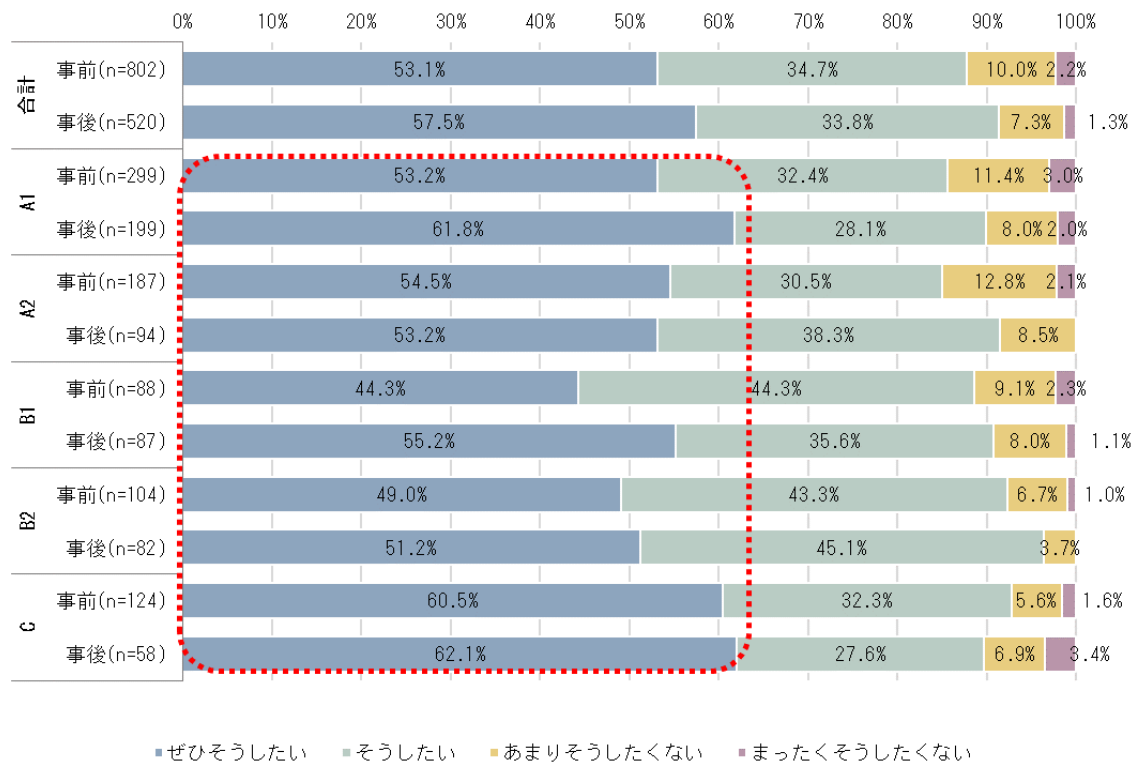
- ・プログラムの難易度別にみると、学習者の将来の日本での就職希望については、中級において、事前・事後で「ぜひしたい」が増加（58.3%→71.0%）している。



【将来日本に住み続けたいか】

(中間アウトカム)

- ・プログラムの難易度別にみると、学習者の将来の日本への居住希望については、いずれのレベルにおいても、事前・事後で「ぜひしたい」が増加（初級：53.7%→59.0%、中級：46.9%→53.3%、上級：60.5%→62.1%）している。

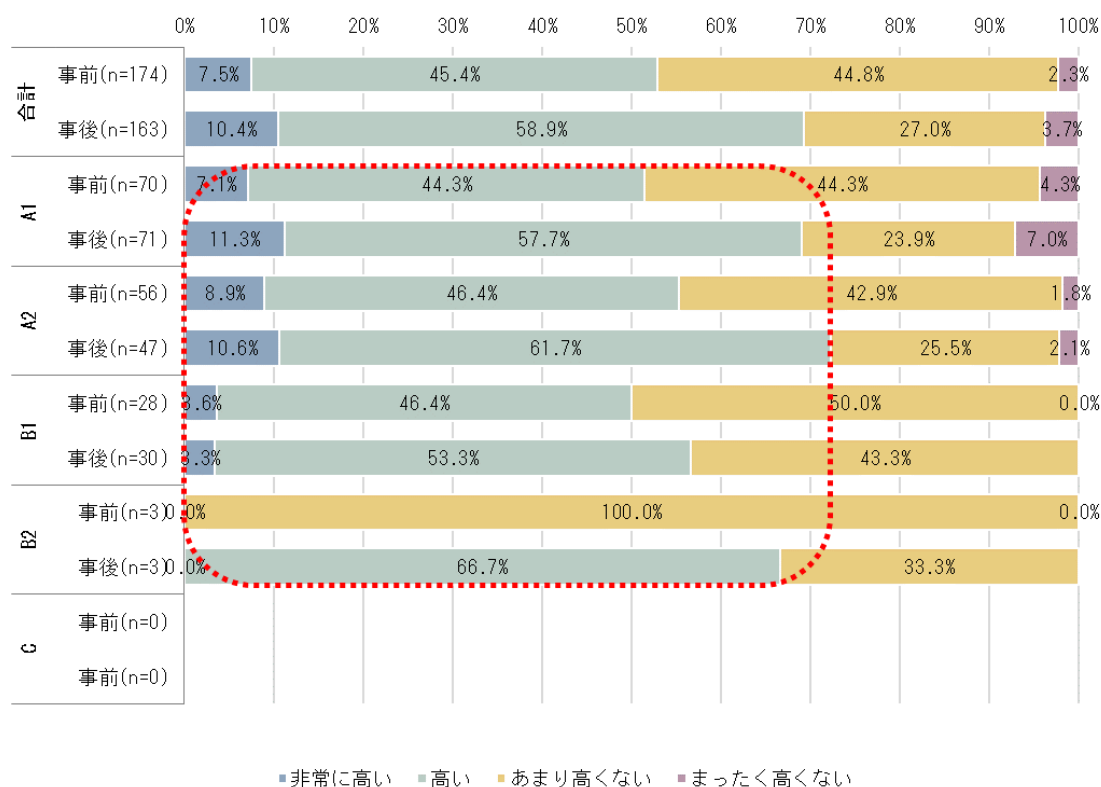


② 日本語教師

【日本語の教授能力・スキルの高さ】

(初期アウトカム)

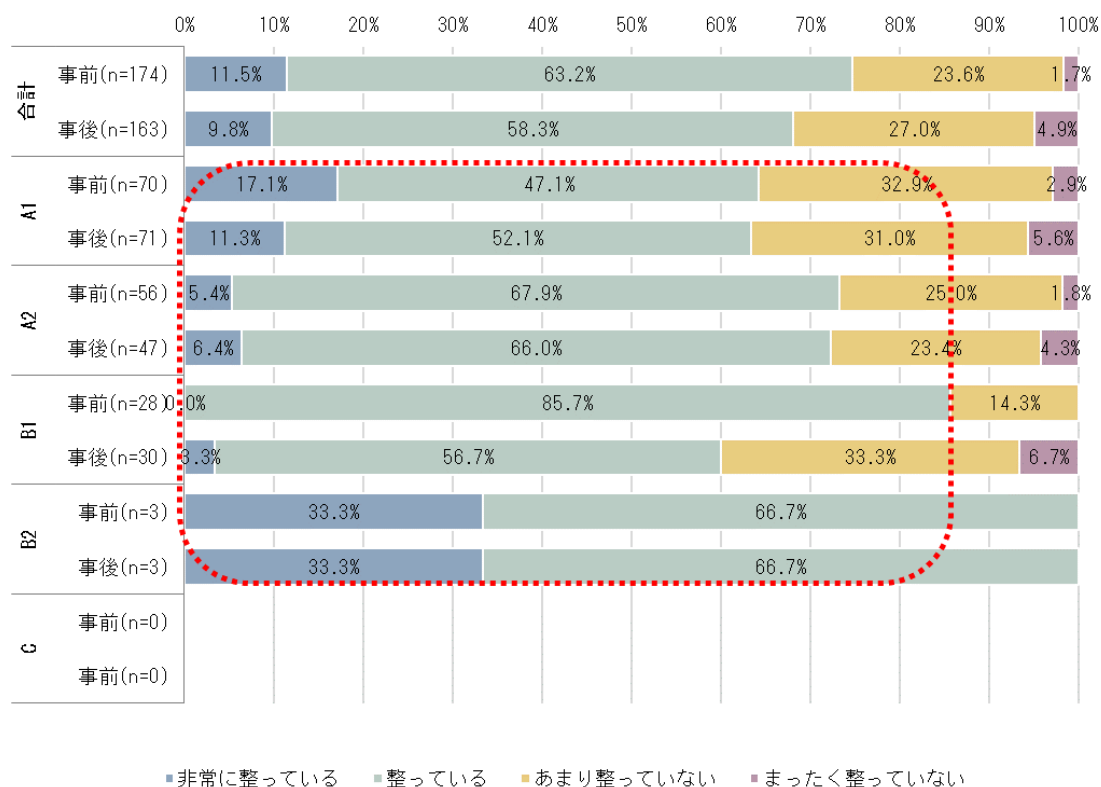
- ・プログラムの難易度別にみると、日本語教師の日本語の教授能力・スキルの高さについては、いずれのレベルにおいても、事前・事後で「非常に高い」と「高い」を合わせた割合が増加（初級：53.1%→70.3%、中級：45.1%→57.5%）している。



【日本語教育の環境が質的・量的に整っているか】

(初期アウトカム)

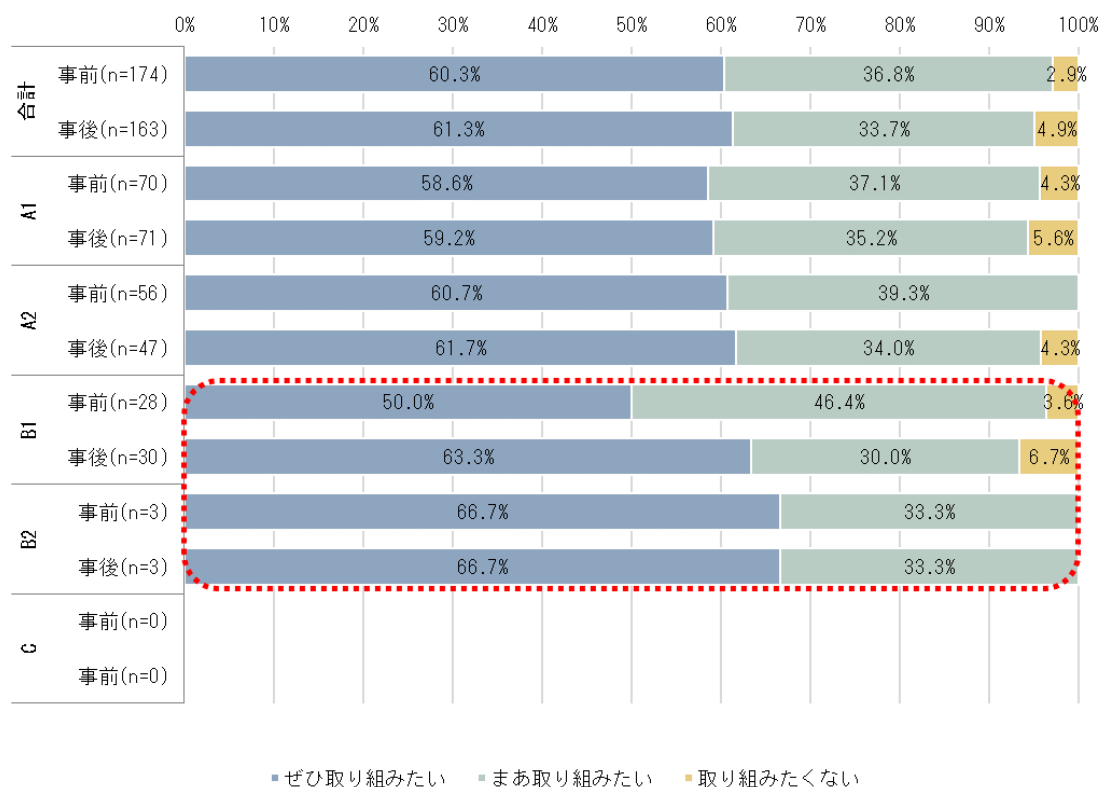
- 日本語教師からみたプログラムの難易度別の日本語教育の環境が質的・量的に整っているかについては、いずれのレベルにおいても、事前・事後で「非常に整っている」と「整っている」を合わせた割合が減少（初級：68.2%→66.9%、中級：87.1%→63.7%）している。



【今後もオンライン教育に取り組んでいきたいか】

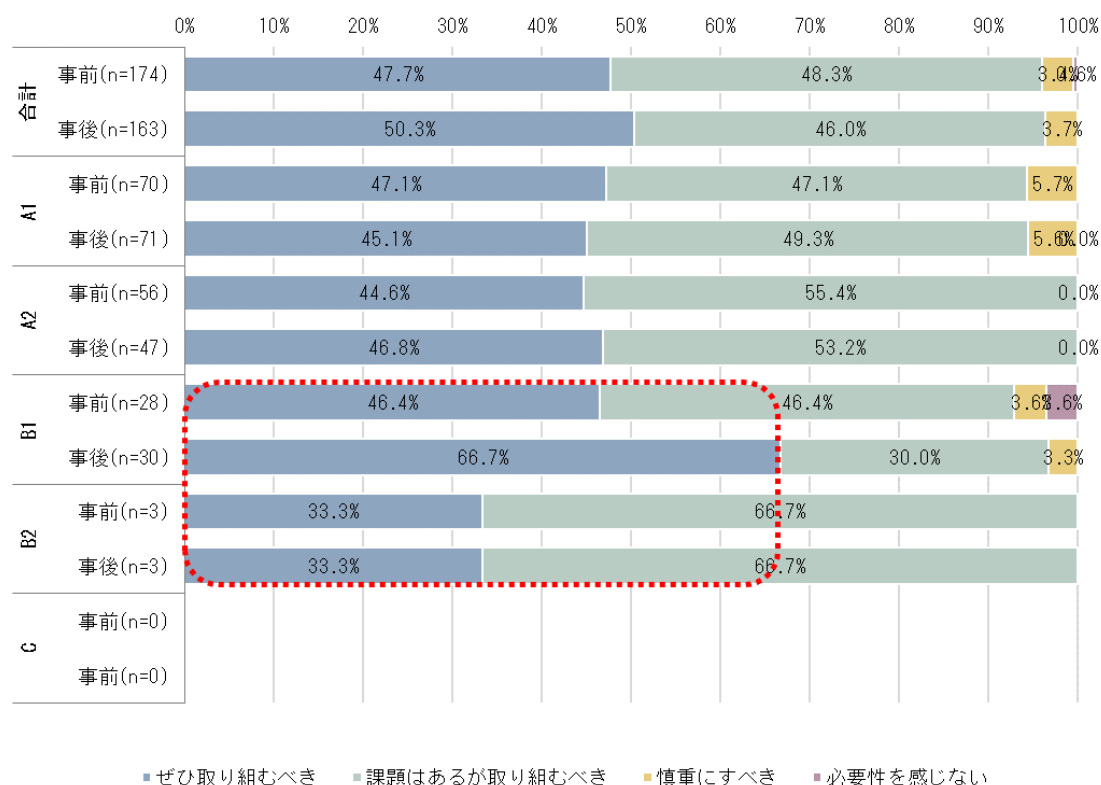
(初期アウトカム)

- ・日本語教師からみたプログラムの難易度別の今後もオンライン教育に取り組んでいきたいかについては、中級において、事前・事後で「ぜひ取り組みたい」が増加（51.6%→63.6%）している。



【オンラインによる日本語学習機会の提供を今後積極的に取り組むべきか】
(初期アウトカム)

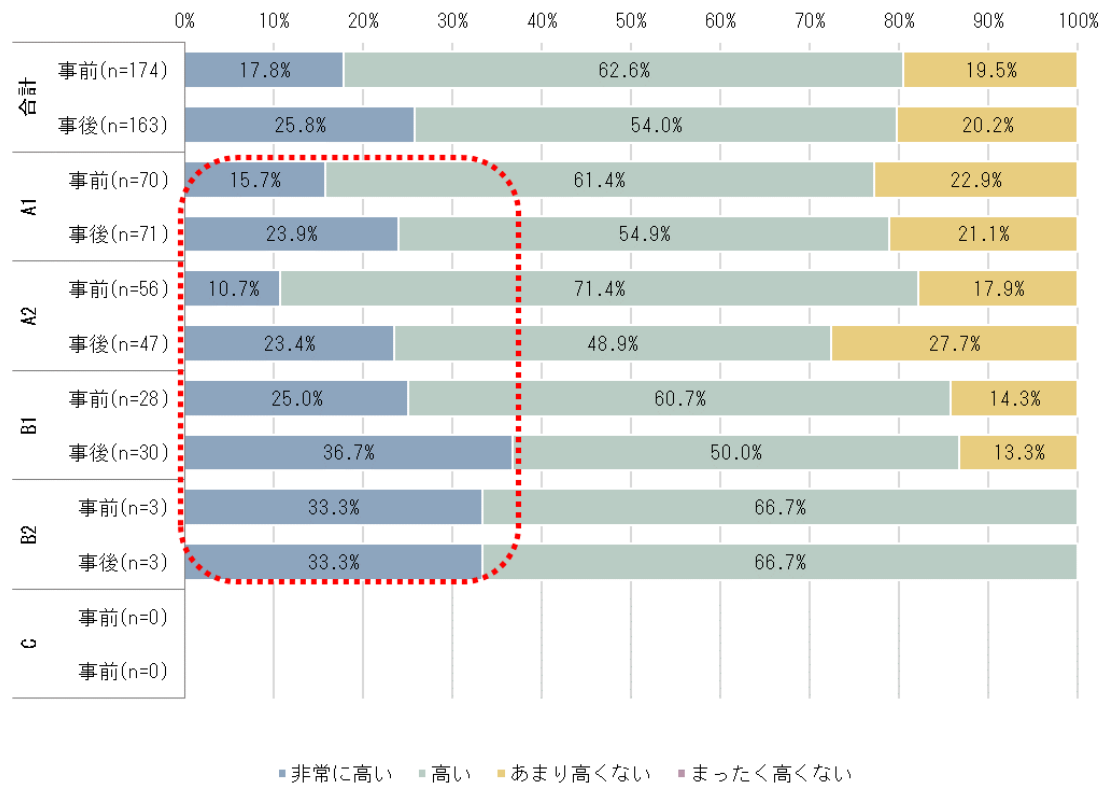
- 日本語教師からみたプログラムの難易度別のオンラインによる日本語学習機会の提供を今後積極的に取り組むべきかについては、中級において、事前・事後で「ぜひ取り組むべき」が大きく増加（45.2%→63.6%）している。



【外国人の日本留学の動機は高いか／高まったか】

(中間アウトカム)

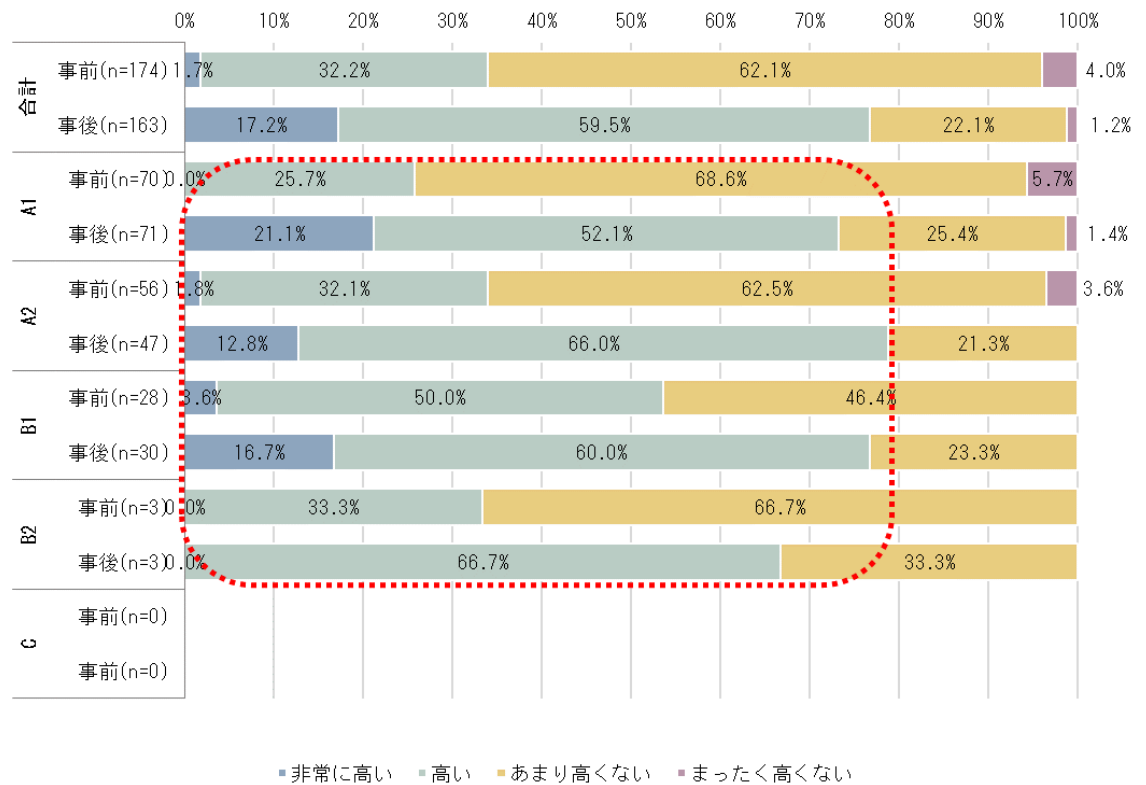
- 日本語教師からみたプログラムの難易度別の外国人の日本留学の動機については、いずれのレベルにおいても、事前・事後で「非常に高い」が増加（初級：13.5%→23.7%、中級：25.8%→36.4%）している。



【外国人の日本語能力は高いか／向上したか】

(中間アウトカム)

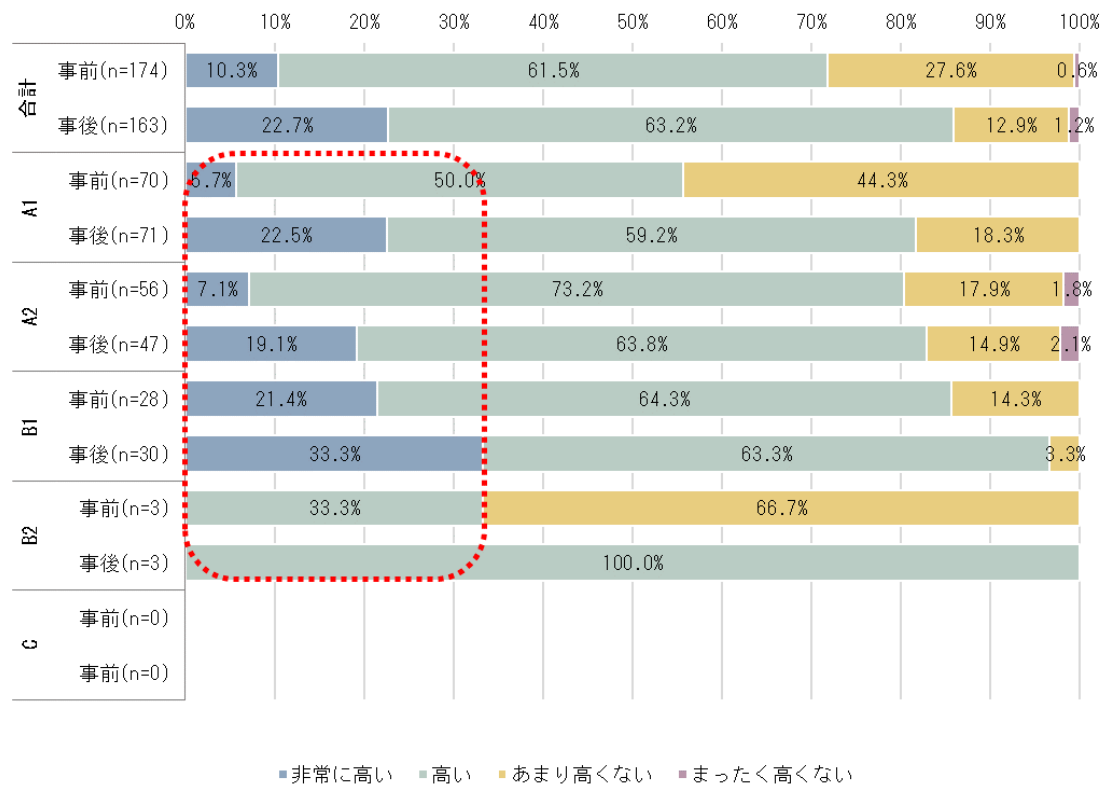
- 日本語教師からみたプログラムの難易度別の外国人の日本語能力については、いずれのレベルにおいても、事前・事後で「非常に高い」と「高い」を合わせた割合が大きく増加（初級：36.6%→75.4%、中級：51.6%→75.8%）している。



【外国人の日本の社会に対する理解や文化に対する関心は高いか／増したか】

(中間アウトカム)

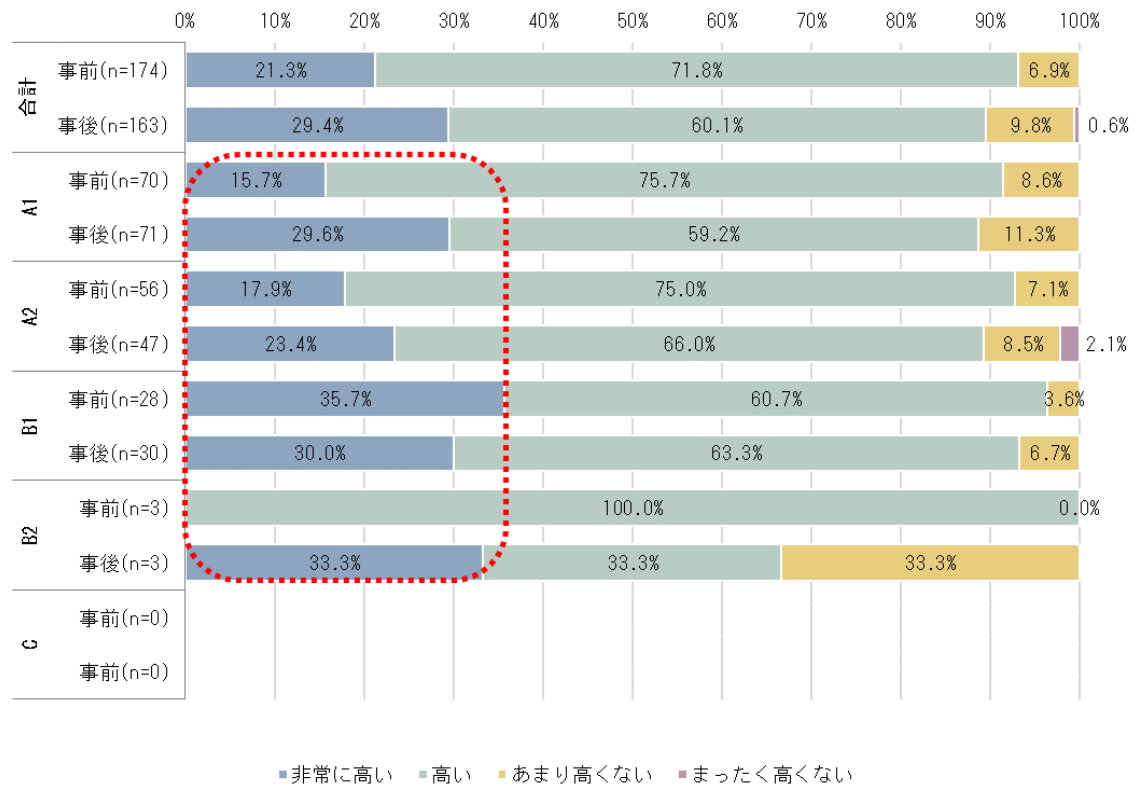
- 日本語教師からみたプログラムの難易度別の外国人の日本の社会に対する理解や文化に対する関心については、いずれのレベルにおいても、事前・事後で「非常に高い」が大きく増加（初級：6.3%→21.2%、中級：19.4%→30.3%）している。



【外国人の日本に対する好感度は高いか／増したか】

(中間アウトカム)

- 日本語教師からみたプログラムの難易度別の外国人の日本に対する好感度については、初級において、事前・事後で「非常に高い」が増加（16.7%→27.1%）している。

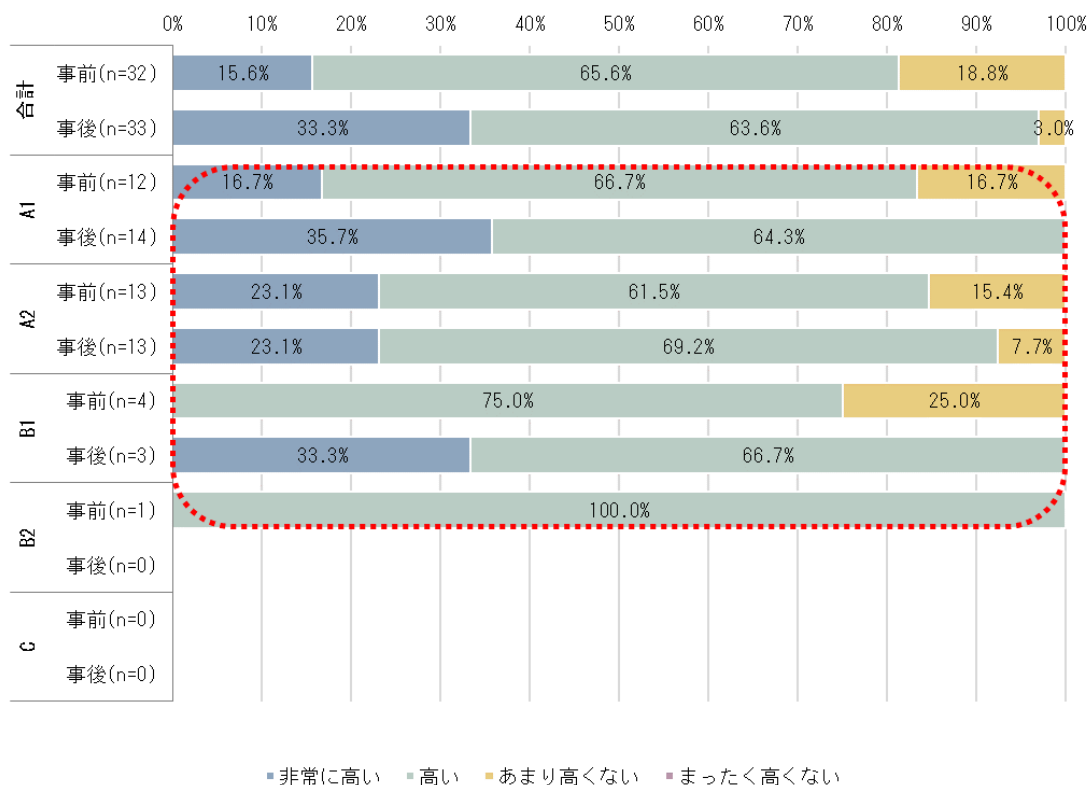


③ 日本語教育機関責任者

【所属している日本語教師の教授能力・スキルは高いか／向上したか】

(初期アウトカム)

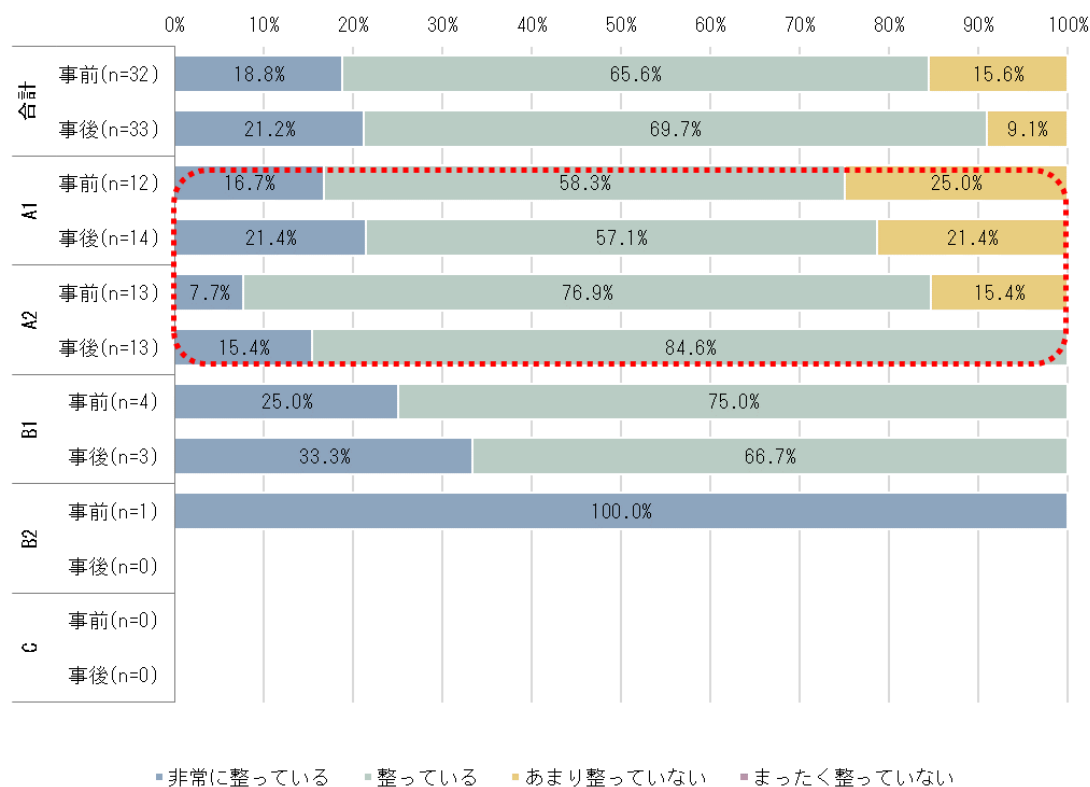
- 日本語教育機関責任者からみたプログラムの難易度別の所属している日本語教師の教授能力・スキルについては、いずれのレベルにおいても、「非常に高い」と「高い」を合わせた割合が大きく増加（初級：84.0%→96.3%、中級：80.0%→100%）している。



【自機関は日本語教育の環境が質的・量的に整っているか／整ったか】

(初期アウトカム)

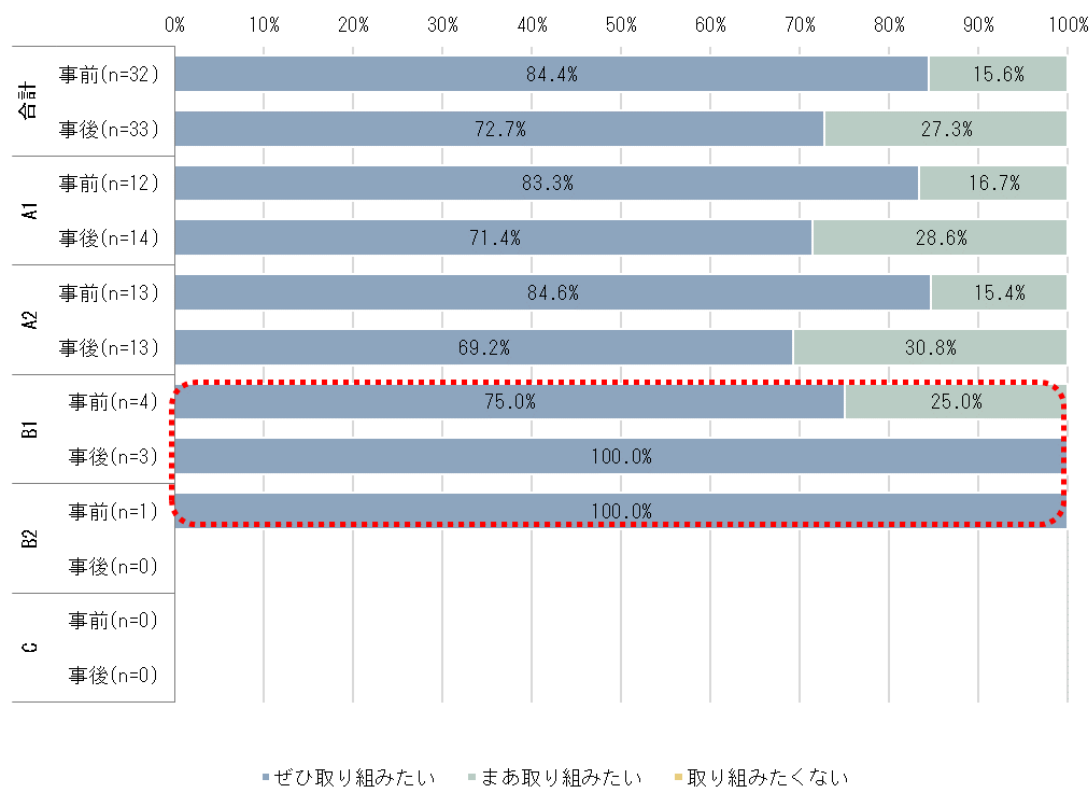
- 日本語教育機関責任者からみたプログラムの難易度別の自機関は日本語教育の環境が質的・量的に整っているかについては、初級において、事前・事後で「非常に高い」と「高い」を合わせた割合が増加（80.0%→88.9%）している。



【今後もオンライン教育に取り組んでいきたいか】

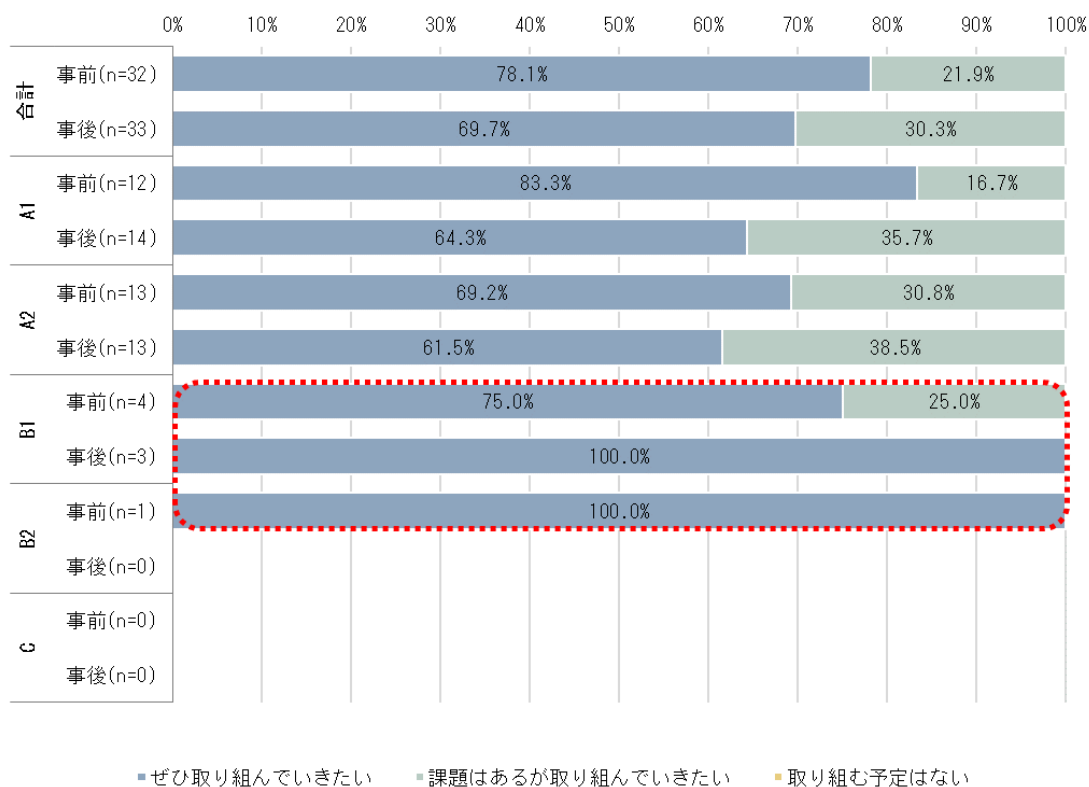
(初期アウトカム)

- 日本語教育機関責任者からみたプログラムの難易度別の今後もオンライン教育に取り組んでいきたいかについては、中級において、事前・事後で、「ぜひ取り組みたい」が増加（80.0%→100%）している。



【オンラインによる日本語学習機会の提供を今後も積極的に取り組むべきか】
(初期アウトカム)

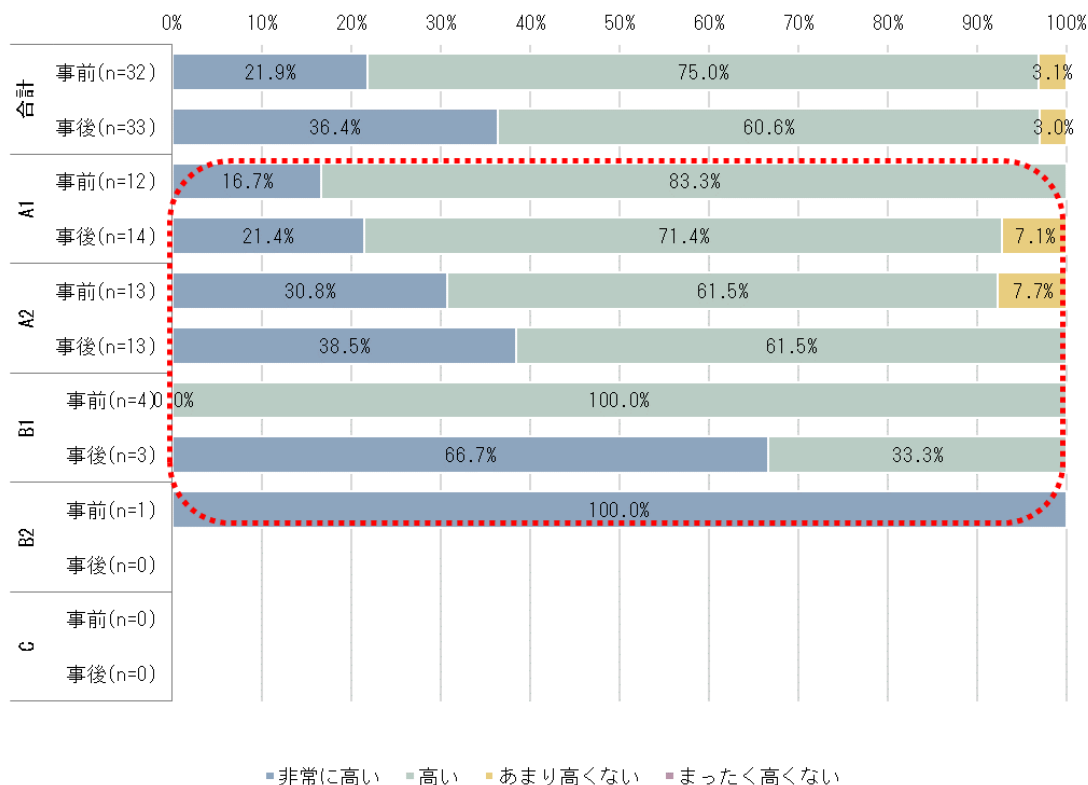
- 日本語教育機関責任者からみたプログラムの難易度別のオンラインによる日本語学習機会の提供を今後積極的に取り組むべきかについては、中級において、事前・事後で、「ぜひ取り組んでいきたい」が増加（80.0%→100%）している。



【外国人の日本留学の動機は高いか／高まったか】

(中間アウトカム)

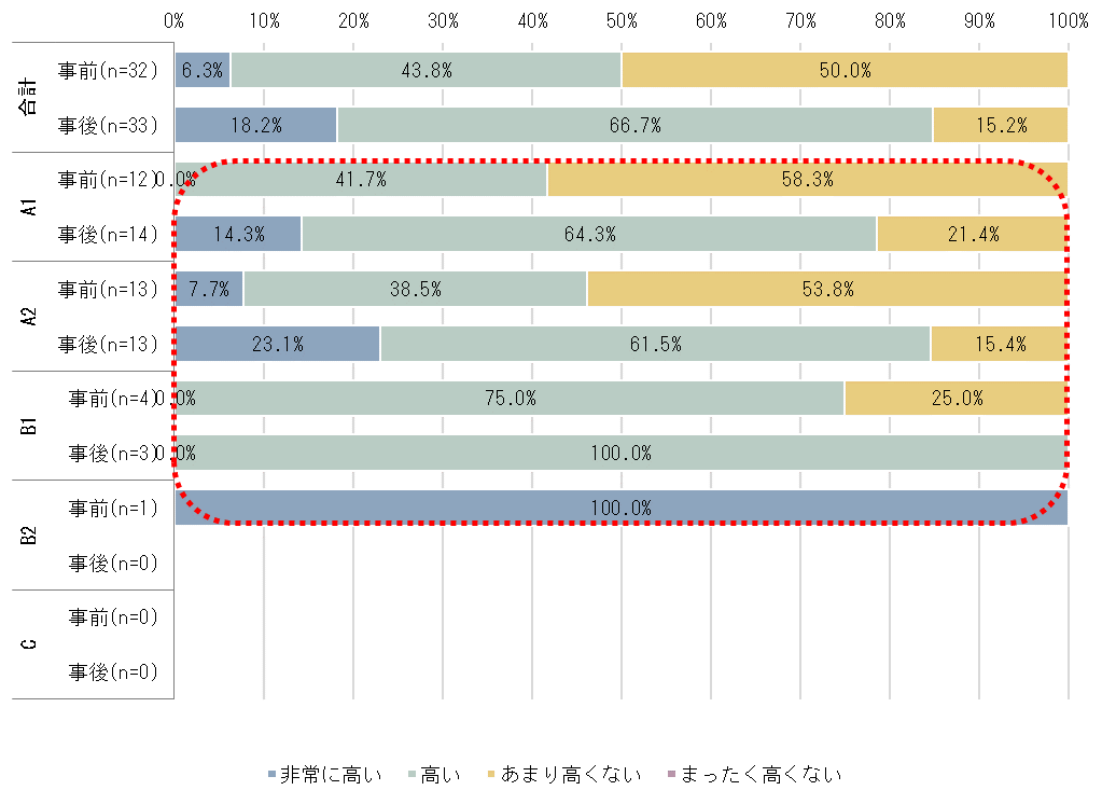
- 日本語教育機関責任者からみたプログラムの難易度別の外国人の日本留学の動機については、いずれのレベルにおいても、事前・事後で「非常に高い」が増加（初級：24.0%→29.6%、中級：20.0%→66.7%）している。



【外国人の日本語能力は高いか／高まったか】

(中間アウトカム)

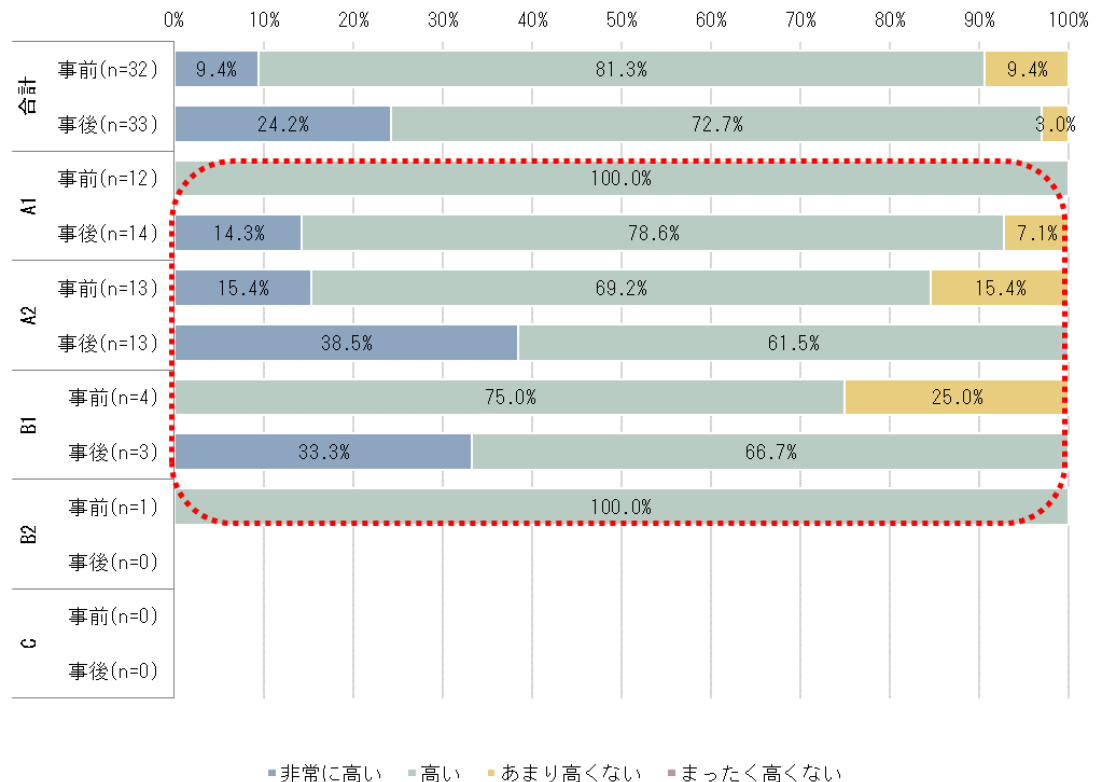
- 日本語教育機関責任者からみたプログラムの難易度別の外国人の日本語能力については、いずれのレベルにおいても、事前・事後で「非常に高い」と「高い」を合わせた割合が大きく増加（初級：44.0%→81.5%、中級：80.0%→100%）している。



【外国人の日本の社会に対する理解や文化に対する関心は高いか／増したか】

(中間アウトカム)

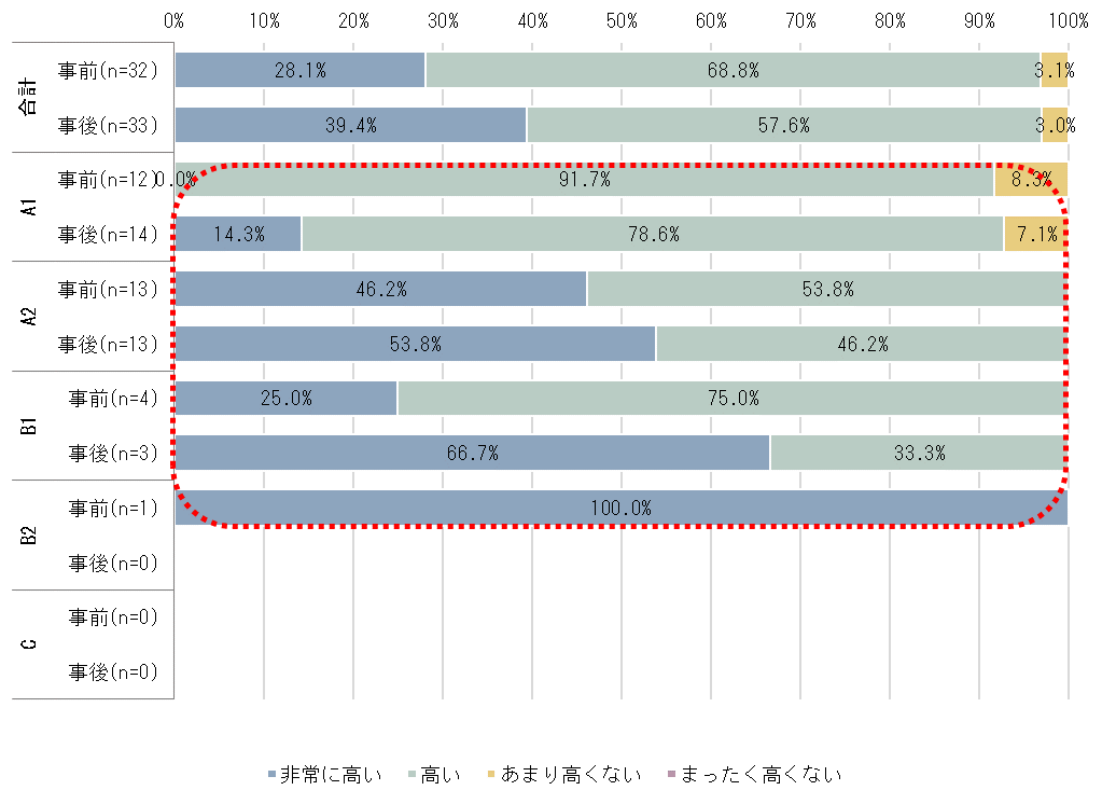
- ・日本語教育機関責任者からみたプログラムの難易度別の外国人の日本の社会に対する理解や文化に対する関心については、いずれのレベルにおいても、事前・事後で、「非常に高い」と「高い」を合わせた割合が増加（初級：92.0%→96.3%、中級：80.0%→100%）している。



【外国人の日本に対する好感度は高いか／増したか】

(中間アウトカム)

- 日本語教育機関責任者からみたプログラムの難易度別の外国人の日本に対する好感度については、いずれのレベルにおいても、事前・事後で、「非常に高い」が増加（初級：24.0%→33.3%、中級：40.0%→66.7%）している。



4. 事業報告会の実施概要

(1) 中間報告会の開催について

① 日時

令和4年11月16日（水）9：30～12：35

② 実施方法

オンライン会議（zoom）

③ 議題

（1）実証事業全体の進捗について

①実証事業全体の状況について

②事前アンケート結果について

③実証事業における各日本語教育機関の取組について

（2）自主事業の進捗について

④ 参加者

- ・日本語教育機関 30 校
- ・委員（有識者）3 名

(2) 最終報告会の開催について

① 日時

令和5年2月28日（火）15：00～17：00

② 実施方法

オンライン会議（zoom）

③ 議題

（1）事業全体について

（2）自主事業について

・日本語教師研修について

・モデル開発等事業について

（3）実証事業について

・グッドプラクティスの報告

・ロジックモデルの検証（参加者アンケート結果）

（4）実証事業における象徴的な事例の紹介

④ 参加者

- ・日本語教育機関 30 校
- ・委員（有識者）3 名
- ・一般参加者 18 名

おわりに

1. オンライン日本語教育への期待と提言

(1) 言語活動別、レベル別、手法別でのオンライン日本語教育の可能性

① 話す（やり取り）

本事業では、オンデマンドの事前学習を導入し、授業において学習者同士の会話練習等の運用練習に力を入れた学校が複数校あり、やり取り（コミュニケーション）の能力の向上が確認されている。

オンライン授業では、学習者同士の会話練習において zoom のブレイクアウトルーム機能を活用する等、教室での対面授業と同様の学習環境を整えている学校がみられた。さらに、zoom の投票機能等を活用した相互評価や、オンラインで簡単に対応ができる動画撮影機能を活用した動画比較で、やり取りの能力評価をする取組等もみられた。

ハイブリッド授業では、教室で授業を受けている学習者に対して、オンラインで参加している学習者が取り残されてしまうことが課題となる中で、教室学習者とオンライン学習者がペアとなって学習する等の工夫や、母国参加者へのフォロー体制をつくること等により、ハイブリッドに参加するオンライン学習者も取り残されず、効果的に学習できることが確認された。

「話す（やり取り）」では、オンデマンドを活かした反転授業により、効果的な教育が行われることが示唆された。また、オンラインの機能を活用することで対面と同水準の授業を行えるだけでなく、オンラインならではのインタラクティブ性や動画撮影のしやすさを活かして、授業中の相互評価の見える化や、動画を用いた学習者へのフィードバック等が期待される。

② 話す（発表）

本事業では、「話す（発表）」の学習について、対面授業と同じ水準に向けて、例文等を活用した短文章の作成とその発表に留まる学校が多かった。中には、オンライン授業内での練習機会やフィードバックを経て発表をする等、授業カリキュラム全体にわたり計画的な取組を行う学校もあったが、オンラインならではの取組までは見られなかった。有識者からは、オンラインの録画のしやすさを活かした学習者へのフィードバック、複数名の教師による評価、授業以外での個人学習での活用等の可能性が指摘された。

「話す（発表）」では、「話す（やり取り）」と同様に、オンラインならではの動画撮影のしやすさを活かし、発表動画を活用した複数教師での評価、自身での修正・練習等の自主学習への活用等が期待される。

③ 聞く

本事業では、「聞く」の学習において、オンデマンドの事前学習を導入する学校

が複数校みられた。予習・復習用としてオリジナルの動画制作を行う学校もあり、字幕「有り」「無し」の両方をセットしたオリジナル動画教材を制作し、学習者の「聞く」の学習進度に合わせて字幕有無の選択をできる学習方法を取り入れる学校もあった。こうした事前学習により「聞く」の能力の向上が認められるとともに、授業では発話を中心に行う等、他の言語活動も含め総合的な技能向上への効果もみられた。

オンラインでは、ボランティアのゲストスピーカーに話をしてもらおう試みがあった。有識者からはオンラインの利点として、教室にはわざわざ来てもらえないボランティア等、様々な人からの協力が得られることがあげられた。

「聞く」では、オンデマンド教材の事前学習、自主学習等の導入により効果的な学習に繋がることが示唆されたことから、日本語学校で活用できる動画等のオンデマンド教材の開発が求められる。また、オンライン参加の利便性を活かし、ゲストスピーカーを呼ぶ機会を増やすことで、生の日本語の聞き取り能力を高めるとともに、日本社会・文化への理解を広げていくことが期待される。

④ 読む

本事業では、「読む」の学習について、対面授業と同じ水準に向けた音読、読解やシャドーウィング等の実施に留まる学校が多かった。オンライン上のペアワークで読み合い、学習者同士の相互評価（ピアラーニング）を取り入れた学校や、B1以上の中上級レベルで新聞コラムを活用した読解を行う学校もあったが、オンラインならではの取組までは見られなかった。有識者からは、オンライン授業において、対面授業と変わらない水準を保つこと自体が難しい場面が多い中で、各学校で工夫をして水準を保っていることへの評価があった。

⑤ 書く

本事業では、「書く」の学習において、AI 学習アプリのコンテンツを制作し、自主学習として導入することで、文字の定着を確認した学校があった。また、オンラインホワイトボード機能、タブレット・タブレットペン等、様々な ICT の活用がみられるとともに、SNS、zoom のチャット機能等を活用して、日本語入力のお機会をつくる学校もあった。有識者からは、ICT を活用した書き方の指導への取組や、日本語の文字入力に慣れる機会ができていることに対して評価があった。

「書く」では、対面授業に比べてオンラインでの指導に課題を持つ学校もある中で、ICT 等を活用することで対面と同水準の授業を行えることがわかった。文字をスマホやタブレットの画面に書いて学習するアプリ等も増えてきている中で、これらを活用することで効果的な学習に繋がることが示唆された。日本語学習用のコンテンツが少ないことから開発が期待される。

⑥ 言語活動共通（モチベーション維持、母語サポート、余白時間等）

本事業の言語活動共通での取組として、母語話者によるサポートを導入した学校がみられた。通常母国で行う初期授業を、本事業にて実施する学校も多かった中で、

初期授業での母国語サポートは有用とする意見が多かった。また、オンラインでは授業以外の余白の時間が無いため、対面授業の休憩時間にできていた教師・生徒間での会話等によりフォローアップ機会が少なくなりがちであることや、オンライン授業の欠席の気軽さからの学習者のモチベーションの維持が課題となったが、このような課題への対応としても、学習者の進捗確認、フォロー、出席確認、また機材トラブルによる対応等で母語サポートが活躍していた。母語サポートは対面授業で来てもらうことに比べて、オンラインでの参加はハードルが低いことから、今後も、オンライン日本語教育でうまく活用していくことが期待される。

オンライン授業においては、対面・通学でできていた生徒間同士の交流が少なくなることも課題として聞かれる中で、本事業では、SNS でクラスグループを作成して交流をする等の取組がみられた。日本語教師研修においても、有識者から、オンライン交流ツール等が色々と開発されていることが紹介されており、これらのツールを上手く活用していくことが期待される。

(2) 日本語教育の参照枠への対応

日本語教育の参照枠への対応として、日本語教師研修のアンケートにおいて、参照枠を活用していた日本語教師は 8%に留まっていた。留学において JLPT 評価が根拠あることを理由として、まだ対応を開始できていない学校が多くあり、本事業で開始する学校が多かった。

can-do による自己評価、教師評価に取り組んだ学校においては、自己評価をすることに対し、学習者が意義を見出すことができず、続けてもらうこと自体に苦勞していた。日本語教師の参照枠への取組を推進していくとともに、学習者に対しても、自律学習の必要性も含めて理解を促進していくことが必要である。

(3) 留学生のためのオンライン日本語教育の可能性

本事業では、オンライン日本語教育を体験することで、事前・事後で日本への留学を志望する人が増加し（85.0%→88.1%）、日本に住み続けたい人も増加している（87.8%→91.3%）。日本への留学を希望する学習者が多いため、元の数値も高いものの、オンライン日本語によりその希望が高くなっている。

今回事業に参加した学習者のほとんど（9割強）において日本語ができるようになったと考えており、日本語教師の8割弱が外国人の日本語能力が向上したと考えている。

(1) のとおり、言語活動別、レベル別、手法別でもオンライン日本語教育は、対面授業に比べても遜色なく、一部の言語活動ではより効果的な指導もできている。

入国前の留学生に対し、事前の日本語教育の形でオンライン日本語教育を実施した学校からは、入国前の双方の理解、日本語話者の指導による教育の充実等の面において効果等が実感され、今後継続した取組に繋げていく学校もみられた。一方で、日本人講師が指導をすることによる授業単価等から、今後の継続において学習者の費用負担等を課題とする学校もみられた。留学の学習時間への位置づけを進めること等により、学習者の費用負担への納得感等も得られるのではないかと考える。

(4) 生活者等のためのオンライン日本語教育の可能性

本事業では、一般コースとして、中国からの子どもの留学等を対象とした親子コース（将来的に日本にいる外国人親子への授業の展開も検討）、ウクライナ避難民に対するオンライン日本語教育等が実施された。今後、生活者としての外国人を対象としたオンライン日本語教育を検討する日本語学校がいる中で、オンラインの特性を活かし、日本語教育の空白地域に住む外国人に対して提供していくことが期待される。加えて、本事業をきっかけとして日本語学校が蓄積したオンライン日本語教育のノウハウを、地域の日本語教室へ共有する等、連携して空白地域解消の取組を進めていくことも重要である。

また、本実証事業では、オンライン・プライベートレッスンの日本語教師と学習者の予約マッチングのシステム化に取り組む学校があり、システム化等により時差に縛られずに世界中の学習者に日本語教育が提供できる可能性が示唆された。オンライン英会話（オンライン・プライベートレッスンでの英会話教育）の市場が成長している中で、日本語教育のオンライン・プライベートレッスンへの取組は少ない。日本への留学生を増やすために、海外在住の日本語学習者の裾野を広げていく必要があることから、海外どこにいても気軽に日本語学習を始めるきっかけとしてのオンライン・プライベートレッスンの推進が期待される。

(5) 就労のためのオンライン日本語教育の可能性

本事業では、最終的に介護現場での就労を目指す留学希望者を対象としたコースや、母国で働きながら勉強をする人の多いコース等があった。

就労者においては、時間・場所の面から日本語学校に通うことが難しいことから、オンライン日本語教育の活用が大変期待される。オンデマンドや録画授業視聴とオンライン授業等を組合せることにより、時間・場所等を理由として断念していた就労者への学習機会を設けることが求められている。

本事業に参加した日本語学校には、企業から委託を受け就労者、就労予定者へのオンライン日本語教育を経験している日本語学校があった。オンラインでの教育により、時間・場所等での対応がしやすいことから、企業・日本語学校双方にとって連携がしやすいものとなっていた。企業連携での日本語教育は、これまでは技術・人文・国際業務、高度人材、企業内転勤、定住者等を対象とすることが多かったが、特定技能2号への移行が本格的に始まる中で、技能実習生や特定技能人材においてもキャリアアップを希望する人への日本語学習フォローが必要になると考えられる。企業、監理団体、登録支援機関等と日本語学校が連携し、就労者へのオンライン日本語教育を推進していくことが重要である。

(6) 日本語教師におけるオンライン日本語教育・ICT 活用のスキル向上

本事業では、オンライン日本語教育に本格的に取り組むことで日本語教師のオンライン日本語教育におけるスキル向上が確認された。事前・事後アンケートにおいて

も、日本語教師の教授能力・スキルの高さが 52.6%→69.3%と大きく増加し、日本語教師の 7 割が教授能力・スキルが向上したと回答している。

本事業に参加した日本語教師の 9 割強が今後もオンライン日本語教育に取り組んでいきたいと考えており、研修の開催、教育に関する ICT ツールの情報共有等、日本語教師におけるオンライン日本語教育・ICT 活用のスキル向上に対する継続した支援が求められる。

また、本事業でオンライン日本語教育を実証するにあたり、日本語教師研修による教師のスキル向上を行ったことにより、スムーズにオンライン授業に取り組むことができた。前述のとおり、オンライン日本語教育は、今後様々な場面で必要とされ、日本語教師において非常に重要なスキルとなることから、日本語教師の養成・研修の場において、オンライン日本語教育・ICT 活用に関する教育を行う必要がある。

(7) 日本語教育機関におけるオンライン・ICT 活用環境の整備

本事業では、オンライン日本語教育に本格的に取り組むことでオンライン日本語教育の環境の整備が確認された。事前・事後アンケートでは、日本語教育機関管理者の 9 割が日本語教育の環境が質的・量的に整ったと回答している。一方で、日本語教師においては、日本語教育の環境の充実に関する指標が下がるとともに、環境が質的・量的に整ったと回答した人も約 7 割となっている。オンライン日本語教育に取り組むことで、環境整備への新たなニーズ等が発生したものと考えられる。

本事業においては、アジア圏における学習者の多くがスマホから参加していることでの不便さや、母国での通信状況の不安定さ等を課題とする学校も多くみられた。先進的な学校においては、本事業以前よりオンデマンドを導入し、学習者（入国した留学生）へのタブレットの貸与等の取組も見られており、日本語学校において学習者への環境整備等も併せて検討していく必要がある。

また、(4)、(5) でも記載したとおり、オンライン日本語教育への対応により、海外学習者、企業連携、地域連携等、日本語学校の事業拡大が期待できることから、先進事例の横展開や、関連するオンライン・オンデマンド設備投資への支援等も検討していく必要がある。

2. 今後に向けて

(1) 学習者へのオンライン日本語教育の周知

今後、オンライン日本語教育を推進していくためには、学習者へのオンライン学習の周知も平行して進めていく必要がある。コロナ禍を契機として、学習者においてオンライン日本語教育への理解は進んだが、緊急的な対応と捉えている人も多いものとする。今後、オンライン日本語を継続して進めるにあたって、アジアの学習者のオンライン日本語に対する費用負担の難しさを課題とする日本語学校もあった。

一方で、本事業に参加した学習者では、学習者のオンライン日本語教育の志望度（ぜひしたかった／ぜひ続けたい）が、事前・事後で 48.8%→53.8%と増加している。オンライン日本語教育の魅力を高め、付加価値をつけるとともに、その内容を、実際に体験することや体験事例等も交えて、学習者に周知しながら、オンライン日本語の学習者を開拓していくことが重要である。

(2) オンライン学習教材の開発

オンライン日本語教育を進めるにあたり、日本語学校からは、教材の手配の難しさ、著作権の関係によるオンライン・オンデマンド等の補助教材の作成の難しが多く聞かれた。そのような背景から、本事業ではオンデマンド用の動画教材、アプリコンテンツを1から制作する学校があり、これらの教材をもとにしたオンデマンド学習においては、「聞く」「書く」を中心に高い学習効果が得られたが、1から制作することへの教師の負担が大きく、継続していくことが課題となっている。

オンライン日本語教育の質を高めていくためにも、日本語学校が活用しやすいオンライン・オンデマンド学習教材の開発を推進していくことが重要である。

(3) 地域、企業とオンライン日本語教育実施機関とのマッチング

日本語学校のオンライン日本語教育等への対応により、地域連携、企業連携等への広がりが期待される。

地域連携では、日本語教育の空白地域におけるオンライン日本語学習の推進が考えられるが、生活者としての外国人向けの日本語学習において、自治体等が日本語学校での活動について把握していない場合も多いことから、オンライン日本語学習が必要な地域と、生活者としての外国人向けへの日本語教育に興味を持つ日本語学校の双方の情報を集約し、マッチングしていくことが重要である。

企業連携では、従業員への日本語教育をフォローしたいと考える企業が増加すると考えられることから、まずはそうした企業に対し、日本語学校の存在・活用を知ってもらうことが重要である。また、具体的な相談を検討する企業に対し、就労者向けのオンライン日本語教育等を実施する日本語学校の情報を提供できるように自治体の産業労働担当部署とも連携した体制を作ることが考えられる。

(4) ICTを活用した自律的かつ継続的な日本語学習

日本語学習者が、多様な背景を持ち、多様な目的・プロセスで日本語を学習する中で、自律的かつ継続的な学習を進めるために、場面・場面で学習の記録や、学習を支

援した日本語教師等の教師評価等が共有できることが重要である。オンデマンド・オンライン教材の今後の開発においては、学習の記録や評価について相互読み込みをしやすくするとともに、自己評価・教師評価等を共通したアセスメントとしてデジタル記録することにより、新たな学習場面での日本語教師や、生活環境・就労環境で関係する人において共有しやすくなることが重要である。

参照枠に基づく日本語能力自己評価ツール、生活者としての外国人の日本語学習ポートフォリオ等が整備されていることから、学習者、日本語教師、学習者の周囲の人々への周知・活用を推進するとともに、活用しやすいシステム（アプリ）の検討等も考えられる。

「おわりに」については、三菱 UFJ リサーチ&コンサルティングが、実証結果、実証期間中の日本語学校へのヒアリング、評価委員会及び報告会における有識者意見等を元にとりまとめ、当事業に参画した日本語学校、有識者（有識者名簿は p4）に確認いただきました。

(文化庁委託事業)
ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業
事業報告書

令和5年2月

三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社